

II. 調查結果

II. 調査結果

1. 政策の満足度、県政への要望調査

県の政策や県政運営に係る項目について、県民の満足度と要望を探った。

調査項目は、県の総合計画である「元気とやま創造計画ーとやま新時代へ 新たな挑戦ー(平成30年6月)の政策を中心に、計73項目を設定した。また、その73項目を「経済対策・産業振興など」、「少子化対策・地域づくりなど」、「医療福祉、環境保全、防災対策など」、「人材の育成」、「県政運営」の5区分に大別し、さらに分析にあたっては、「産業」、「交流・物流」、「まちづくり・観光」、「子育て・教育」、「県民活動」、「地域づくり」、「健康・福祉」、「環境」、「安全・安心」、「人づくり」、「県政」の11領域に編成した。

なお、分析では、満足度の評価は「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた数値を、反対に不満度の評価は「不満である」と「どちらかといえば不満である」を合わせた数値をそれぞれの評価の尺度(指標)としている。

(1) 政策の満足度

問1 あなたは県の政策に対してどの程度満足していますか。以下の項目それぞれについて、右の欄の1～5の中からあなたの満足度合いに最も近いものを1つ選んでください。

ア. 満足度の高い施策

- ・「14. 北陸新幹線の整備促進」が46.1%と最も高く、次いで「54. 水資源の保全と活用」が31.5%、「50. 職の安全確保と地産地消・食育の推進」が30.7%となっている。
- ・「62. 住環境の整備」は、24.5%と前回調査よりも1.5ポイント上昇し、15位から9位となっている。
- ・「50. 食の安全確保と地産地消・食育の推進」、「62. 住環境の整備」、「41. 自然、歴史、伝統文化などの地域の魅力の継承・再発見」以外の上位10項目は、前回調査よりも満足度が低くなっている。

図表1. 政策の満足度(上位10項目)全体

単位:%

順位	区分	領域	項目	満足度	前回
1	経済対策・産業振興など	交流・物流	14. 北陸新幹線の整備促進	46.1	50.5 (1位)
2	医療福祉、環境保全、防止対策など	環境	54. 水資源の保全と活用	31.5	33.4 (2位)
3	医療福祉、環境保全、防止対策など	健康・福祉	50. 食の安全確保と地産地消・食育の推進	30.7	29.9 (3位)
4	経済対策・産業振興など	交流・物流	16. 利便性の高い道路ネットワークの整備	28.1	28.7 (4位)
5	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	25. 子育て支援	26.3	28.2 (6位)
6	医療福祉、環境保全、防止対策など	健康・福祉	46. 医療提供体制の充実	26.0	28.1 (7位)
7	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	26. 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	25.9	27.6 (8位)
8	経済対策・産業振興など	交流・物流	15. 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	25.2	27.6 (8位)
9	医療福祉、環境保全、防止対策など	安全・安心	62. 住環境の整備	24.5	23.0 (15位)
10	少子化対策・地域づくりなど	地域づくり	41. 自然、歴史、伝統文化など地域の魅力の継承・再発見	24.0	23.2 (13位)
	医療福祉、環境保全、防止対策など	環境	52. 自然環境の保全	24.0	24.9 (10位)

【時系列比較】

図表2. 政策の満足度(上位5項目の時系列比較)

単位:%

順位	H29	H30	R1	R2	R3
1	北陸新幹線の整備促進 52.8	北陸新幹線の整備促進 46.0	北陸新幹線の整備促進 45.8	北陸新幹線の整備促進 50.5	北陸新幹線の整備促進 46.1
2	水資源の保全と活用 32.3	水資源の保全と活用 30.2	食の安全確保と地産地消・食育の推進 29.7	水資源の保全と活用 33.4	水資源の保全と活用 31.5
3	芸術文化の振興 30.6	食の安全確保と地産地消・食育の推進 28.1	水資源の保全と活用 27.6	食の安全確保と地産地消・食育の推進 29.9	食の安全確保と地産地消・食育の推進 30.7
4	雪に強いまちづくり 27.9	子育て支援 24.6	新幹線駅を核とした交流拠点づくり 25.3	利便性の高い道路ネットワークの整備 28.7	利便性の高い道路ネットワークの整備 28.1
5	食の安全確保と地産地消・食育の推進 26.7	新幹線駅を核とした交流拠点づくり 24.5	スポーツの振興 24.7	雪に強いまちづくり 28.3	子育て支援 26.3

イ. 不満度の高い施策

- ・「59. 雪に強いまちづくり」が55.3%と最も高く、次いで「21. 中心市街地の賑わい創出」が48.5%、「8. 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり」が40.5%となっている。
- ・「59. 雪に強いまちづくり」は、55.3%と前回の27.9%から27.4ポイント上昇し、15位から1位となっている。

図表3. 政策の不満度(上位10項目)

単位:%

順位	区分	領域	項目	不満度	前回
1	医療福祉・環境保全、 防災対策など	安全・安心	59. 雪に強いまちづくり	55.3	27.9 (15位)
2	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	21. 中心市街地の賑わい創出	48.5	46.0 (1位)
3	経済対策・産業振興など	産業	8. 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	40.5	39.0 (2位)
4	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	20. 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	39.1	37.4 (4位)
5	県政運営	県政	71. スピード重視の県政	38.9	38.6 (3位)
6	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	19. 選ばれ続ける観光地づくり	36.3	33.5 (7位)
7	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	23. 富山のブランドカアアップ	36.0	33.8 (6位)
8	経済対策・産業振興など	産業	10. 雇用の確保と人材の育成	33.7	31.7 (10位)
	県政運営	県政	69. オープンで分かりやすい県政	33.7	32.6 (9位)
10	県政運営	県政	72. 現場重視で効率的な県政	33.3	33.5 (7位)

図表4. 政策の不満度(上位5項目の時系列比較)

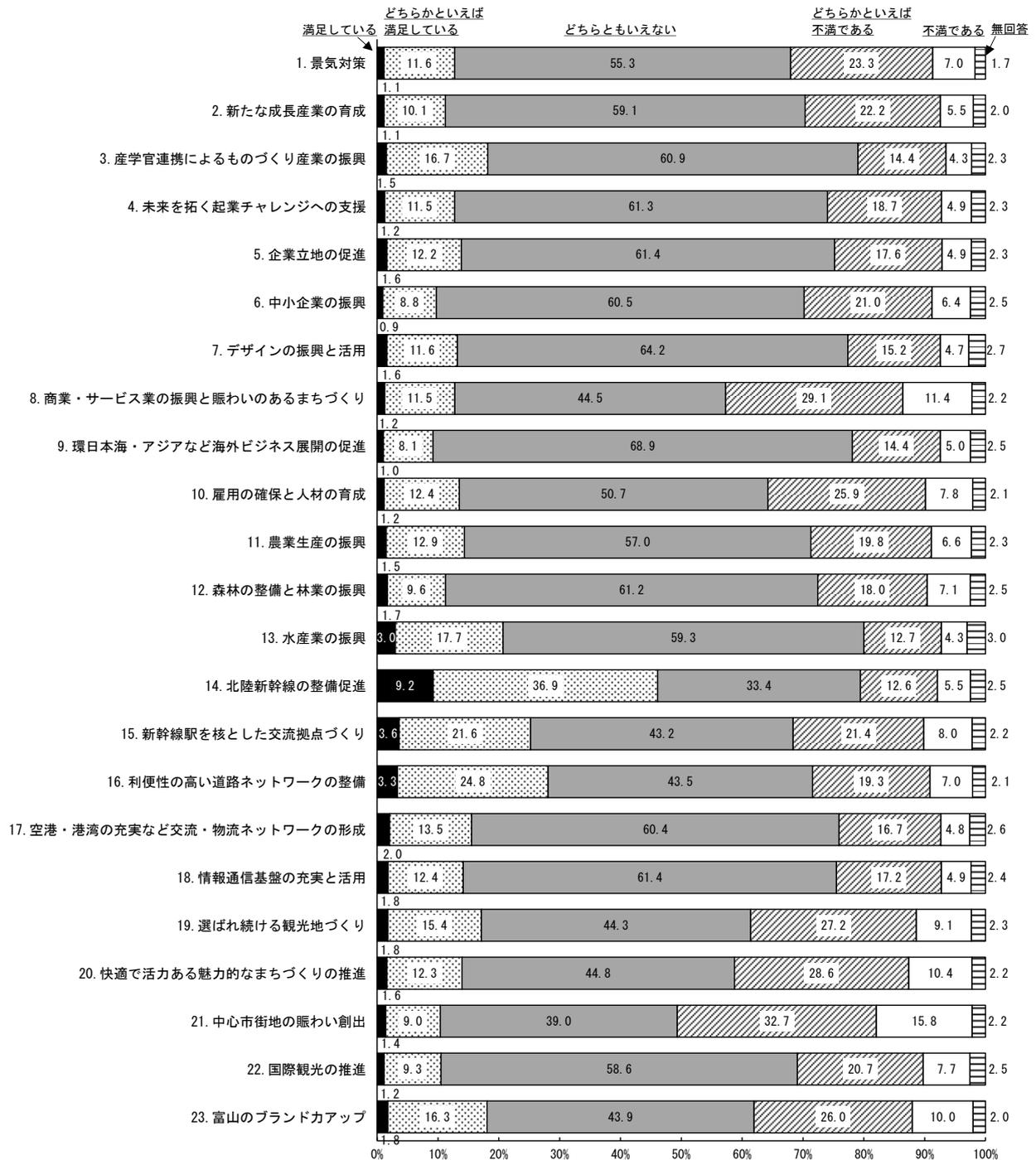
単位:%

H29	H30	R1	R2	R3
中心市街地の賑わい創出 44.6	中心市街地の賑わい創出 44.4	中心市街地の賑わい創出 48.1	中心市街地の賑わい創出 46.0	雪に強いまちづくり 55.3
選ばれ続ける観光地づくり 36.5	雪に強いまちづくり 41.4	快適で活力ある魅力的な まちづくりの推進 38.0	商業・サービス業の振興と 賑わいのあるまちづくり 39.0	中心市街地の賑わい創出 48.5
商業・サービス業の振興と 賑わいのあるまちづくり 35.6	快適で活力ある魅力的な まちづくりの推進 36.3	商業・サービス業の振興と 賑わいのあるまちづくり 37.8	スピード重視の県政 38.6	商業・サービス業の振興と 賑わいのあるまちづくり 40.5
快適で活力ある魅力的な まちづくりの推進 34.4	商業・サービス業の振興と 賑わいのあるまちづくり 35.0	選ばれ続ける観光地づくり 34.5	快適で活力ある魅力的な まちづくりの推進 37.4	快適で活力ある魅力的な まちづくりの推進 39.1
富山のブランドカアアップ 32.9	選ばれ続ける観光地づくり 33.8	雇用の確保と人材の育成 32.2	「とやまから日本を 変える」改革と創造 34.7	スピード重視の県政 38.9

図表5. 政策の満足度(分野別)

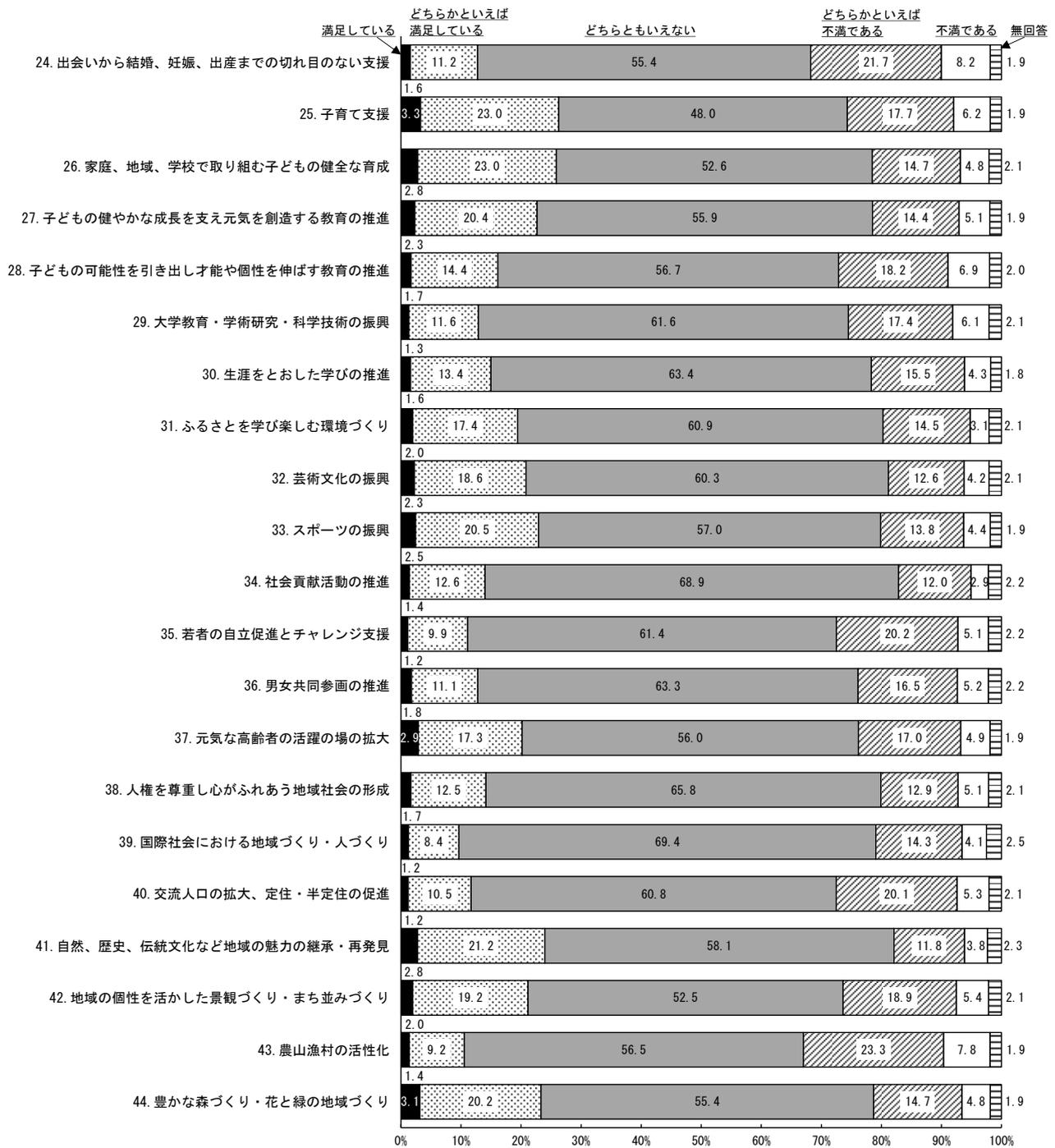
単位: %

【経済対策・産業振興など】



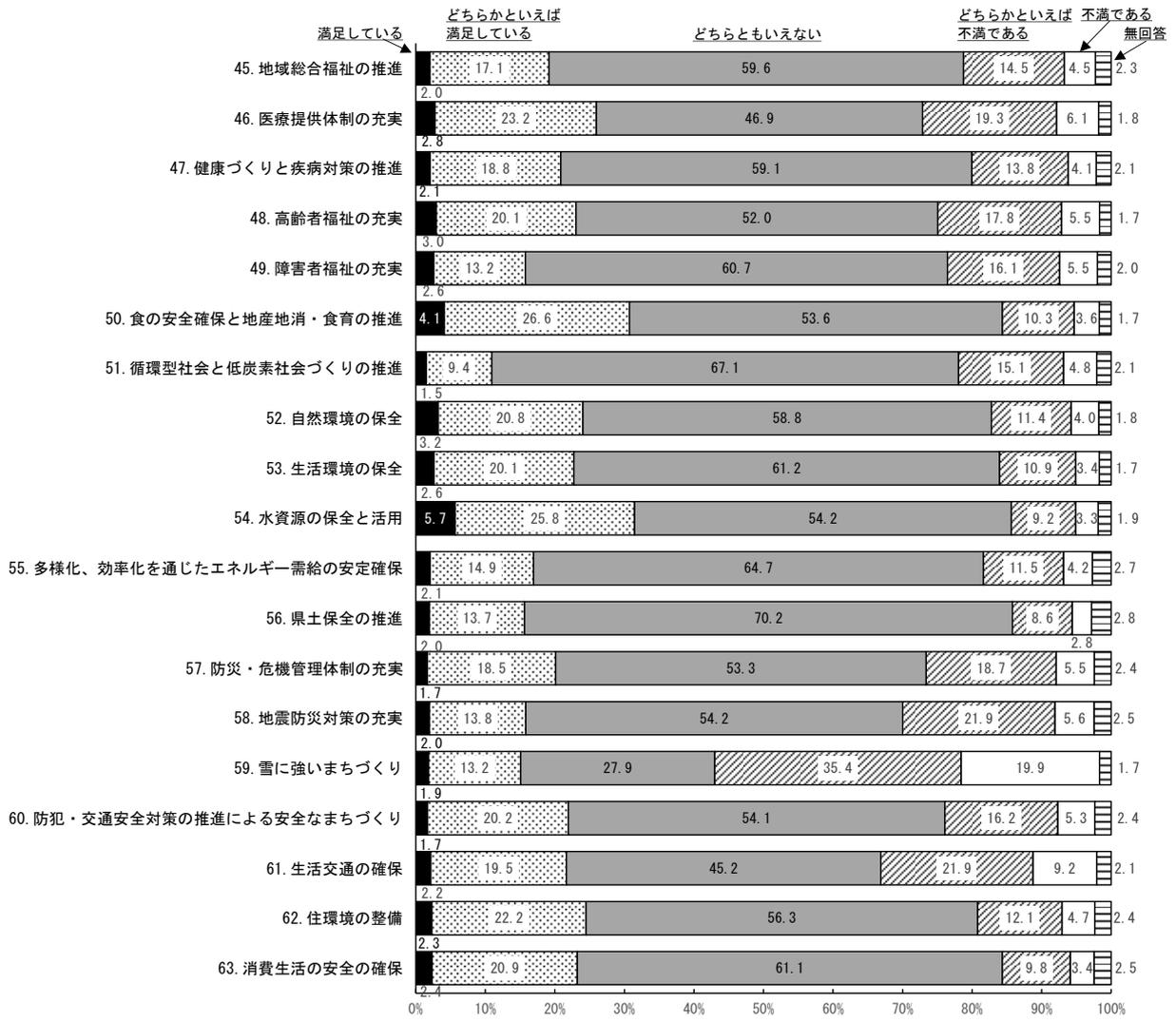
満足している
 どちらかといえば満足している
 どちらともいえない
 どちらかといえば不満である
 不満である
 無回答

【少子化対策・地域づくりなど】



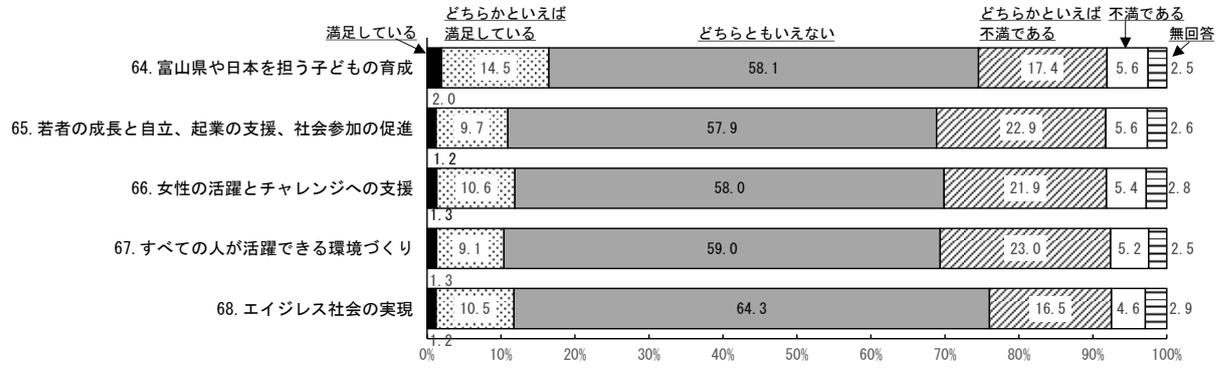
満足している
 どちらかといえば満足している
 どちらともいえない
 どちらかといえば不満である
 不満である
 無回答

【医療福祉、環境保全、防災対策など】



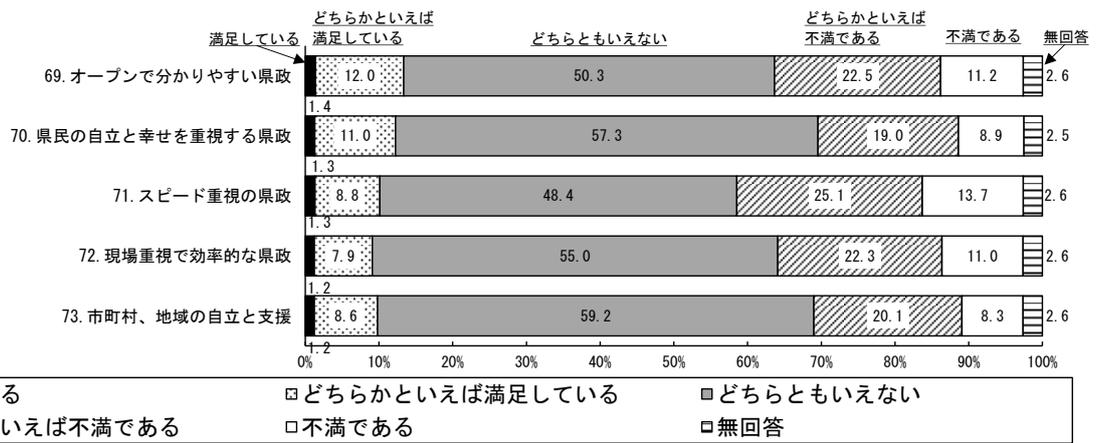
満足している どちらかといえば満足している どちらともいえない
 どちらかといえば不満である 不満である 無回答

【人づくり】



満足している どちらかといえば満足している どちらともいえない
 どちらかといえば不満である 不満である 無回答

【県政運営】



(2) 属性別に見る政策の満足度

ア. 政策の満足度

(ア) 性別

- ・「男性」、「女性」とともに「14. 北陸新幹線の整備促進」が最も高くなっている。
- ・「50. 食の安全確保と地産地消・食育の推進」は、「男性」28.0%に対して「女性」が33.1%と5.1ポイント、「25. 子育て支援」は「男性」21.2%に対して「女性」が30.7%と「女性」が9.5ポイント高くなっている。
- ・「女性」は、県平均(全体)では12位(23.3%)の「44. 豊かな森づくり・花と緑の地域づくり」が7位(25.5%)となっている。

図表6. 満足度(上位10項目)の男女比較

単位:%

順位	区分	領域	項目	全体	男性	女性	男女差 (女性-男性)
1	経済対策・産業振興など	交流・物流	14. 北陸新幹線の整備促進	46.1	47.4	45.2	▲ 2.2
2	医療福祉・環境保全、 防止対策など	環境	54. 水資源の保全と活用	31.5	31.7	31.6	▲ 0.1
3	医療福祉・環境保全、 防止対策など	健康・福祉	50. 食の安全確保と地産地消・食育の推進	30.7	28.0	33.1	5.1
4	経済対策・産業振興など	交流・物流	16. 利便性の高い道路ネットワークの整備	28.1	29.1	27.6	▲ 1.5
5	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	25. 子育て支援	26.3	21.2	30.7	9.5
6	医療福祉・環境保全、 防止対策など	健康・福祉	46. 医療提供体制の充実	26.0	26.6	25.5	▲ 1.1
7	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	26. 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	25.9	23.9	27.8	3.9
8	経済対策・産業振興など	交流・物流	15. 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	25.2	25.5	25.4	▲ 0.1
9	医療福祉・環境保全、 防止対策など	安全・安心	62. 住環境の整備	24.5	24.3	24.7	0.4
10	少子化対策・地域づくりなど	地域づくり	41. 自然、歴史、伝統文化など地域の魅力の継承・再発見	24.0	22.8	25.3	2.5
	医療福祉・環境保全、 防止対策など	環境	52. 自然環境の保全	24.0	23.0	24.9	1.9

図表7 男女別の政策の満足度(上位10項目)

単位:%

男性			女性		
順位	項目	満足度	順位	項目	満足度
1	14. 北陸新幹線の整備促進	47.4	1	14. 北陸新幹線の整備促進	45.2
2	54. 水資源の保全と活用	31.7	2	50. 食の安全確保と地産地消・食育の推進	33.1
3	16. 利便性の高い道路ネットワークの整備	29.1	3	54. 水資源の保全と活用	31.6
4	50. 食の安全確保と地産地消・食育の推進	28.0	4	25. 子育て支援	30.7
5	46. 医療提供体制の充実	26.6	5	26. 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	27.8
6	15. 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	25.5	6	16. 利便性の高い道路ネットワークの整備	27.6
7	62. 住環境の整備	24.3	7	44. 豊かな森づくり・花と緑の地域づくり	25.5
8	26. 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	23.9		46. 医療提供体制の充実	25.5
9	52. 自然環境の保全	23.0	9	15. 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	25.4
10	41. 自然、歴史、伝統文化など地域の魅力の継承・再発見	22.8	10	41. 自然、歴史、伝統文化など地域の魅力の継承・再発見	25.3

※県平均(全体)の上位10項目にない項目は網掛け

(イ)年齢別

- ・すべての年代で「14. 北陸新幹線の整備促進」が最も高く、「18、19歳」、「20～29歳」では5割以上、それ以外の年代でも4割以上が満足と回答している。
- ・「18、19歳」は、県平均(全体)では26位(19.4%)の「31. ふるさとを学び楽しむ環境づくり」が4位(52.0%)、県平均では48位(13.2%)の「7. デザインの振興と活用」が6位(48.0%)となっているなど、県平均(全体)で上位10位以内に入っていない項目が6項目入っている。
- ・「20～29歳」は、県平均(全体)の上位10項目すべてで県平均(全体)よりも高くなっている。また、「20～29歳」は、県平均(全体)では24位(20.2%)の「37. 元気な高齢者の活躍の場の拡大」が9位(32.3%)となっているなど、県平均(全体)の上位10位以内に入っていない項目が3項目入っている。
- ・「30～39歳」、「40～49歳」は、県平均(全体)では16位(22.7%)の「27. 子どもの健やかな成長を支え元気を創造する教育の推進」がそれぞれ8位(27.9%)、6位(27.6%)となっている。
- ・「50～59歳」は、県平均(全体)では15位(22.9%)の「33. スポーツの振興」が10位(21.4%)となっている。
- ・「60～69歳」は、県平均(全体)では13位(23.2%)の「63. 消費生活の安全の確保」が7位(24.4%)となっている。
- ・「70歳以上」は、県平均(全体)では14位(23.0%)の「48. 高齢者福祉の充実」が4位(27.7%)、県平均(全体)では18位(21.9%)の「60. 防犯・交通安全対策の推進による安全なまちづくり」が9位(25.5%)、県平均(全体)では21位(20.9%)の「47. 健康づくりと疾病対策の推進」が10位(25.4%)となっているなど、県平均(全体)で上位10位以内に入っていない項目が4項目入っている。

図表8. 満足度(上位10項目)の年齢比較

単位: %

順位	区分	領域	項目	全体	18、19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	経済対策・産業振興など	交流・物流	14. 北陸新幹線の整備促進	46.1	64.0	53.3	45.0	47.3	47.5	44.8	42.8
2	医療福祉・環境保全、防止対策など	環境	54. 水資源の保全と活用	31.5	56.0	35.4	32.1	33.1	29.8	25.8	32.1
3	医療福祉・環境保全、防止対策など	健康・福祉	50. 食の安全確保と地産地消・食育の推進	30.7	48.0	41.0	36.3	33.3	26.4	26.3	27.4
4	経済対策・産業振興など	交流・物流	16. 利便性の高い道路ネットワークの整備	28.1	20.0	36.7	29.2	27.3	27.1	27.5	26.2
5	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	25. 子育て支援	26.3	28.0	28.4	32.5	32.8	25.1	22.7	22.1
6	医療福祉・環境保全、防止対策など	健康・福祉	46. 医療提供体制の充実	26.0	32.0	30.6	26.7	19.4	22.4	23.2	30.9
7	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	26. 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	25.9	40.0	30.1	29.6	30.9	21.7	19.3	25.2
8	経済対策・産業振興など	交流・物流	15. 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	25.2	52.0	33.6	24.2	23.8	26.1	25.8	21.9
9	医療福祉・環境保全、防止対策など	安全・安心	62. 住環境の整備	24.5	40.0	31.9	22.1	22.4	18.4	24.9	25.9
10	少子化対策・地域づくりなど	地域づくり	41. 自然、歴史、伝統文化など地域の魅力の継承・再発見	24.0	60.0	33.6	20.0	22.4	22.4	22.1	23.7
	医療福祉・環境保全、防止対策など	環境	52. 自然環境の保全	24.0	48.0	32.3	25.0	24.0	21.4	19.8	23.4

※県平均(全体)よりも高い項目は網掛け

図表9 年齢別の政策の満足度(上位10項目)

単位:%

18、19歳

順位	項目	満足度
1	14. 北陸新幹線の整備促進	64.0
2	41. 自然、歴史、伝統文化など地域の魅力の継承・再発見	60.0
3	54. 水資源の保全と活用	56.0
4	15. 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	52.0
	31. ふるさとを学び楽しむ環境づくり	52.0
6	7. デザインの振興と活用	48.0
	13. 水産業の振興	48.0
	44. 豊かな森づくり・花と緑の地域づくり	48.0
	50. 食の安全確保と地産地消・食育の推進	48.0
	52. 自然環境の保全	48.0
	53. 生活環境の保全	48.0
	61. 生活交通の確保	48.0

20～29歳

順位	項目	満足度
1	14. 北陸新幹線の整備促進	53.3
2	50. 食の安全確保と地産地消・食育の推進	41.0
3	16. 利便性の高い道路ネットワークの整備	36.7
4	54. 水資源の保全と活用	35.4
5	15. 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	33.6
	41. 自然、歴史、伝統文化など地域の魅力の継承・再発見	33.6
7	13. 水産業の振興	32.8
	44. 豊かな森づくり・花と緑の地域づくり	32.8
9	37. 元気な高齢者の活躍の場の拡大	32.3
	52. 自然環境の保全	32.3

30～39歳

順位	項目	満足度
1	14. 北陸新幹線の整備促進	45.0
2	50. 食の安全確保と地産地消・食育の推進	36.3
3	25. 子育て支援	32.5
4	54. 水資源の保全と活用	32.1
5	26. 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	29.6
	44. 豊かな森づくり・花と緑の地域づくり	29.6
7	16. 利便性の高い道路ネットワークの整備	29.2
8	27. 子どもの健やかな成長を支え元気を創造する教育の推進	27.9
9	13. 水産業の振興	27.1
10	46. 医療提供体制の充実	26.7

40～49歳

順位	項目	満足度
1	14. 北陸新幹線の整備促進	47.3
2	50. 食の安全確保と地産地消・食育の推進	33.3
3	54. 水資源の保全と活用	33.1
4	25. 子育て支援	32.8
5	26. 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	30.9
6	27. 子どもの健やかな成長を支え元気を創造する教育の推進	27.6
7	16. 利便性の高い道路ネットワークの整備	27.3
8	33. スポーツの振興	24.0
	52. 自然環境の保全	24.0
10	15. 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	23.8

50～59歳

順位	項目	満足度
1	14. 北陸新幹線の整備促進	47.5
2	54. 水資源の保全と活用	29.8
3	16. 利便性の高い道路ネットワークの整備	27.1
4	50. 食の安全確保と地産地消・食育の推進	26.4
5	15. 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	26.1
6	25. 子育て支援	25.1
7	46. 医療提供体制の充実	22.4
	41. 自然、歴史、伝統文化など地域の魅力の継承・再発見	22.4
9	26. 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	21.7
10	33. スポーツの振興	21.4
	52. 自然環境の保全	21.4

60～69歳

順位	項目	満足度
1	14. 北陸新幹線の整備促進	44.8
2	16. 利便性の高い道路ネットワークの整備	27.5
3	50. 食の安全確保と地産地消・食育の推進	26.3
4	54. 水資源の保全と活用	25.8
	15. 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	25.8
6	62. 住環境の整備	24.9
7	63. 消費生活の安全の確保	24.4
8	46. 医療提供体制の充実	23.2
9	25. 子育て支援	22.7
10	41. 自然、歴史、伝統文化など地域の魅力の継承・再発見	22.1

70歳以上

順位	項目	満足度
1	14. 北陸新幹線の整備促進	42.8
2	54. 水資源の保全と活用	32.1
3	46. 医療提供体制の充実	30.9
4	48. 高齢者福祉の充実	27.7
5	50. 食の安全確保と地産地消・食育の推進	27.4
6	16. 利便性の高い道路ネットワークの整備	26.2
	63. 消費生活の安全の確保	26.2
8	62. 住環境の整備	25.9
9	60. 防犯・交通安全対策の推進による安全なまちづくり	25.5
10	47. 健康づくりと疾病対策の推進	25.4

※県平均(全体)の上位10項目にない項目は網掛け

(ウ) 地域別

- ・すべての地域で「14. 北陸新幹線の整備促進」が最も高く、「高岡地域」の35.0%を除く3地域では5割前後となっている。
- ・「富山地域」は、県平均(全体)では12位(23.3%)の「44. 豊かな森づくり・花と緑の地域づくり」が9位(23.3%)となっている。
- ・「高岡地域」は、県平均(全体)では16位(22.7%)の「27. 子どもの健やかな成長を支え元気を創造する教育の推進」が9位(22.3%)となっている。
- ・「魚津地域」は、県平均(全体)では15位(22.9%)の「33. スポーツの振興」が9位(26.4%)、県平均(全体)では18位(21.9%)の「60. 防犯・交通安全対策の推進による安全なまちづくり」が10位(26.2%)となっているなど、県平均(全体)で上位10位以内に入っていない項目が4項目入っている。
- ・「砺波地域」は、県平均(全体)では14位(23.0%)の「48. 高齢者福祉の充実」が9位(30.5%)となっている。

図表 10 満足度(上位10項目)の地域比較

単位: %

順位	区分	領域	項目	全体	富山地域	高岡地域	魚津地域	砺波地域
1	経済対策・産業振興など	交流・物流	14. 北陸新幹線の整備促進	46.1	51.9	35.0	49.0	49.8
2	医療福祉・環境保全、 防止対策など	環境	54. 水資源の保全と活用	31.5	31.6	26.6	38.0	33.1
3	医療福祉・環境保全、 防止対策など	健康・福祉	50. 食の安全確保と地産地消・食育の推進	30.7	29.0	31.1	33.7	31.0
4	経済対策・産業振興など	交流・物流	16. 利便性の高い道路ネットワークの整備	28.1	28.8	22.5	29.1	38.9
5	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	25. 子育て支援	26.3	24.0	25.5	30.5	29.7
6	医療福祉・環境保全、 防止対策など	健康・福祉	46. 医療提供体制の充実	26.0	25.7	23.1	27.6	32.2
7	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	26. 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	25.9	23.3	25.3	29.1	31.4
8	経済対策・産業振興など	交流・物流	15. 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	25.2	31.6	17.2	24.8	25.1
9	医療福祉・環境保全、 防止対策など	安全・安心	62. 住環境の整備	24.5	26.4	19.2	26.0	29.7
10	少子化対策・地域づくりなど	地域づくり	41. 自然、歴史、伝統文化など地域の魅力の継承・再発見	24.0	21.7	25.9	21.6	31.0
	医療福祉・環境保全、 防止対策など	環境	52. 自然環境の保全	24.0	22.5	22.3	29.1	25.1

※県平均(全体)よりも高い項目は網掛け

図表 11. 地域別の政策の満足度(上位 10 項目)

単位:%

富山地域

順位	項目	満足度
1	14. 北陸新幹線の整備促進	51.9
2	15. 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	31.6
	54. 水資源の保全と活用	31.6
4	50. 食の安全確保と地産地消・食育の推進	29.0
5	16. 利便性の高い道路ネットワークの整備	28.8
6	62. 住環境の整備	26.4
7	46. 医療提供体制の充実	25.7
8	25. 子育て支援	24.0
9	44. 豊かな森づくり・花と緑の地域づくり	23.3
10	26. 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	23.3

高岡地域

順位	項目	満足度
1	14. 北陸新幹線の整備促進	35.0
2	50. 食の安全確保と地産地消・食育の推進	31.1
3	54. 水資源の保全と活用	26.6
4	41. 自然、歴史、伝統文化など地域の魅力の継承・再発見	25.9
5	25. 子育て支援	25.5
6	26. 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	25.3
7	46. 医療提供体制の充実	23.1
8	16. 利便性の高い道路ネットワークの整備	22.5
9	27. 子どもの健やかな成長を支え元気を創造する教育の推進	22.3
	52. 自然環境の保全	22.3

魚津地域

順位	項目	満足度
1	14. 北陸新幹線の整備促進	49.0
2	54. 水資源の保全と活用	38.0
3	50. 食の安全確保と地産地消・食育の推進	33.7
4	25. 子育て支援	30.5
5	16. 利便性の高い道路ネットワークの整備	29.1
	26. 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	29.1
	52. 自然環境の保全	29.1
8	46. 医療提供体制の充実	27.6
9	33. スポーツの振興	26.4
10	53. 生活環境の保全	26.2
	60. 防犯・交通安全対策の推進による安全なまちづくり	26.2
	63. 消費生活の安全の確保	26.2

砺波地域

順位	項目	満足度
1	14. 北陸新幹線の整備促進	49.8
2	16. 利便性の高い道路ネットワークの整備	38.9
3	54. 水資源の保全と活用	33.1
4	46. 医療提供体制の充実	32.2
5	26. 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	31.4
	44. 豊かな森づくり・花と緑の地域づくり	31.4
7	41. 自然、歴史、伝統文化など地域の魅力の継承・再発見	31.0
	50. 食の安全確保と地産地消・食育の推進	31.0
9	48. 高齢者福祉の充実	30.5
10	25. 子育て支援	29.7
	62. 住環境の整備	29.7

※県平均(全体)の上位 10 項目にない項目は網掛け

イ. 政策の不満足

(ア) 性別

- ・上位 10 項目すべての項目で、「男性」が「女性」と比べて高くなっている。
- ・「男性」、「女性」とともに「59. 雪に強いまちづくり」が5割以上と最も高くなっている。
- ・「72. 現場重視で効率的な県政」は「男性」が 37.9%に対し、「女性」が 29.5%と「男性」が 8.4 ポイント高くなっている。
- ・「女性」は、上位 10 項目に県平均（全体）では 12 位（31.1%）の「61. 生活交通の確保」が 9 位（30.9%）に入っている。

図表 12 不満足(上位 10 項目)の男女比較

単位：%

順位	区分	領域	項目	全体	男性	女性	男女差 (女性-男性)
1	医療福祉、環境保全、 防災対策など	安全・安心	59. 雪に強いまちづくり	55.3	58.3	53.0	▲ 5.3
2	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	21. 中心市街地の賑わい創出	48.5	50.7	46.6	▲ 4.1
3	経済対策・産業振興など	産業	8. 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	40.5	43.1	38.4	▲ 4.7
4	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	20. 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	39.1	40.6	37.4	▲ 3.2
5	県政運営	県政	71. スピード重視の県政	38.9	40.9	37.0	▲ 3.9
6	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	19. 選ばれ続ける観光地づくり	36.3	38.7	34.1	▲ 4.6
7	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	23. 富山のブランドカアアップ	36.0	39.2	33.0	▲ 6.2
8	経済対策・産業振興など	産業	10. 雇用の確保と人材の育成	33.7	36.8	31.1	▲ 5.7
	県政運営	県政	69. オープンで分かりやすい県政	33.7	36.9	30.8	▲ 6.1
10	県政運営	県政	72. 現場重視で効率的な県政	33.3	37.9	29.5	▲ 8.4

図表 13 男女別の政策の不満足(上位 10 項目)

単位：%

男性			女性		
順位	項目	不満足	順位	項目	不満足
1	59. 雪に強いまちづくり	58.3	1	59. 雪に強いまちづくり	53.0
2	21. 中心市街地の賑わい創出	50.7	2	21. 中心市街地の賑わい創出	46.6
3	8. 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	43.1	3	8. 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	38.4
4	71. スピード重視の県政	40.9	4	20. 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	37.4
5	20. 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	40.6	5	71. スピード重視の県政	37.0
6	23. 富山のブランドカアアップ	39.2	6	19. 選ばれ続ける観光地づくり	34.1
7	19. 選ばれ続ける観光地づくり	38.7	7	23. 富山のブランドカアアップ	33.0
8	72. 現場重視で効率的な県政	37.9	8	10. 雇用の確保と人材の育成	31.1
9	69. オープンで分かりやすい県政	36.9	9	61. 生活交通の確保	30.9
10	10. 雇用の確保と人材の育成	36.8	10	69. オープンで分かりやすい県政	30.8

※県平均(全体)の上位 10 項目にない項目は網掛け

(イ) 年齢別

- ・「18、19歳」、「70歳以上」を除くすべての年代で「59. 雪に強いまちづくり」が5割以上で最も高くなっている。
- ・「18、19歳」は、「71. スピード重視の県政」が40.0%と最も高くなっている。また、県平均(全体)では36位(23.4%)の「29. 大学教育・学術研究・科学技術の振興」が5位(28.0%)、県平均(全体)では45位(21.5%)の「17. 空港・港湾の充実など交流・物流ネットワークの形成」が9位(24.0%)となっているなど、県平均(全体)で上位10位以内に入っていない項目が6項目入っている。
- ・「20～29歳」は、県平均(全体)では14位(29.9%)の「24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援」が6位(31.9%)、県平均(全体)では16位(28.5%)の「65. 若者の成長と自立、起業の支援、社会参加の促進」が7位(31.0%)となっている。
- ・「30～39歳」は、県平均(全体)では20位(28.0%)の「70. 県民の自立と幸せを重視する県政」が7位(40.8%)となっている。
- ・「50～59歳」は、県平均(全体)では13位(30.3%)の「1. 景気対策」が6位(37.8%)、県平均(全体)では12位(31.1%)の「61. 生活交通の確保」が10位(34.1%)となっている。
- ・「60～69歳」は、県平均(全体)では11位(31.1%)の「43. 農山漁村の活性化」が7位(38.2%)、県平均(全体)では31位(25.1%)の「12. 森林の整備と林業の振興」が9位(37.7%)となっている。
- ・「70歳以上」は、「21. 中心市街地の賑わい創出」が48.1%と最も高くなっている。県平均(全体)では11位(31.1%)の「農山漁村の活性化」が4位(37.6%)、25位(26.4%)の「11. 農業生産の振興」が7位(33.2%)、県平均(全体)では31位(25.1%)の「12. 森林の整備と林業の振興」が9位(31.0%)となっているなど、県平均(全体)で上位10位以内に入っていない項目が4項目入っている。

図表 14 不満度(上位10項目)の年齢比較

単位: %

順位	区分	領域	項目	全体	18、19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	医療福祉、環境保全、防災対策など	安全・安心	59. 雪に強いまちづくり	55.3	32.0	53.7	64.6	62.8	58.9	59.5	45.5
2	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	21. 中心市街地の賑わい創出	48.5	24.0	35.8	51.3	50.0	53.8	51.6	48.1
3	経済対策・産業振興など	産業	8. 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	40.5	20.0	35.8	39.2	37.2	47.2	45.6	39.5
4	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	20. 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	39.1	32.0	30.6	40.4	41.8	39.1	43.9	37.6
5	県政運営	県政	71. スピード重視の県政	38.9	40.0	37.6	53.3	49.2	37.5	36.8	29.6
6	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	19. 選ばれ続ける観光地づくり	36.3	28.0	34.5	45.4	36.9	40.5	38.2	30.6
7	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	23. 富山のブランド力アップ	36.0	36.0	29.3	40.0	36.6	36.8	40.2	33.7
8	経済対策・産業振興など	産業	10. 雇用の確保と人材の育成	33.7	12.0	25.3	35.8	35.0	36.8	39.7	31.5
	県政運営	県政	69. オープンで分かりやすい県政	33.7	28.0	31.0	42.9	42.6	32.8	35.4	25.7
10	県政運営	県政	72. 現場重視で効率的な県政	33.3	20.0	30.1	45.8	41.5	34.1	34.3	24.6

※県平均(全体)よりも高い項目は網掛け

図表 15 年齢別の政策の不満度(上位 10 項目)

単位: %

18、19歳

順位	項目	不満度
1	71. スピード重視の県政	40.0
2	23. 富山のブランドカアップ	36.0
3	20. 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	32.0
	59. 雪に強いまちづくり	32.0
5	19. 選ばれ続ける観光地づくり	28.0
	29. 大学教育・学術研究・科学技術の振興	28.0
	65. 若者の成長と自立、起業の支援、社会参加の促進	28.0
	69. オープンで分かりやすい県政	28.0
9	16. 利便性の高い道路ネットワークの整備	24.0
	17. 空港・港湾の充実など交流・物流ネットワークの形成	24.0
	21. 中心市街地の賑わい創出	24.0
	40. 交流人口の拡大、定住・半定住の促進	24.0
	57. 防災・危機管理体制の充実	24.0

20～29歳

順位	項目	不満度
1	59. 雪に強いまちづくり	53.7
2	71. スピード重視の県政	37.6
3	8. 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	35.8
	21. 中心市街地の賑わい創出	35.8
5	19. 選ばれ続ける観光地づくり	34.5
6	24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	31.9
7	65. 若者の成長と自立、起業の支援、社会参加の促進	31.0
	69. オープンで分かりやすい県政	31.0
9	20. 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	30.6
10	72. 現場重視で効率的な県政	30.1

30～39歳

順位	項目	不満度
1	59. 雪に強いまちづくり	64.6
2	71. スピード重視の県政	53.3
3	21. 中心市街地の賑わい創出	51.3
4	72. 現場重視で効率的な県政	45.8
5	19. 選ばれ続ける観光地づくり	45.4
6	69. オープンで分かりやすい県政	42.9
7	70. 県民の自立と幸せを重視する県政	40.8
8	20. 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	40.4
9	23. 富山のブランドカアップ	40.0
10	8. 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	39.2

40～49歳

順位	項目	不満度
1	59. 雪に強いまちづくり	62.8
2	21. 中心市街地の賑わい創出	50.0
3	71. スピード重視の県政	49.2
4	69. オープンで分かりやすい県政	42.6
5	20. 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	41.8
6	72. 現場重視で効率的な県政	41.5
7	8. 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	37.2
8	19. 選ばれ続ける観光地づくり	36.9
9	23. 富山のブランドカアップ	36.6
10	10. 雇用の確保と人材の育成	35.0

50～59歳

順位	項目	不満度
1	59. 雪に強いまちづくり	58.9
2	21. 中心市街地の賑わい創出	53.8
3	8. 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	47.2
4	19. 選ばれ続ける観光地づくり	40.5
5	20. 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	39.1
6	1. 景気対策	37.8
7	71. スピード重視の県政	37.5
8	10. 雇用の確保と人材の育成	36.8
	23. 富山のブランドカアップ	36.8
10	61. 生活交通の確保	34.1
	72. 現場重視で効率的な県政	34.1

60～69歳

順位	項目	不満度
1	59. 雪に強いまちづくり	59.5
2	21. 中心市街地の賑わい創出	51.6
3	8. 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	45.6
4	20. 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	43.9
5	23. 富山のブランドカアップ	40.2
6	10. 雇用の確保と人材の育成	39.7
7	19. 選ばれ続ける観光地づくり	38.2
	43. 農山漁村の活性化	38.2
9	12. 森林の整備と林業の振興	37.7
10	71. スピード重視の県政	36.8

70歳以上

順位	項目	不満度
1	21. 中心市街地の賑わい創出	48.1
2	59. 雪に強いまちづくり	45.5
3	8. 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	39.5
4	20. 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	37.6
	43. 農山漁村の活性化	37.6
6	23. 富山のブランドカアップ	33.7
7	11. 農業生産の振興	33.2
8	10. 雇用の確保と人材の育成	31.5
9	12. 森林の整備と林業の振興	31.0
10	19. 選ばれ続ける観光地づくり	30.6
	24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	30.6

※県平均(全体)の上位 10 項目にない項目は網掛け

(ウ) 地域別

- ・「59. 雪に強いまちづくり」は、「砺波地域」(39.7%)を除くすべての地域で5割以上と最も高くなっている。
- ・「富山地域」は、「59. 雪に強いまちづくり」が59.3%と他の地域と比べ、最も高くなっている。
- ・「高岡地域」は、上位10項目に県平均(全体)では15位(29.4%)の「15. 新幹線駅を核とした交流拠点づくり」が5位(40.9%)となっている。
- ・「魚津地域」は、県平均(全体)では11位(31.1%)の「43. 農山漁村の活性化」が5位(36.3%)となっている。
- ・「砺波地域」は、「21. 中心市街地の賑わい創出」が42.7%と最も高くなっている。また、県平均(全体)では14位(29.9%)の「24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援」が7位(31.4%)となっているなど、県平均(全体)で上位10位以内に入っていない項目が3項目入っている。

図表 16 不満度(上位10項目)の地域比較

単位: %

順位	区分	領域	項目	全体	富山地域	高岡地域	魚津地域	砺波地域
1	医療福祉、環境保全、防災対策など	安心・安全	59. 雪に強いまちづくり	55.3	59.3	56.7	53.8	39.7
2	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	21. 中心市街地の賑わい創出	48.5	46.0	55.5	46.4	42.7
3	経済対策・産業振興など	産業	8. 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	40.5	36.9	45.8	40.9	38.9
4	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	20. 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	39.1	37.3	44.4	37.7	33.5
5	県政運営	県政	71. スピード重視の県政	38.9	42.2	38.4	36.3	32.6
6	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	19. 選ばれ続ける観光地づくり	36.3	37.3	38.6	36.3	26.4
7	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	23. 富山のブランドカアップ	36.0	36.6	37.3	34.9	31.8
8	経済対策・産業振興など	産業	10. 雇用の確保と人材の育成	33.7	34.3	35.8	32.5	28.5
	県政運営	県政	69. オープンで分かりやすい県政	33.7	37.7	34.2	29.1	25.9
10	県政運営	県政	72. 現場重視で効率的な県政	33.3	35.0	32.8	31.5	31.4

※県平均(全体)よりも高い項目は網掛け

図表 17 地域別の政策の不満度(上位 10 項目)

単位: %

富山地域

順位	項目	不満度
1	59. 雪に強いまちづくり	59.3
2	21. 中心市街地の賑わい創出	46.0
3	71. スピード重視の県政	42.2
4	69. オープンで分かりやすい県政	37.7
5	19. 選ばれ続ける観光地づくり	37.3
	20. 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	37.3
7	8. 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	36.9
8	23. 富山のブランドカアップ	36.6
9	72. 現場重視で効率的な県政	35.0
10	10. 雇用の確保と人材の育成	34.3

高岡地域

順位	項目	不満度
1	59. 雪に強いまちづくり	56.7
2	21. 中心市街地の賑わい創出	55.5
3	8. 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	45.8
4	20. 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	44.4
5	15. 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	40.9
6	19. 選ばれ続ける観光地づくり	38.6
7	71. スピード重視の県政	38.4
8	23. 富山のブランドカアップ	37.3
9	10. 雇用の確保と人材の育成	35.8
10	69. オープンで分かりやすい県政	34.2

魚津地域

順位	項目	不満度
1	59. 雪に強いまちづくり	53.8
2	21. 中心市街地の賑わい創出	46.4
3	8. 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	40.9
4	20. 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	37.7
5	19. 選ばれ続ける観光地づくり	36.3
	43. 農山漁村の活性化	36.3
	71. スピード重視の県政	36.3
8	23. 富山のブランドカアップ	34.9
9	10. 雇用の確保と人材の育成	32.5
10	72. 現場重視で効率的な県政	31.5

砺波地域

順位	項目	不満度
1	21. 中心市街地の賑わい創出	42.7
2	59. 雪に強いまちづくり	39.7
3	8. 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	38.9
4	20. 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	33.5
5	71. スピード重視の県政	32.6
6	23. 富山のブランドカアップ	31.8
7	24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	31.4
	72. 現場重視で効率的な県政	31.4
9	43. 農山漁村の活性化	30.5
10	1. 景気対策	29.7

※県平均(全体)の上位 10 項目にない項目は網掛け

(3) 県政への要望【概要】

問2 問1の項目の1番～68番のうち(※69番～73番の<県政運営>は除きます)、いま、あなたがもつと力を入れてほしいと思っている県の政策はどれですか。5つ以内で選んでください。

- ・「59. 雪に強いまちづくり」が29.0%と最も高く、次いで「1. 景気対策」が16.1%、「46. 医療提供体制の充実」が13.7%となっている。
- ・前回調査では上位10項目に入っていなかった「8. 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり」が7位(11.0%)、「57. 防災・危機管理体制の充実」が10位(9.2%)となっている。

図表18 県政への要望(上位10項目)

単位:%

順位	区分	領域	項目	比率	前回
1	医療福祉、環境保全、防災対策など	安全・安心	59. 雪に強いまちづくり	29.0	13.4(5位)
2	経済対策・産業振興など	産業	1. 景気対策	16.1	20.5(1位)
3	医療福祉、環境保全、防災対策など	健康・福祉	46. 医療提供体制の充実	13.7	15.1(4位)
4	医療福祉、環境保全、防災対策など	健康・福祉	48. 高齢者福祉の充実	13.4	17.1(2位)
5	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	25. 子育て支援	12.8	16.1(3位)
6	人材の育成	人づくり	64. 富山県や日本を担う子どもの育成	11.2	12.6(7位)
7	経済対策・産業振興など	産業	8. 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	11.0	5.7(25位)
8	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	9.6	9.1(10位)
9	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	28. 子どもの可能性を引き出し才能や個性を伸ばす教育の推進	9.2	8.8(11位)
	医療福祉、環境保全、防災対策など	安全・安心	57. 防災・危機管理体制の充実	9.2	12.9(6位)

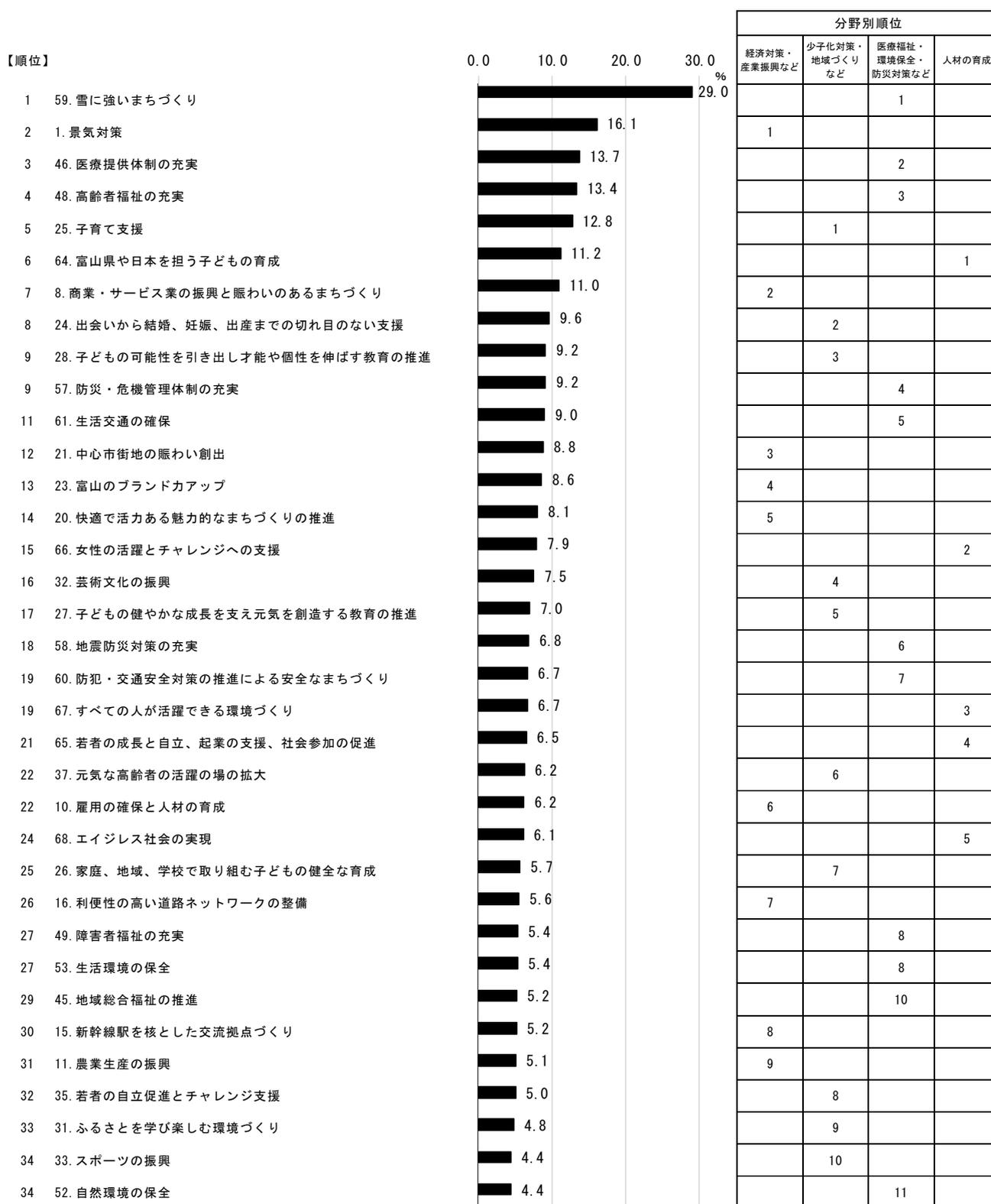
<時系列比較>

図表19 県政への要望(上位5項目の時系列比較)

単位:%

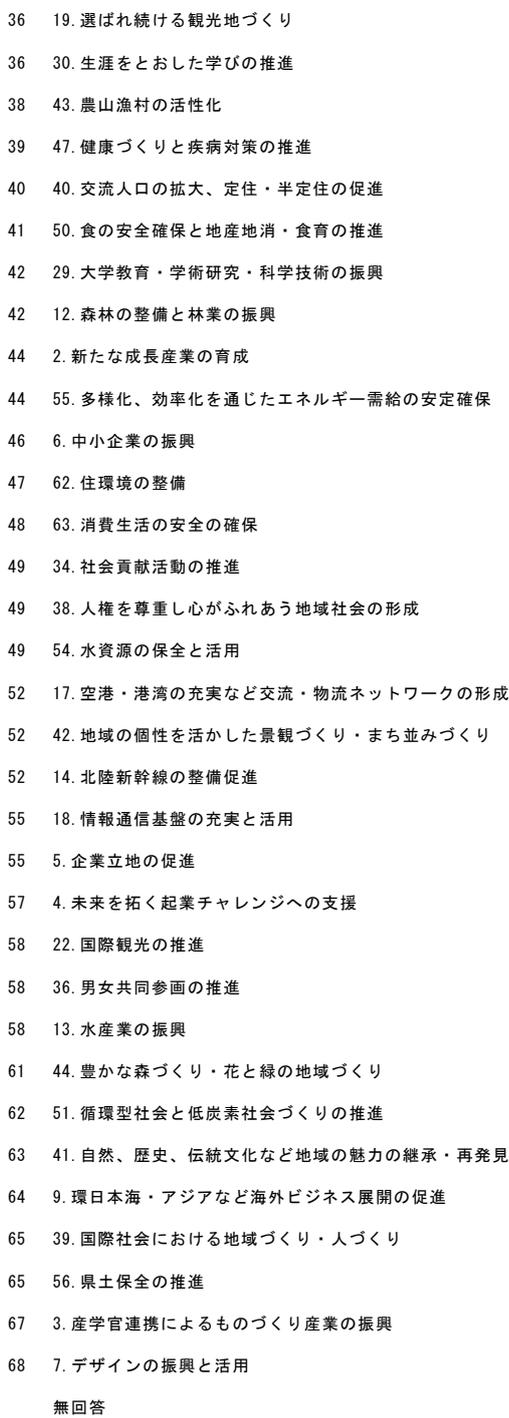
順位	H29	H30	R1	R2	R3
1	景気対策 23.2	雪に強いまちづくり 29.6	雪に強いまちづくり 22.7	景気対策 20.5	雪に強いまちづくり 29.0
2	子育て支援 20.3	景気対策 17.2	景気対策 20.1	高齢者福祉の充実 17.1	景気対策 16.1
3	高齢者福祉の充実 17.9	高齢者福祉の充実 14.5	高齢者福祉の充実 16.5	子育て支援 16.1	医療提供体制の充実 13.7
4	医療体制の充実 15.7	子育て支援 14.0	子育て支援 15.4	医療提供体制の充実 15.1	高齢者福祉の充実 13.4
5	雪に強いまちづくり 14.5	防災・危機管理体制の充実 12.4	医療体制の充実 14.4	雪に強いまちづくり 13.4	子育て支援 12.8

図表 20 県政への要望(N=2,161、M.T.=397.0%、単位:%)



【順位】

0.0 10.0 20.0 30.0 %



分野別順位			
経済対策・ 産業振興など	少子化対策・ 地域づくり など	医療福祉・ 環境保全・ 防災対策など	人材の育成
10			
	11		
	12		
		12	
	13		
		13	
	14		
11			
12			
		14	
13			
		15	
		16	
	15		
	16		
		17	
14			
	17		
15			
16			
17			
18			
19			
	18		
20			
	19		
		18	
	20		
21			
	21		
		19	
22			
23			
-	-	-	-

(4) 属性別に見る県政への要望

ア. 性別

- ・「男性」、「女性」とともに「59. 雪に強いまちづくり」が最も高く、次いで「1. 景気対策」となっている。
- ・「8. 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり」は、「女性」が8.7%に対して「男性」が13.7%と「男性」が5.0ポイント高くなっている。
- ・「男性」は、上位10項目に県平均(全体)では12位(8.8%)の「21. 中心市街地の賑わい創出」が9位(9.3%)、県平均(全体)では13位(8.6%)の「23. 富山のブランドカアップ」が10位(8.6%)となっているなど、県平均(全体)で上位10位以内に入っていない項目が3項目入っている。
- ・「女性」は、上位10項目に県平均(全体)では14位(8.1%)の「20. 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進」が9位(9.8%)、県平均(全体)では11位(9.0%)の「61. 生活交通の確保」が10位(9.3%)となっている。

図表 21 県政への要望(上位10項目)の男女比較

単位: %

順位	区分	領域	項目	全体	男性	女性	男女差 (女性-男性)
1	医療福祉、環境保全、防災対策など	安全・安心	59. 雪に強いまちづくり	29.0	28.1	29.6	1.5
2	経済対策・産業振興など	産業	1. 景気対策	16.1	17.0	15.5	▲ 1.5
3	医療福祉、環境保全、防災対策など	健康・福祉	46. 医療提供体制の充実	13.7	12.6	14.9	2.3
4	医療福祉、環境保全、防災対策など	健康・福祉	48. 高齢者福祉の充実	13.4	12.0	14.7	2.7
5	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	25. 子育て支援	12.8	11.9	13.5	1.6
6	人材の育成	人づくり	64. 富山県や日本を担う子どもの育成	11.2	11.3	11.2	▲ 0.1
7	経済対策・産業振興など	産業	8. 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	11.0	13.7	8.7	▲ 5.0
8	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	9.6	10.7	8.5	▲ 2.2
9	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	28. 子どもの可能性を引き出し才能や個性を伸ばす教育の推進	9.2	7.6	10.6	3.0
	医療福祉、環境保全、防災対策など	安全・安心	57. 防災・危機管理体制の充実	9.2	8.1	9.9	1.8

図表 22 男女別の県政への要望(上位10項目)

単位: %

男性			女性		
順位	項目	比率	順位	項目	比率
1	59. 雪に強いまちづくり	28.1	1	59. 雪に強いまちづくり	29.6
2	1. 景気対策	17.0	2	1. 景気対策	15.5
3	8. 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	13.7	3	46. 医療提供体制の充実	14.9
4	46. 医療提供体制の充実	12.6	4	48. 高齢者福祉の充実	14.7
5	48. 高齢者福祉の充実	12.0	5	25. 子育て支援	13.5
6	25. 子育て支援	11.9	6	64. 富山県や日本を担う子どもの育成	11.2
7	64. 富山県や日本を担う子どもの育成	11.3	7	28. 子どもの可能性を引き出し才能や個性を伸ばす教育の推進	10.6
8	24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	10.7	8	57. 防災・危機管理体制の充実	9.9
9	21. 中心市街地の賑わい創出	9.3	9	20. 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	9.8
10	23. 富山のブランドカアップ	8.6	10	61. 生活交通の確保	9.3
	61. 生活交通の確保	8.6			

※県平均(全体)の上位10項目にない項目は網掛け

イ. 年齢別

- すべての年代で「59. 雪に強いまちづくり」が最も高くなっている。
- 「18、19歳」は、上位10項目に県平均（全体）では13位（8.6%）の「23. 富山のブランド力アップ」が1位（20.0%）、県平均（全体）では21位（6.5%）の「65. 若者の成長と自立、起業の支援、社会参加の促進」が3位（16.0%）となっているなど、県平均（全体）で上位10位以内に入っていない項目が5項目入っている。
- 「20～29歳」は、上位10項目に県平均（全体）では16位（7.5%）の「32. 芸術文化の振興」が3位（13.1%）、県平均（全体）では33位（4.8%）の「31. ふるさとを学び楽しむ環境づくり」が8位（10.0%）となっているなど、県平均（全体）で上位10位以内に入っていない項目が4項目入っている。
- 「30～39歳」は、上位10項目に県平均（全体）では16位（7.5%）の「32. 芸術文化の振興」が3位（17.1%）、県平均（全体）では17位（7.0%）の「27. 子どもの健やかな成長を支え元気を創造する教育の推進」が5位（14.2%）となっているなど、県平均（全体）で上位10位以内に入っていない項目が4項目入っている。
- 「40～49歳」は、上位10項目に県平均（全体）では13位（8.6%）の「23. 富山のブランド力アップ」が8位（10.9%）となっているなど、県平均（全体）で上位10位以内に入っていない項目が3項目入っている。
- 「50～59歳」は、上位10項目に県平均（全体）では29位（5.2%）の「45. 地域総合福祉の推進」が7位（10.0%）、県平均（全体）では27位（5.4%）の「49. 障害者福祉の充実」が8位（9.7%）となっているなど、県平均（全体）で上位10位以内に入っていない項目が3項目入っている。
- 「60～69歳」は、上位10項目に県平均（全体）では14位（8.1%）の「20. 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進」が6位（11.3%）、県平均（全体）では23位（6.2%）の「10. 雇用の確保と人材の育成」が7位（10.8%）となっている
- 「70歳以上」は、上位10項目に県平均（全体）では11位（9.0%）の「61. 生活交通の確保」が4位（13.9%）となっているなど、県平均（全体）で上位10位以内に入っていない項目が3項目入っている。

図表 23 県政への要望(上位10項目)の年齢比較

単位：%

順位	区分	領域	項目	全体	18、19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	医療福祉、環境保全、防災対策など	安全・安心	59. 雪に強いまちづくり	29.0	20.0	21.0	25.4	27.0	29.1	35.1	31.2
2	経済対策・産業振興など	産業	1. 景気対策	16.1	4.0	10.0	16.3	14.2	19.7	18.4	16.6
3	医療福祉、環境保全、防災対策など	健康・福祉	46. 医療提供体制の充実	13.7	12.0	11.4	12.1	13.9	18.7	15.6	12.4
4	医療福祉、環境保全、防災対策など	健康・福祉	48. 高齢者福祉の充実	13.4	12.0	7.0	4.2	5.5	18.7	18.1	18.7
5	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	25. 子育て支援	12.8	16.0	13.5	23.3	13.9	12.7	9.9	9.4
6	人材の育成	人づくり	64. 富山県や日本を担う子どもの育成	11.2	12.0	7.4	12.1	11.5	9.4	12.2	12.4
7	経済対策・産業振興など	産業	8. 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	11.0	16.0	12.7	14.2	16.7	12.4	8.5	6.4
8	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	9.6	8.0	10.5	9.2	6.0	8.4	9.9	11.8
9	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	28. 子どもの可能性を引き出し才能や個性を伸ばす教育の推進	9.2	4.0	8.3	14.2	12.8	6.7	9.6	6.7
	医療福祉、環境保全、防災対策など	安全・安心	57. 防災・危機管理体制の充実	9.2	0.0	3.5	7.9	9.8	9.4	9.9	11.1

※県平均(全体)よりも高い項目は網掛け

図表 24 年齢別の県政への要望(上位 10 項目)

単位: %

18、19歳

順位	項目	比率
1	23. 富山のブランドカアップ	20.0
	59. 雪に強いまちづくり	20.0
3	8. 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	16.0
	25. 子育て支援	16.0
6	65. 若者の成長と自立、起業の支援、社会参加の促進	16.0
	21. 中心市街地の賑わい創出	12.0
	46. 医療提供体制の充実	12.0
	48. 高齢者福祉の充実	12.0
	58. 地震防災対策の充実	12.0
	64. 富山県や日本を担う子どもの育成	12.0
67. すべての人が活躍できる環境づくり	12.0	

20～29歳

順位	項目	比率
1	59. 雪に強いまちづくり	21.0
2	25. 子育て支援	13.5
3	32. 芸術文化の振興	13.1
4	8. 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	12.7
5	46. 医療提供体制の充実	11.4
	66. 女性の活躍とチャレンジへの支援	11.4
7	24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	10.5
8	1. 景気対策	10.0
	21. 中心市街地の賑わい創出	10.0
	31. ふるさとを学び楽しむ環境づくり	10.0

30～39歳

順位	項目	比率
1	59. 雪に強いまちづくり	25.4
2	25. 子育て支援	23.3
3	32. 芸術文化の振興	17.1
4	1. 景気対策	16.3
5	8. 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	14.2
	27. 子どもの健やかな成長を支え元気を創造する教育の推進	14.2
	28. 子どもの可能性を引き出し才能や個性を伸ばす教育の推進	14.2
8	66. 女性の活躍とチャレンジへの支援	12.9
9	23. 富山のブランドカアップ	12.1
	46. 医療提供体制の充実	12.1
	64. 富山県や日本を担う子どもの育成	12.1

40～49歳

順位	項目	比率
1	59. 雪に強いまちづくり	27.0
2	8. 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	16.7
3	1. 景気対策	14.2
4	25. 子育て支援	13.9
	46. 医療提供体制の充実	13.9
6	28. 子どもの可能性を引き出し才能や個性を伸ばす教育の推進	12.8
7	64. 富山県や日本を担う子どもの育成	11.5
8	23. 富山のブランドカアップ	10.9
9	32. 芸術文化の振興	10.7
10	66. 女性の活躍とチャレンジへの支援	10.1

50～59歳

順位	項目	比率
1	59. 雪に強いまちづくり	29.1
2	1. 景気対策	19.7
3	48. 高齢者福祉の充実	18.7
4	46. 医療提供体制の充実	17.7
5	25. 子育て支援	12.7
6	8. 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	12.4
7	45. 地域総合福祉の推進	10.0
8	23. 富山のブランドカアップ	9.7
	49. 障害者福祉の充実	9.7
10	57. 防災・危機管理体制の充実	9.4
	64. 富山県や日本を担う子どもの育成	9.4

60～69歳

順位	項目	比率
1	59. 雪に強いまちづくり	35.1
2	1. 景気対策	18.4
3	48. 高齢者福祉の充実	18.1
4	46. 医療提供体制の充実	15.6
5	64. 富山県や日本を担う子どもの育成	12.2
6	20. 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	11.3
7	10. 雇用の確保と人材の育成	10.8
8	24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	9.9
	25. 子育て支援	9.9
	57. 防災・危機管理体制の充実	9.9

70歳以上

順位	項目	比率
1	59. 雪に強いまちづくり	31.2
2	48. 高齢者福祉の充実	18.7
3	1. 景気対策	16.6
4	61. 生活交通の確保	13.9
5	46. 医療提供体制の充実	12.4
	64. 富山県や日本を担う子どもの育成	12.4
7	24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	11.8
8	21. 中心市街地の賑わい創出	11.3
9	57. 防災・危機管理体制の充実	11.1
10	20. 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	10.7

※県平均(全体)の上位 10 項目にない項目は網掛け

ウ. 地域別

- ・すべての地域で「59. 雪に強いまちづくり」が最も高く、次いで「1. 景気対策」となっている。
- ・「富山地域」、「砺波地域」は、上位 10 項目に県平均（全体）では 13 位（8.6%）の「23. 富山のブランド力アップ」が、それぞれ 7 位（10.6%）、10 位（10.0%）となっている。
- ・「高岡地域」、「魚津地域」は、上位 10 項目に県平均（全体）では 11 位（9.0%）の「61. 生活交通の確保」が、それぞれ 10 位（10.0%）、9 位（10.8%）となっている。
- ・「魚津地域」は、上位 10 項目に県平均（全体）では 27 位（5.4%）の「53. 生活環境の保全」が 10 位（9.1%）となっている。

図表 25 県政への要望(上位 10 項目)の地域比較

単位:%

順位	区分	領域	項目	全体	富山地域	高岡地域	魚津地域	砺波地域
1	医療福祉、環境保全、防災対策など	安全・安心	59. 雪に強いまちづくり	29.0	32.4	30.0	25.2	21.3
2	経済対策・産業振興など	産業	1. 景気対策	16.1	15.1	17.3	15.1	18.4
3	医療福祉、環境保全、防災対策など	健康・福祉	46. 医療提供体制の充実	13.7	13.5	13.3	15.1	13.8
4	医療福祉、環境保全、防災対策など	健康・福祉	48. 高齢者福祉の充実	13.4	14.6	11.6	14.4	11.7
5	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	25. 子育て支援	12.8	13.1	13.1	11.3	13.0
6	人材の育成	人づくり	64. 富山県や日本を担う子どもの育成	11.2	11.0	10.3	12.0	12.6
7	経済対策・産業振興など	産業	8. 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	11.0	8.9	13.1	11.3	12.1
8	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	9.6	9.3	8.1	11.3	12.1
9	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	28. 子どもの可能性を引き出し才能や個性を伸ばす教育の推進	9.2	10.3	8.1	7.2	10.5
	医療福祉、環境保全、防災対策など	安全・安心	57. 防災・危機管理体制の充実	9.2	9.9	10.2	8.2	5.9

※県平均(全体)の上位 10 項目にない項目は網掛け

図表 26 地域別の県政への要望(上位 10 項目)

単位:%

富山地域

順位	項目	比率
1	59. 雪に強いまちづくり	32.4
2	1. 景気対策	15.1
3	48. 高齢者福祉の充実	14.6
4	46. 医療提供体制の充実	13.5
5	25. 子育て支援	13.1
6	64. 富山県や日本を担う子どもの育成	11.0
7	23. 富山のブランド力アップ	10.6
8	28. 子どもの可能性を引き出し才能や個性を伸ばす教育の推進	10.3
9	57. 防災・危機管理体制の充実	9.9
10	24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	9.3

高岡地域

順位	項目	比率
1	59. 雪に強いまちづくり	30.0
2	1. 景気対策	17.3
3	46. 医療提供体制の充実	13.3
4	8. 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	13.1
	25. 子育て支援	13.1
6	48. 高齢者福祉の充実	11.6
7	21. 中心市街地の賑わい創出	11.4
8	64. 富山県や日本を担う子どもの育成	10.3
9	57. 防災・危機管理体制の充実	10.2
10	61. 生活交通の確保	10.0

魚津地域

順位	項目	比率
1	59. 雪に強いまちづくり	25.2
2	1. 景気対策	15.1
	46. 医療提供体制の充実	15.1
4	48. 高齢者福祉の充実	14.4
5	64. 富山県や日本を担う子どもの育成	12.0
6	8. 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	11.3
	24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	11.3
	25. 子育て支援	11.3
9	61. 生活交通の確保	10.8
10	53. 生活環境の保全	9.1

砺波地域

順位	項目	比率
1	59. 雪に強いまちづくり	21.3
2	1. 景気対策	18.4
3	46. 医療提供体制の充実	13.8
4	25. 子育て支援	13.0
5	64. 富山県や日本を担う子どもの育成	12.6
6	8. 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	12.1
	24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	12.1
8	48. 高齢者福祉の充実	11.7
9	28. 子どもの可能性を引き出し才能や個性を伸ばす教育の推進	10.5
10	23. 富山のブランド力アップ	10.0

※県平均(全体)の上位 10 項目にない項目は網掛け

2. 個別施策に係る調査

(1) ウェルビーイング (Well-Being) について

<いま>

ウェルビーイングは、身体的にも、精神的にも、社会的にも、すべてが満たされた状態にあることを意味する概念であり、国の「成長戦略実行計画」(R 3. 6.18)においても、「成長戦略による成長と分配の好循環の拡大などを通じて、格差是正を図りつつ、一人一人の国民が結果的にウェルビーイングを実感できる社会の実現を目指す。」と記載されるなど、重要な観点とされている。

県では、新しい富山県のさらなる発展に向けたビジョンや戦略を策定するため、令和3年2月に「富山県成長戦略会議」を設置した。7月に「中間報告」がとりまとめられ、収入や健康といった外形的な価値だけでなく、自己の実現、周囲の人間関係や地域社会とのつながりなども含めて、自分らしくいきいきと生きられること、主観的な幸福度を重視した「真の幸せ」(ウェルビーイング)を目指すことが経済成長の目的となり、手段ともなる時代であるとして、成長戦略のビジョンを「幸せ人口 1000 万 ～ウェルビーイング先進地域、富山～」とした。

これを受け、県では、県民のウェルビーイングの向上を図ることにより、次世代の価値を産む人材が富山に育ち、また、県外から引き寄せられて富山県に集積することを戦略の核に据えることとした。

【調査結果】

問3-1 ウェルビーイングについてご存知か教えてください。

(ア)全体

- ・『言葉を知っている』（「言葉も意味も知っている」と「言葉は知っているが、意味は知らない」を合算したもの）は、15.6%となっている。

(イ)性別

- ・男女間に大きな差はみられないが、『言葉を知っている』は「女性」が16.3%と「男性」と比べて若干高くなっている。

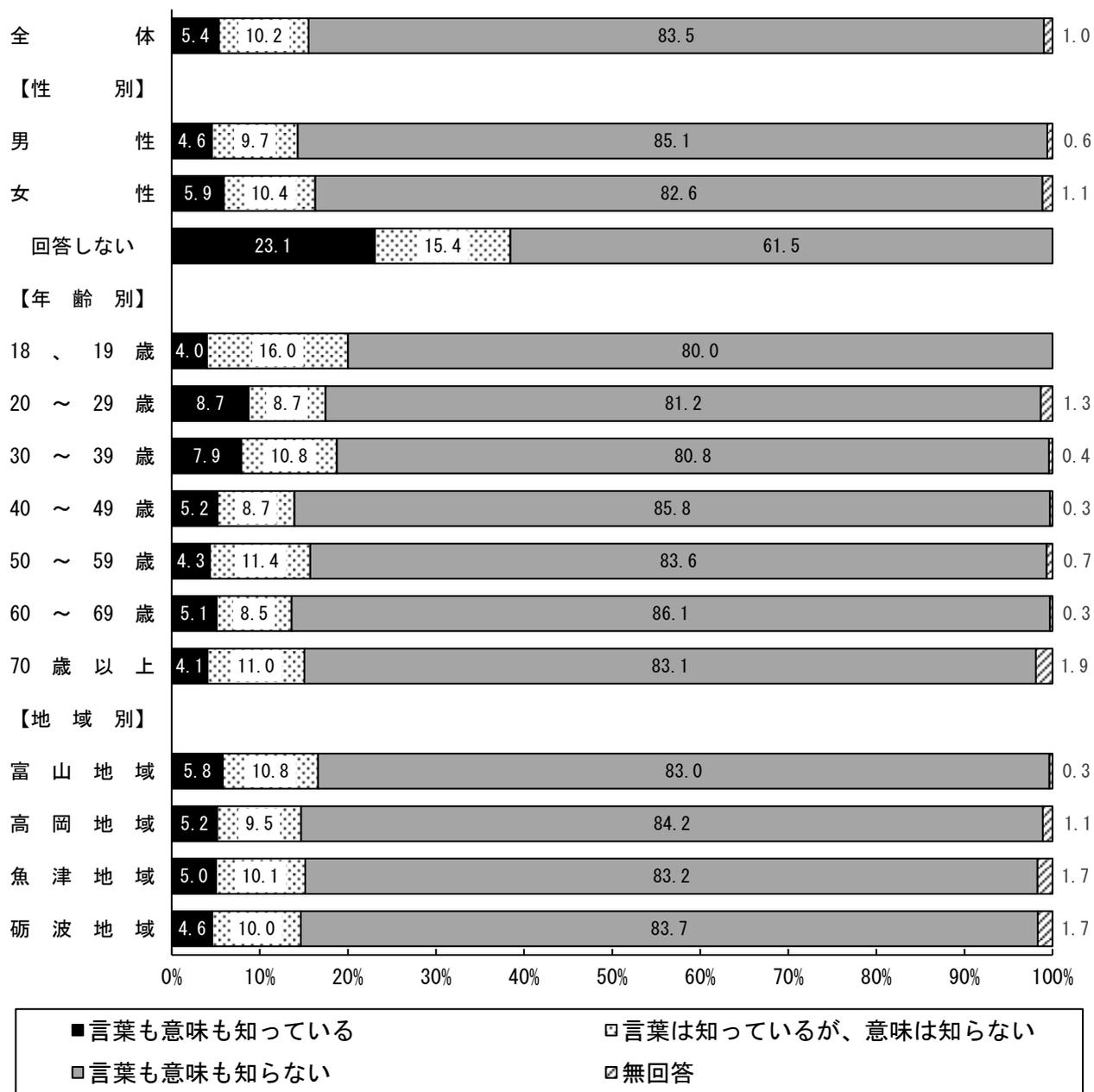
(ウ)年齢別

- ・『言葉を知っている』は、「18、19歳」が20.0%と最も高く、次いで「30～39歳」（18.7%）、「20～29歳」（17.4%）の順となっている。

(エ)地域別

- ・地域間に大きな差はみられないが、『言葉を知っている』は「富山地域」が16.6%と他の地域と比べて若干高くなっている。

図表 27. ウェルビーイングの認知度



問3-2 問3-1で、「1. 言葉も意味も知っている」と回答した方にお尋ねします。

ウェルビーイングを知った主なきっかけを3つ以内で選んでください。

(ア)全体

- ・「新聞や雑誌、テレビなどの媒体」が57.8%と最も高く、次いで「ホームページ（ウェブサイト）・SNS」が24.1%、「学校（授業）での取組み」が19.0%となっている。

(イ)性別

- ・「男性」は「新聞や雑誌、テレビなどの媒体」(73.3%)、「民間企業や各種団体での取組み（シンポジウム等）」(13.3%)、「県のホームページ」(6.7%)、「国の報告書等」(6.7%)、「民間研究機関等の報告書等」(6.7%)が「女性」と比べて高くなっている。
- ・「女性」は「ホームページ（ウェブサイト）・SNS」(25.0%)、「学校（授業）での取組み」(27.9%)が「男性」と比べて高くなっている。

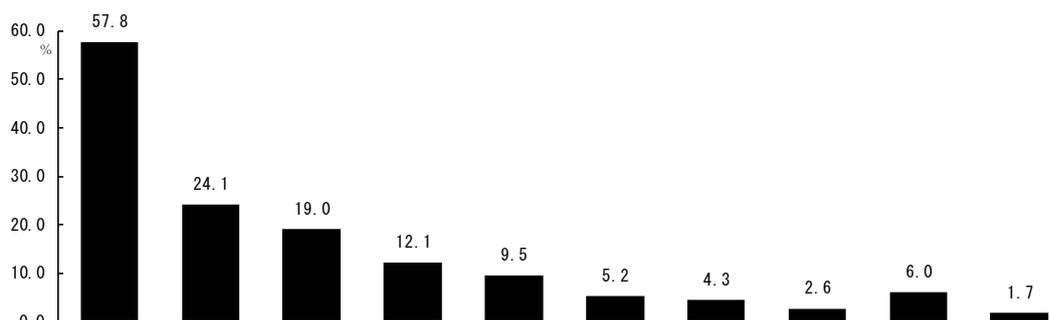
(ウ)年齢別

- ・「新聞や雑誌、テレビなどの媒体」は、「20～29歳」が25.0%、「30～39歳」が26.3%と他の年代と比べて低くなっている。
- ・「学校（授業）での取組み」は、「20～29歳」が80.0%と他の年代と比べて高くなっている。
- ・「民間企業や各種団体での取組み（シンポジウム等）」は、「70歳以上」が23.1%と他の年代と比べて高くなっている。

(エ)地域別

- ・「新聞や雑誌、テレビなどの媒体」は、「高岡地域」が45.5%と50.0%を割り込み、他の地域と比べて低くなっている。
- ・「ホームページ（ウェブサイト）・SNS」は「魚津地域」が38.1%と他の地域と比べて高くなっている。
- ・「学校（授業）での取組み」は、「高岡地域」が30.3%と他の地域と比べて高くなっている。
- ・「民間企業や各種団体での取組み（シンポジウム等）」は、「砺波地域」が18.2%と他の地域と比べて高くなっている。

図表 28. ウェルビーイングを知ったきっかけ(N=116、M.T.=142.2%)



		有効回答数	新聞や雑誌、テレビなどの媒体	・SNS	ホームページ(ウェブサイト)	学校(授業)での取り組み	職場・仕事での取り組み	民間企業や各種団体での取り組み(シンポジウム等)	県のホームページ	国の報告書等	民間研究機関等の報告書等	その他	無回答
全体		116	57.8	24.1	19.0	12.1	9.5	5.2	4.3	2.6	6.0	1.7	
性別	男性	45	73.3	20.0	6.7	11.1	13.3	6.7	6.7	6.7	6.7	2.2	
	女性	68	48.5	25.0	27.9	13.2	7.4	4.4	1.5	0.0	5.9	1.5	
	回答しない	3	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	
年齢	18,19歳	1	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20~29歳	20	25.0	10.0	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0
	30~39歳	19	26.3	26.3	21.1	26.3	5.3	0.0	0.0	0.0	10.5	0.0	
	40~49歳	19	73.7	42.1	5.3	10.5	5.3	10.5	5.3	0.0	10.5	0.0	
	50~59歳	13	69.2	38.5	0.0	7.7	7.7	0.0	15.4	0.0	0.0	0.0	
	60~69歳	18	72.2	33.3	0.0	27.8	11.1	0.0	5.6	11.1	11.1	0.0	
	70歳以上	26	76.9	7.7	0.0	3.8	23.1	15.4	3.8	3.8	0.0	7.7	
地域	富山地域	50	58.0	16.0	18.0	8.0	10.0	10.0	6.0	4.0	6.0	2.0	
	高岡地域	33	45.5	27.3	30.3	9.1	6.1	0.0	3.0	3.0	6.1	3.0	
	魚津地域	21	71.4	38.1	14.3	23.8	9.5	4.8	4.8	0.0	0.0	0.0	
	砺波地域	11	72.7	18.2	0.0	18.2	18.2	0.0	0.0	0.0	18.2	0.0	

<調査結果を受けて>

今回の調査結果で、ウェルビーイングについて、「言葉も意味も知らない」は8割以上(83.5%)となっていることから、認知度を高めていく必要がある。

今後、ウェルビーイングを含めた成長戦略のビジョンを共有する県内外の方々が集い、連携して取り組みを進めるきっかけづくりの場を創出するカンファレンスの開催を予定しており、このような場も活用して、普及啓発に努める。

また、ウェルビーイングに関連する具体的な指標については、今後、調査・研究を進め、設定したいと考えている。その際には、県民が「自分事」として、ウェルビーイングの向上に向けて行動を起こしやすい目標の設定などを含め、効果的な普及啓発方法を検討していく。

(2) カーボンニュートラルの推進について

<いま>

我が国は、2020年10月に「2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロ※にする、2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言した。県でも、国に先駆け、2020年3月に「とやまゼロカーボン推進宣言」を行い、2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロ※にすることを目標に掲げている。

その実現に向けては、県民一人ひとりが近い未来の目標を認識し、省エネルギーの推進に取り組むとともに、再生可能エネルギーを最大限導入していくことが重要である。

県では、目標の実現に向けて、再生可能エネルギーの最大限の導入等を目指す「富山県再生可能エネルギービジョン」や「新とやま温暖化ストップ計画」を見直すこととしている。

また、県庁を挙げてカーボンニュートラルの実現に向けた取組みを総合的かつ横断的に推進するため、知事を本部長とする「カーボンニュートラル推進本部」を設置し、各分野における取組みを加速化させる体制を強化したところである。

※「排出を全体としてゼロ」、「実質ゼロ」とは、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出量から、森林などによる吸収量を差し引いて実質的な排出量をゼロにすることを意味しています。

【調査結果】

問4 あなたは、カーボンニュートラルについて関心がありますか。

次の中から1つ選んでください。

(ア)全体

- ・『関心がある』（「非常に関心がある」と「まあまあ関心がある」を合算したもの）が58.9%、『関心がない』（「あまり関心がない」と「まったく関心がない」を合算したもの）が13.0%、「そもそも聞いたことがない」が11.4%となっている。

(イ)性別

- ・『関心がある』は、「男性」が63.8%に対し、「女性」が54.7%と「男性」が9.1ポイント高くなっている。

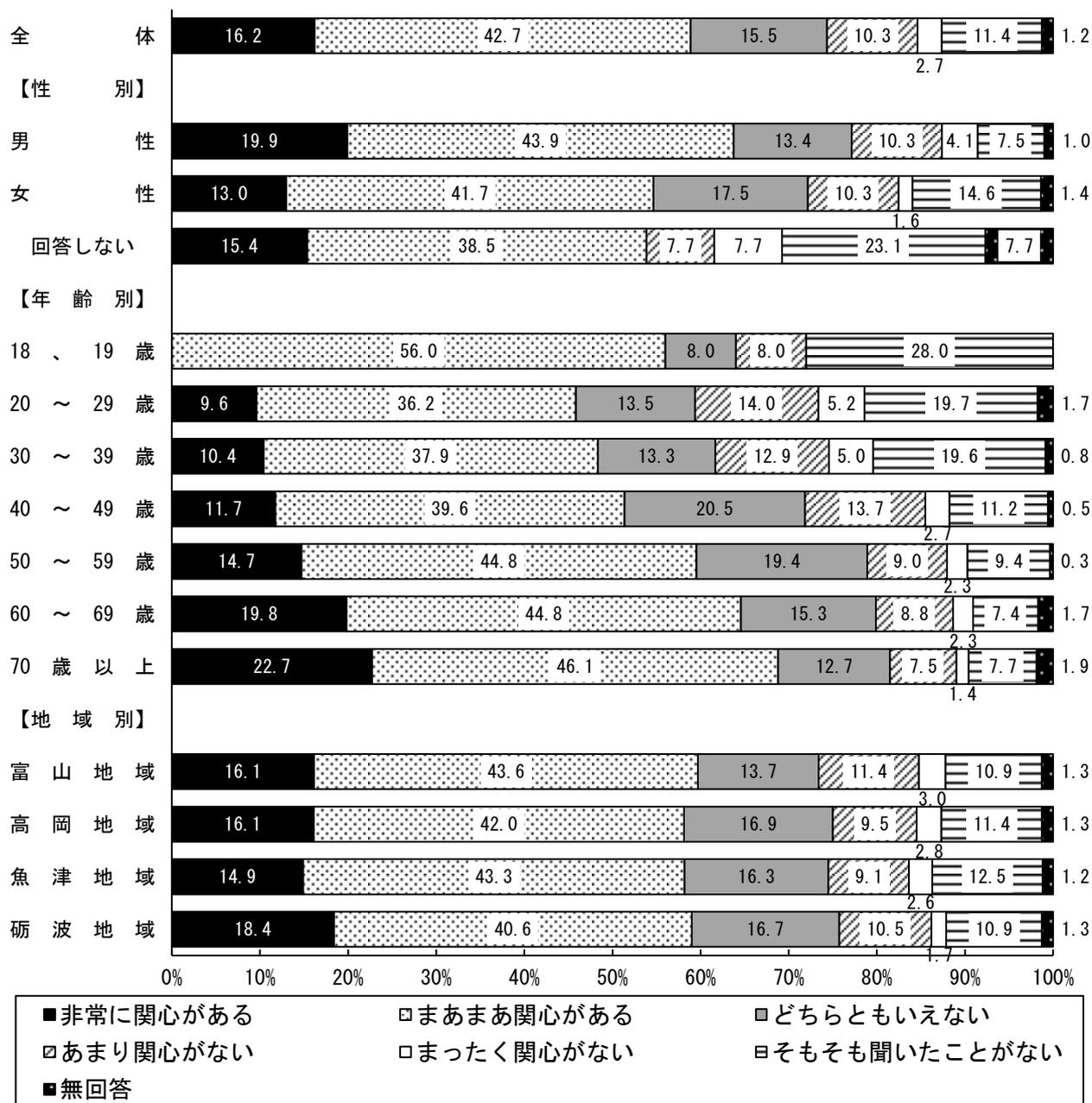
(ウ)年齢別

- ・「18、19歳」は「非常に関心がある」の回答はないものの、「まあまあ関心がある」が56.0%と他の年代と比べて高くなっている。
- ・『関心がある』は、「20～29歳」以上では年齢が高いほどが高くなっており、「70歳以上」では68.8%となっている。

(エ)地域別

- ・地域間に大きな差はみられないが、「非常に関心がある」は、「砺波地域」が18.4%と他の地域と比べて若干高くなっている。

図表 29. カーボンニュートラルについての関心度



問5 あなたは、どの再生可能エネルギー等について知っていますか。
次の中から当てはまるものをすべて選んでください。

(ア)全体

- ・「太陽光発電」(91.5%)、「風力発電」(83.6%)、「電気自動車」(80.7%)、「水力発電(小水力発電)」(78.2%)の認知度が7割以上となっている。

(イ)性別

- ・「男性」、「女性」とともに全体と同様、上位4項目は「太陽光発電」、「風力発電」、「電気自動車」、「水力発電(小水力発電)」となっており、すべて7割以上となっている。
- ・「電気自動車」を除くすべての項目において、「男性」が「女性」と比べて高くなっている。

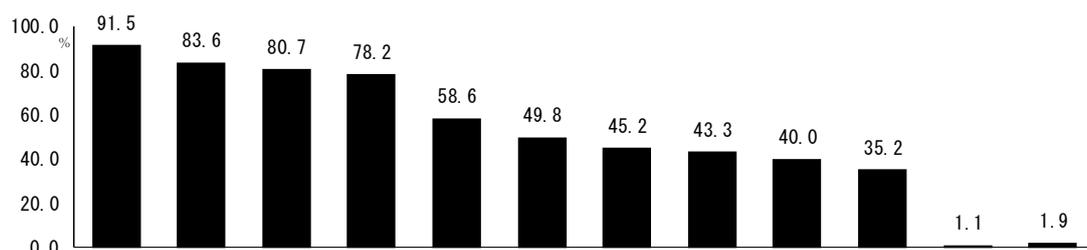
(ウ)年齢別

- ・すべての年代で全体と同様、上位4項目は「太陽光発電」、「風力発電」、「電気自動車」、「水力発電(小水力発電)」となっており、すべて7割以上となっている。
- ・「家庭用燃料電池(エネファーム)」は、「70歳以上」が24.9%と他の年代と比べて低くなっている。

(エ)地域別

- ・すべての地域で全体と同様、上位4項目は「太陽光発電」、「風力発電」、「電気自動車」、「水力発電(小水力発電)」となっており、すべて7割以上となっている。
- ・「魚津地域」は、「太陽光発電」が93.8%、「風力発電」が87.7%、「水力発電(小水力発電)」が84.4%と他の地域と比べて高くなっている。

図表 30. 再生可能エネルギー等の認知度 (N=2,161、M.T.=609.2%)



		有効回答数	太陽光発電	風力発電	電気自動車	水力発電 (小水力発電)	水素エネルギー	地熱発電	蓄電池	太陽熱利用 (太陽熱温水器等)	バイオマス発電	家庭用燃料電池 (エネファーム)	その他	無回答
全体		2,161	91.5	83.6	80.7	78.2	58.6	49.8	45.2	43.3	40.0	35.2	1.1	1.9
性別	男性	985	92.8	85.7	79.3	83.5	66.7	62.0	50.6	47.9	49.7	36.3	1.8	1.2
	女性	1,147	90.8	82.0	82.1	74.1	51.8	39.6	40.6	39.8	32.1	34.2	0.3	2.4
	回答しない	13	76.9	76.9	69.2	53.8	69.2	53.8	53.8	23.1	30.8	53.8	0.0	15.4
年齢	18,19歳	25	92.0	84.0	88.0	84.0	68.0	72.0	52.0	52.0	68.0	28.0	0.0	0.0
	20~29歳	229	94.3	86.9	85.2	83.8	64.6	59.0	48.0	34.1	53.3	32.8	1.3	1.3
	30~39歳	240	92.5	81.7	83.8	77.1	56.3	48.3	49.6	33.8	36.3	41.3	0.4	2.5
	40~49歳	366	92.3	81.4	81.1	73.5	57.1	46.2	45.9	36.1	40.7	43.7	1.6	0.8
	50~59歳	299	93.0	86.3	82.9	77.9	64.2	46.5	47.5	43.5	41.5	45.8	0.7	1.3
	60~69歳	353	92.1	85.0	81.3	77.6	59.5	52.1	44.5	47.9	38.0	34.6	0.8	0.8
	70歳以上	638	89.2	83.1	76.3	79.9	55.2	49.1	41.5	51.7	36.1	24.9	1.1	3.3
地域	富山地域	861	91.2	83.6	81.6	79.2	62.0	52.4	45.8	45.3	41.3	36.8	1.4	1.6
	高岡地域	640	90.2	81.4	79.7	73.3	55.9	47.5	45.3	42.3	38.0	35.0	0.8	2.8
	魚津地域	416	93.8	87.7	80.0	84.4	56.3	49.3	43.5	43.0	41.8	33.9	1.0	1.0
	砺波地域	239	92.9	82.4	81.2	76.6	57.3	47.7	45.6	39.3	36.8	32.6	1.3	2.5

問6-1 あなたのご家庭では、再生可能エネルギー等を活用していますか。

(ア)全体

- ・「現時点では活用していないが、興味はある」が45.0%と最も高く、「活用予定はない」が44.2%、「既に活用している」が9.3%となっている。

(イ)性別

- ・「現時点では活用していないが、興味はある」は、「男性」が47.4%と「女性」と比べて高くなっている。
- ・「既に活用している」は、「女性」が10.1%と「男性」と比べて高くなっている。

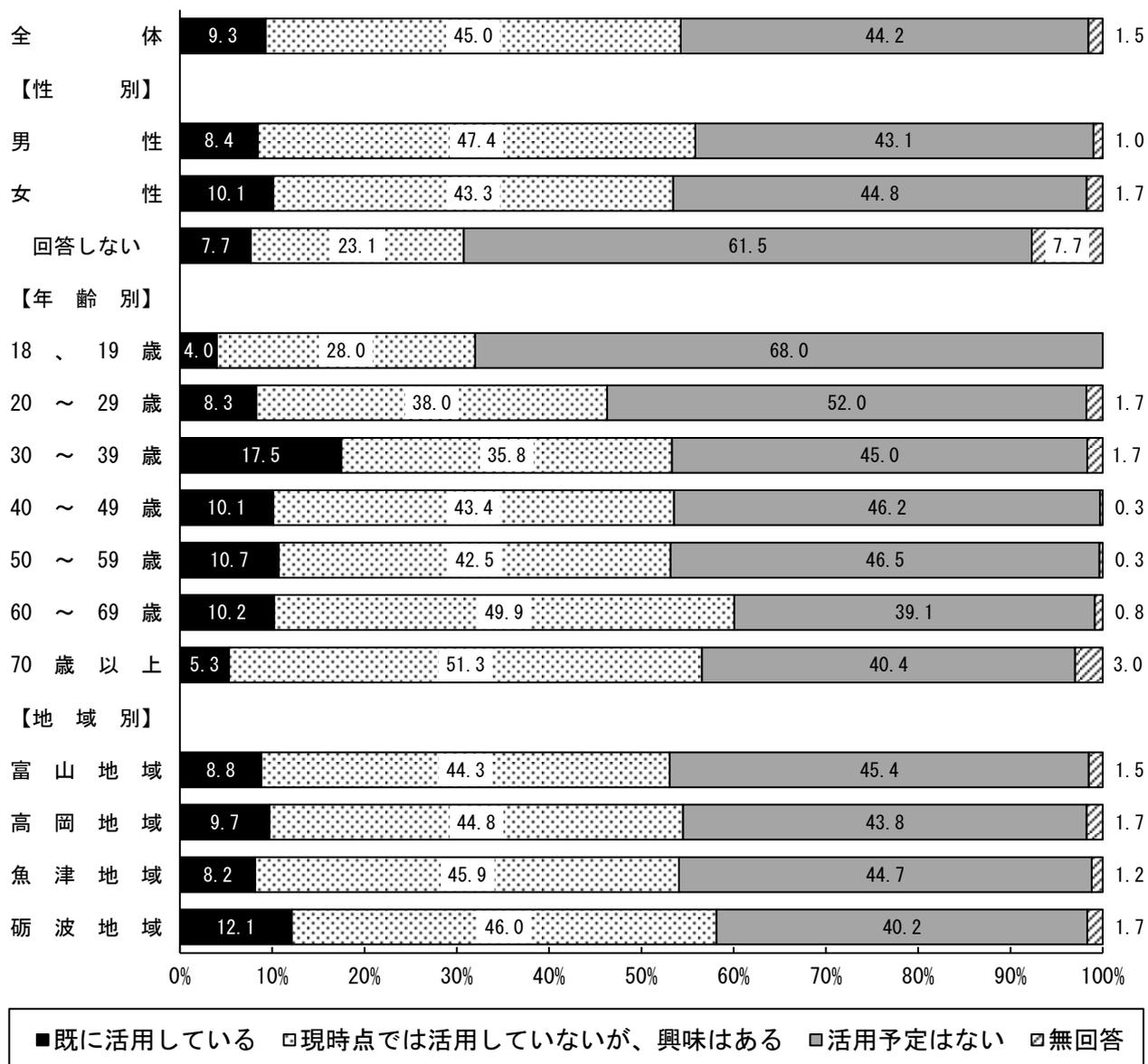
(ウ)年齢別

- ・「現時点では活用していないが、興味はある」は、概ね年代が高いほど高くなっている。

(エ)地域別

- ・「砺波地域」は、「既に活用している」が12.1%と他の地域と比べて高くなっている。

図表 31. 家庭での再生可能エネルギー等の活用状況



問6-2 問6-1で「1. 既に活用している」と回答した方にお尋ねします。

あなたのご家庭では、どのような再生可能エネルギー等を活用していますか。

次の中から当てはまるものをすべて選んでください。

(ア)全体

- ・「太陽光発電のためのソーラーパネルを設置」が69.7%と突出して高くなっており、次いで「家庭用燃料電池を設置」が15.4%、「電気自動車を利用」が14.9%となっている。

(イ)性別

- ・「太陽光発電のためのソーラーパネルを設置」は、「男性」が80.7%に対し、「女性」が62.9%と「男性」が17.8ポイント高くなっている。
- ・「家庭用燃料電池を設置」は、「女性」が18.1%に対し、「男性」が10.8%と「女性」が7.3ポイント高くなっている。

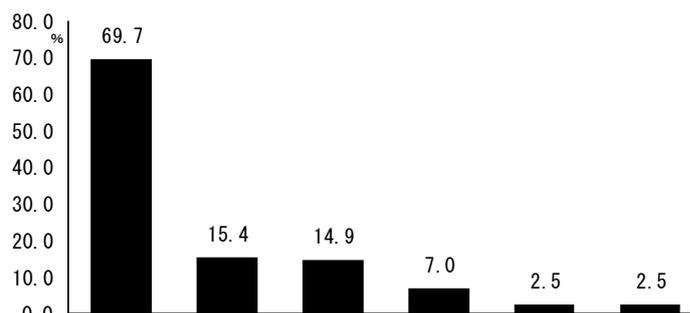
(ウ)年齢別

- ・「太陽光発電のためのソーラーパネルを設置」は、「70歳以上」が55.9%と他の年代と比べて低くなっている。
- ・「家庭用燃料電池を設置」は、「30～39歳」が23.8%、「電気自動車を利用」は、「60～69歳」が22.2%、「太陽熱を利用する設備の設置」は、「70歳以上」が14.7%と最も高くなっている。

(エ)地域別

- ・「家庭用燃料電池を設置」は、「富山地域」が21.1%と他の地域と比べて高くなっている。
- ・「太陽熱を利用する設備の設置」は、「砺波地域」が20.7%と他の地域と比べて高くなっている。

図表 32. 活用している再生可能エネルギー等(N=201、M.T.=111.9%)



		有効回答数	ソーラーパネルの設置	家庭用燃料電池を設置	電気自動車を利用	太陽熱を利用する設備の設置	その他	無回答
全体		201	69.7	15.4	14.9	7.0	2.5	2.5
性別	男性	83	80.7	10.8	16.9	6.0	3.6	1.2
	女性	116	62.9	18.1	12.9	7.8	1.7	3.4
	回答しない	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
年齢	18,19歳	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20～29歳	19	84.2	15.8	10.5	10.5	0.0	0.0
	30～39歳	42	71.4	23.8	14.3	4.8	2.4	0.0
	40～49歳	37	75.7	8.1	13.5	5.4	0.0	2.7
	50～59歳	32	75.0	12.5	15.6	6.3	3.1	0.0
	60～69歳	36	61.1	13.9	22.2	2.8	2.8	8.3
70歳以上	34	55.9	17.6	11.8	14.7	5.9	2.9	
地域	富山地域	76	65.8	21.1	15.8	6.6	1.3	5.3
	高岡地域	62	74.2	12.9	17.7	3.2	0.0	0.0
	魚津地域	34	70.6	14.7	14.7	2.9	5.9	0.0
	砺波地域	29	69.0	6.9	6.9	20.7	6.9	3.4

<調査結果を受けて>

今回の調査結果のうち、カーボンニュートラルについての関心度では、『関心がある』と回答した方の割合が6割近くあるが、カーボンニュートラルの実現には、各主体が「自分ごと」と認識し、県民一人一人もできることから取り組んでいく必要があることから、カーボンニュートラル実現の意義を周知していく必要がある。

また、家庭での再生可能エネルギー等の活用状況では、「現時点では活用していないが、興味はある」と「活用予定はない」と回答した方が同程度の割合であり、既に活用している再生可能エネルギー等についても、「太陽光発電のためのソーラーパネルを設置」以外は低調であることから、県民への再生可能エネルギー等のさらなる普及、啓発が必要である。

今後とも、県民が、カーボンニュートラルに取り組む意義や再生可能エネルギーの導入等について理解を深めるよう努めるほか、事業者におけるカーボンニュートラルの取組みの推進やグリーン成長戦略分野への参入の支援など、幅広い施策を通じ、カーボンニュートラルの実現に向けて取り組んでいく。

(3) SDGsについて

<いま>

SDGs（「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals)）とは、様々な課題に対して経済・社会・環境の三側面から統合的に取組み、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会を実現するため、2015年9月の国連サミットで採択された、すべての国が取り組むべき2030年を年限とする17の国際目標のことである。

我が国においても、国が日本の国内外においてSDGsを達成するための中長期的な国家戦略として「SDGs実施指針」を定め、その実施に最大限取り組むこととしており、地方創生の推進にあたっては、地域課題の解決を目指すための重要な観点であるとされている。

県は2019年に国の「SDGs未来都市」に選定され、「環日本海地域をリードする『環境・エネルギー先端県とやま』」を将来ビジョンに掲げ、SDGsの推進に取り組んでいる。

これまで、県民がSDGsを自分事として捉え、県内市町村、企業、NPO法人等の団体などのSDGsに向けた取組みを一層推進するため、県民総参加のSDGsフォーラム等を開催してきた。令和3年度からは新たに、県内企業・団体等が自身の事業活動とSDGsの関連性を認識し、SDGsに関する取組みを宣言する「富山県SDGs宣言」事業を開始した。

また、生活に身近な問題としてSDGsの12番目の目標「つくる責任 つかう責任」に関わるエシカル消費の認識を高めるため、令和3年度には県と包括連携協定を締結しているスーパーの店舗において、普及啓発イベントを行った。

【調査結果】

問7-1 SDGsについてご存知か教えてください。

(ア)全体

- ・「言葉も意味も知っている」が44.5%、「言葉は知っているが、意味は知らない」が27.5%、「言葉も意味も知らない」が26.1%となっている。
- ・『SDGsを知っている』（「言葉も意味も知っている」と「言葉は知っているが、意味は知らない」を合算したもの）が72.0%となっている。

(イ)性別

- ・「言葉も意味も知っている」は、「男性」が44.1%、「女性」が45.1%と男女間で大きな差はみられない。
- ・「言葉は知っているが、意味は知らない」は、「男性」が29.7%と「女性」と比べて高くなっている。

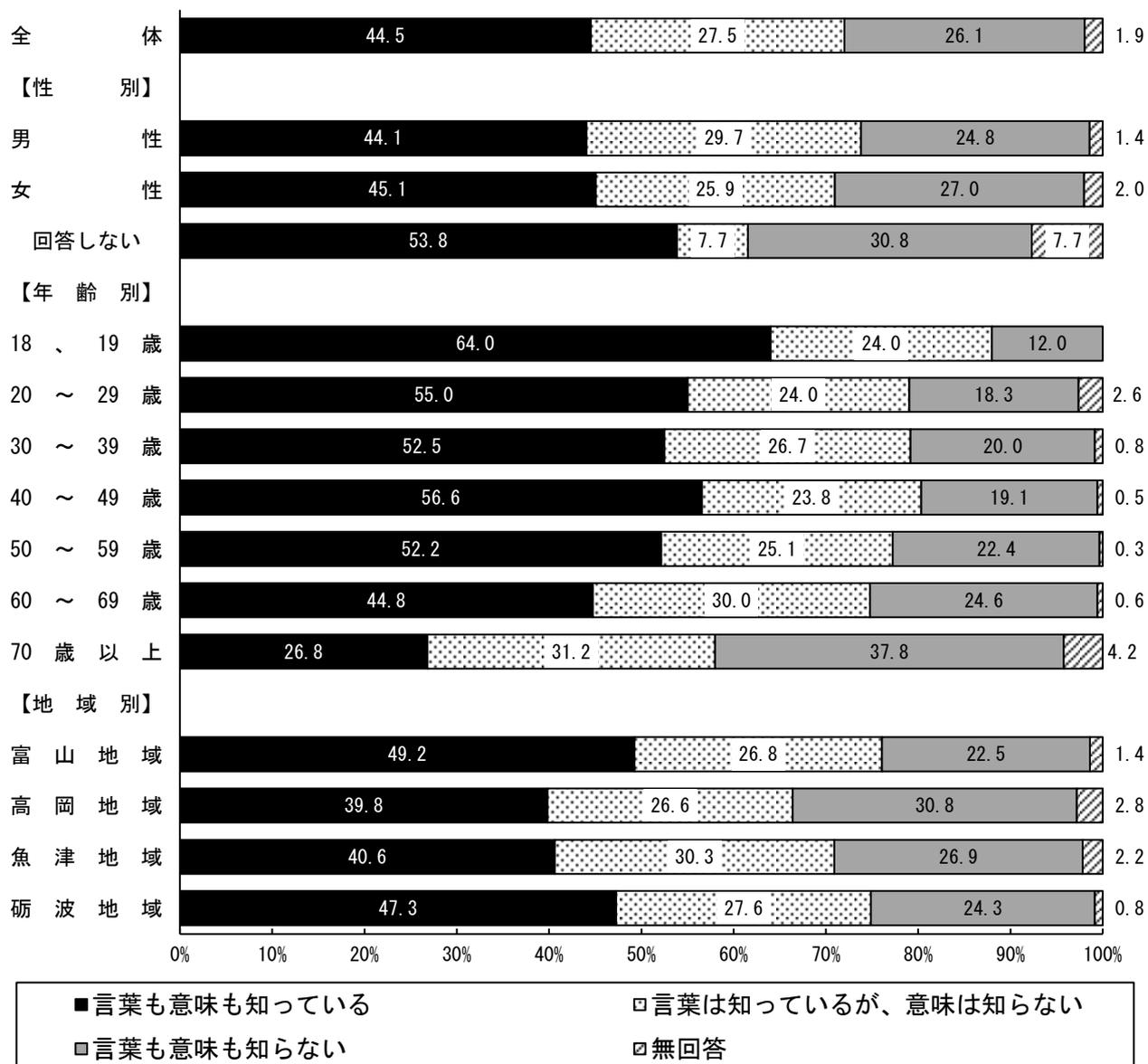
(ウ)年齢別

- ・『SDGsを知っている』は、概ね年代が高いほど低くなっている。
- ・「言葉も意味も知らない」は、「70歳以上」が37.8%と他の年代と比べて高くなっている。

(エ)地域別

- ・『SDGsを知っている』は、「高岡地域」が66.4%と他の地域と比べて低くなっている。

図表 33. SDGsの認知度



問7-2 問7-1で、「1. 言葉も意味も知っている」と回答した方にお尋ねします。

SDGsを知った主なきっかけを3つ以内で選んでください。

(ア)全体

- ・「新聞やテレビなどの媒体」が73.2%と突出して高く、次いで「職場・仕事での取組み」が21.1%、「県広報番組（テレビ・ラジオ）」が16.7%となっている。

(イ)性別

- ・「男性」は、「職場・仕事での取組み」が25.3%、「民間企業や各種団体での取組み」が20.0%と「女性」と比べて高くなっている。
- ・「女性」は、「県広報番組（テレビ・ラジオ）」が18.8%、「学校（授業など）での取組み」が18.6%と「男性」と比べて高くなっている。

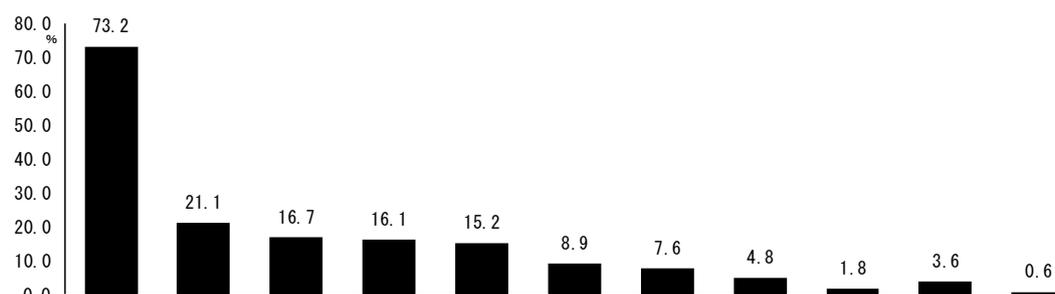
(ウ)年齢別

- ・「新聞やテレビなどの媒体」は、年代が高いほど高くなっている。
- ・「県広報番組（テレビ・ラジオ）」は、「60歳～69歳」が27.2%、「70歳以上」が31.0%、「県広報誌」は「60～69歳」が14.6%、「70歳以上」が23.4%と他の年代と比べて高くなっている。

(エ)地域別

- ・「新聞やテレビなどの媒体」は、すべての地域で最も高くなっている。
- ・「職場・仕事での取組み」は、「魚津地域」が30.8%と他の地域と比べて高くなっている。
- ・「市町村での取組み」は、「砺波地域」が19.5%と他の地域と比べて高くなっている。

図表 34. SDGsを知ったきっかけ(N=962、M.T.=169.6%)



		有効回答数	新聞やテレビなどの媒体	職場・仕事での取組み	県広報番組(テレビ・ラジオ)	民間企業や各種団体での取組み	学校(授業など)での取組み	県広報誌	市町村での取組み	県のSDGs関連イベント	県のホームページ・SNS	その他	無回答
全体		962	73.2	21.1	16.7	16.1	15.2	8.9	7.6	4.8	1.8	3.6	0.6
性別	男性	434	74.0	25.3	14.5	20.0	11.3	8.3	8.5	4.1	1.8	4.1	0.5
	女性	517	72.5	17.4	18.8	13.0	18.6	9.7	7.0	5.4	1.7	3.3	0.8
	回答しない	7	57.1	42.9	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年齢	18,19歳	16	43.8	0.0	0.0	6.3	87.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20~29歳	126	56.3	20.6	8.7	7.1	42.9	0.8	2.4	3.2	2.4	4.0	0.8
	30~39歳	126	65.1	32.5	11.1	19.8	12.7	4.0	4.8	4.0	0.8	7.1	0.0
	40~49歳	207	68.1	27.1	9.2	17.4	19.3	3.9	10.1	4.8	1.9	3.9	1.0
	50~59歳	156	78.8	29.5	13.5	18.6	10.3	5.8	5.1	5.8	0.0	3.2	0.6
	60~69歳	158	81.6	15.8	27.2	17.7	2.5	14.6	8.2	5.7	3.8	1.3	0.6
70歳以上	171	87.7	5.3	31.0	15.8	0.6	23.4	12.9	5.3	1.8	3.5	0.6	
地域	富山地域	424	74.5	18.2	17.2	14.9	14.9	12.0	7.5	4.2	2.1	3.1	0.2
	高岡地域	255	69.0	20.4	16.5	15.7	20.8	6.3	3.9	5.1	1.2	3.1	1.2
	魚津地域	169	74.0	30.8	18.9	16.6	11.8	6.5	5.3	5.3	1.8	5.9	0.6
	砺波地域	113	76.1	19.5	11.5	21.2	8.8	6.2	19.5	5.3	1.8	3.5	0.9

SDGsの12番目の目標「つくる責任 つかう責任」に関わる取組として、近年、人や社会、地域、環境に配慮した消費行動である「エシカル消費」への関心が高まっていますが、その認知度は決して高いとはいえません。「エシカル消費」に関して、以下の質問にお答えください。

問8 以下の選択肢は、「エシカル消費」の一例です。あなたは、日頃の買物で、以下のことを意識していますか。次の中から当てはまるものをすべて選んでください。

(ア)全体

- ・「レジ袋をもらわない」が83.0%と突出して最も高く、次いで「弁当・惣菜などを購入するときに不要なフォーク・スプーンをもらわない」が51.1%、「地元産品を購入して地産地消を实践する」が50.3%となっている。

(イ)性別

- ・「社会貢献活動に熱心な企業のものを選ぶ」以外の意識している項目で、「女性」は「男性」と比べて高くなっている。

(ウ)年齢別

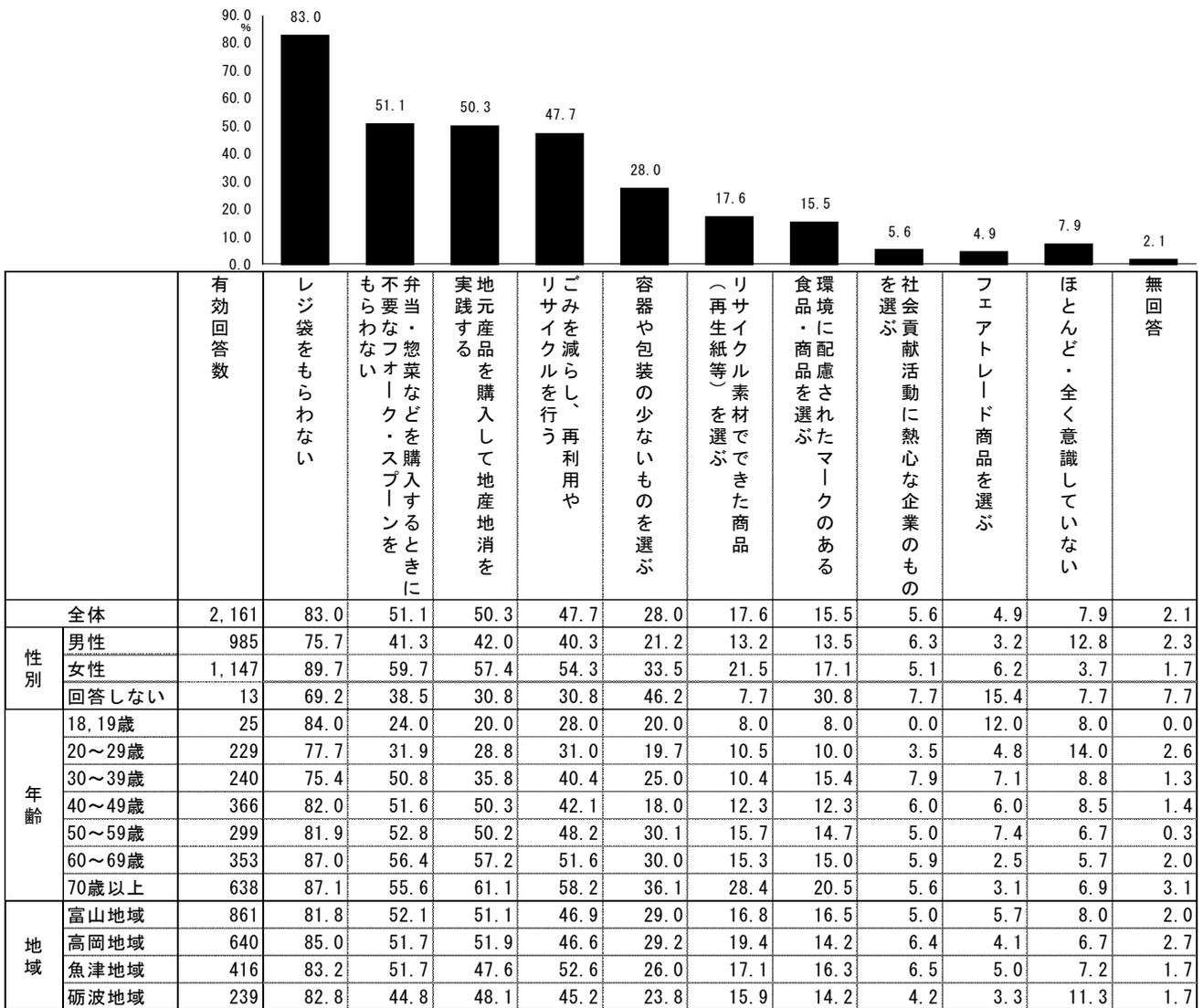
- ・「レジ袋をもらわない」は、すべての年代で最も高くなっている。
- ・「ほとんど・全く意識していない」は、「20～29歳」が14.0%と他の年代と比べて高くなっている。
- ・「社会貢献活動に熱心な企業のものを選ぶ」、「フェアトレード商品※を選ぶ」以外の意識している項目で、概ね年代が高いほど高くなっている。

(エ)地域別

- ・すべての地域で「レジ袋をもらわない」が最も高くなっている。
- ・「ごみを減らし、再利用やリサイクルを行う」は、「魚津地域」が52.6%と他の地域と比べて高くなっている。

※「フェアトレード」とは、開発途上国の原料や製品を、生産者の生活に配慮した公正な価格で継続的に買い取る取引のこと。

図表 35. エシカル消費で意識していること(N=2,161、M.T.=313.6%)



<調査結果を受けて>

今回の調査結果で、『SDGsを知っている』と回答した方が72.0%とSDGsの認知度は昨年度と比較し、約2倍となった。

SDGsを知ったきっかけとして「新聞やテレビなどの媒体」が最も高く、次いで「職場・仕事での取組み」となっており、普段の生活や職場がSDGsを知る環境となってきたことがうかがえる。

また、エシカル消費で意識していることとして、「レジ袋をもらわない」以外はいずれも高くなく、エシカル消費の認知はそれほど進んでいないという状況である。

SDGsは、言葉を知っているだけではなく、意味も知ったうえで、行動することが大切であり、今後とも、各種広報媒体を活用し、県民一人ひとりへのSDGsの理解促進に向けた普及啓発に取り組むとともに、多くの県内企業等に「富山県SDGs宣言」に参画いただくことで、SDGsの取組みの推進に努めるとともに、引き続きSDGs達成の観点を取り入れた各種施策を通じ、持続可能な県づくりを進めていく。

(4) 働き方改革について

<いま>

少子高齢化に伴い、生産年齢人口が減少するなか、社会が持続的に発展していくためには、誰もが意欲や能力に応じて活躍できる環境づくりを進めることが重要である。このために、国においては、残業時間の上限規制や年次有給休暇の取得を義務付ける働き方改革関連法が平成 31 年 4 月に施行された。さらに、働きやすく休みやすい環境整備を推進するために、これまで以上に育児休業が取得しやすくなる改正育児・介護休業法が令和 4 年 4 月から段階的に施行される。

本県においても、一般事業主行動計画の策定を義務付ける企業の範囲を、県条例で法律よりも拡大するなど、仕事と子育ての両立支援や働きやすい雇用環境の整備促進に取り組んできた。また、働き方改革をテーマとする各種セミナーを開催するほか、働き方改革に意欲的な企業に対し、専門家を派遣し、伴走型のコンサルティングを実施してきているところである。

【調査結果】

問9 「働き方改革」についてご存知か教えてください。

(ア)全体

- ・「言葉も意味も知っている」が70.4%と最も高く、「言葉は知っているが、意味は知らない」が22.6%、「言葉も意味も知らない」が3.1%となっている。

(イ)性別

- ・男女間に大きな差はみられない。

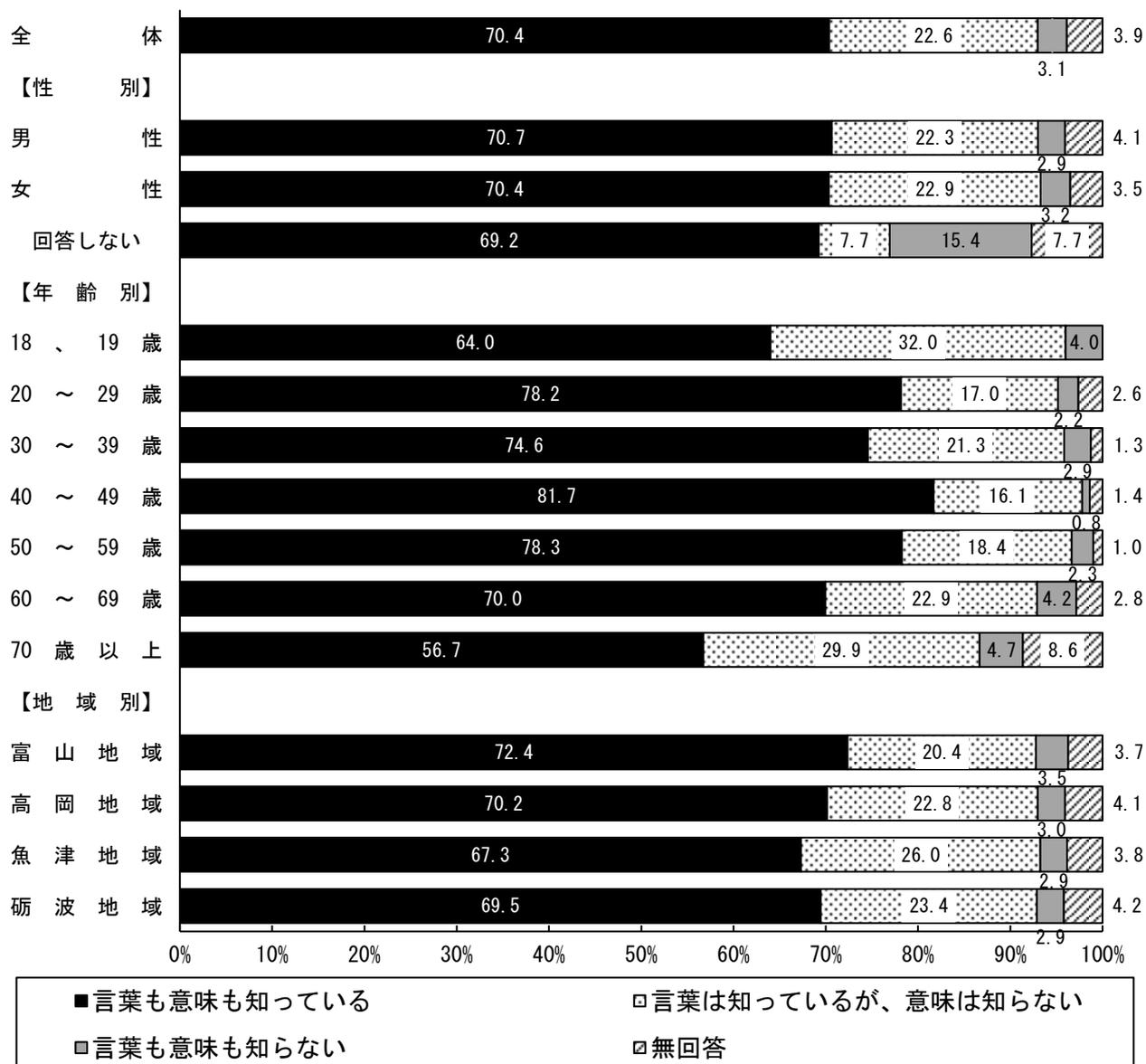
(ウ)年齢別

- ・「言葉も意味も知っている」は、「40～49歳」が81.7%と最も高く、「70歳以上」が56.7%と最も低くなっている。

(エ)地域別

- ・地域間に大きな差はみられないが、「言葉も意味も知っている」は「富山地域」が72.4%と他の地域と比べて若干高くなっている。

図表 36. 働き方改革の認知度



問 10 「働き方改革」を進めていくにあたって、特に重要と考えるものは何ですか。

次の中から3つ以内で選んでください。

(ア)全体

- ・「長時間労働の是正と休暇の取得促進」が 67.1%と最も高く、次いで「育児介護休暇・休業制度の充実」が 47.2%、「柔軟な働き方の促進（テレワーク、フレックスタイム、兼業・副業など）」が 43.3%となっている。

(イ)性別

- ・「育児介護休暇・休業制度の充実」は、「女性」が 54.8%に対し、「男性」が 39.1%と「女性」が 15.7 ポイント高くなっている。

(ウ)年齢別

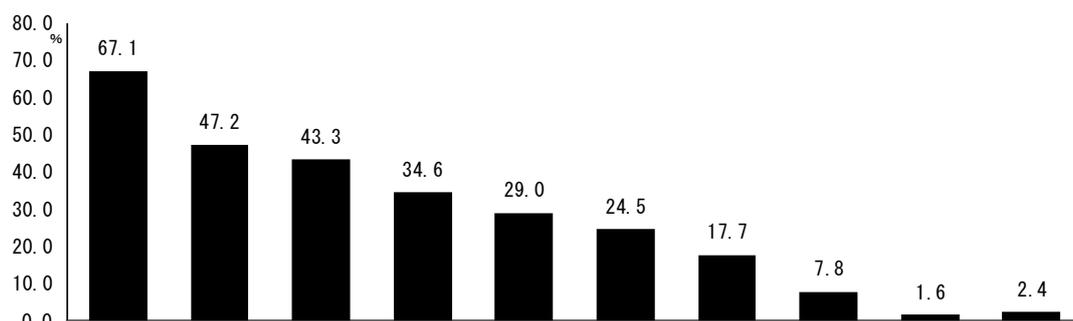
- ・「育児介護休暇・休業制度の充実」は、「18、19 歳」が 84.0%と他の年代と比べて突出して高くなっている。
- ・「高齢者の就業促進（雇用促進、定年の引き上げなど）」、「女性の活躍推進（女性管理職登用、再就職支援など）」は、概ね年代が高いほど高くなっている。
- ・「職場の雰囲気づくり」は、「20～29 歳」が 45.4%、「30～39 歳」が 43.3%と他の年代と比べて高くなっている。
- ・「仕事の進め方の見直し（業務プロセス改善、DX※、IT ツール導入など）」は、「30～39 歳」が 35.4%、「40～49 歳」が 33.3%、「50～59 歳」が 34.4%と他の年代と比べて高くなっている。

(エ)地域別

- ・「富山地域」は「柔軟な働き方の促進（テレワーク、フレックスタイム、兼業・副業など）」が 44.6%、「高岡地域」は「女性の活躍推進（女性管理職登用、再就職支援など）」が 20.0%、「魚津地域」は「長時間労働の是正と休暇の取得促進」が 70.7%、「砺波地域」は「職場の雰囲気づくり」が 40.6%と他の地域と比べて高くなっている。

※DX：デジタルトランスフォーメーションの略。データとデジタル技術を活用して、業務そのものや組織、企業文化、風土等を変革し、競争上の優位性を確立すること。

図表 37. 働き方改革を進める上で重要と考えるもの(N=2,161、M.T.=275.2%)



		有効回答数	長時間労働の是正と休暇の取得促進	も育児介護休暇・休業制度の充実 (男性も女性も取得しやすい制度など)	柔軟な働き方の促進 (テレワーク、兼業・副業など)	職場の雰囲気づくり	仕事の進め方の見直し (業務プロセス改善、DX※、ITツール導入など)	高齢者の就業促進 (雇用促進、定年の引き上げなど)	女性の活躍推進 (女性管理職登用、再就職支援など)	学び直し (リカレント教育) の機会の確保	その他	無回答
全体		2,161	67.1	47.2	43.3	34.6	29.0	24.5	17.7	7.8	1.6	2.4
性別	男性	985	67.9	39.1	39.7	33.8	34.6	28.1	15.0	8.8	2.3	2.5
	女性	1,147	66.8	54.8	46.4	35.4	24.1	21.7	20.3	6.9	0.9	1.8
	回答しない	13	53.8	23.1	38.5	7.7	38.5	7.7	15.4	7.7	7.7	15.4
年齢	18,19歳	25	60.0	84.0	52.0	36.0	24.0	4.0	8.0	8.0	0.0	4.0
	20~29歳	229	74.7	55.5	42.4	45.4	29.7	6.1	12.2	5.7	2.2	2.2
	30~39歳	240	63.3	50.4	49.6	43.3	35.4	9.6	13.3	6.3	2.1	0.8
	40~49歳	366	66.4	43.4	47.0	39.9	33.3	13.9	15.0	9.8	2.2	1.1
	50~59歳	299	63.9	40.1	43.8	33.1	34.4	29.8	14.7	8.0	3.0	1.0
	60~69歳	353	69.1	47.9	43.6	32.0	28.3	31.7	18.7	7.9	0.8	1.7
	70歳以上	638	67.1	47.3	38.6	26.3	21.8	37.0	24.5	7.8	0.6	4.4
地域	富山地域	861	65.5	45.5	44.6	34.0	31.0	24.6	17.4	9.8	1.5	2.3
	高岡地域	640	66.9	48.3	42.0	32.8	25.3	23.8	20.0	6.7	1.9	2.8
	魚津地域	416	70.7	49.5	42.8	35.1	28.4	24.3	16.1	6.3	1.4	2.6
	砺波地域	239	67.4	46.9	42.7	40.6	32.2	26.8	15.5	6.3	1.7	0.8

<調査結果を受けて>

今回の調査結果では、働き方改革を進めていくために特に重要と考えるものとして、「長時間労働の是正と休暇の取得促進」、「育児介護休暇・休業制度の充実」、「柔軟な働き方の促進（テレワーク、フレックスタイム、兼業・副業など）」が上位となった。平成 30 年度に実施した調査でも、「休暇の取得促進」、「長時間労働の是正」が上位を占めており、依然として働きやすく休みやすい環境づくりが課題となっている。

男女別では、男性は、「仕事の進め方の見直し」が女性と比べて高く、女性は、「育児介護休暇・休業制度の充実」が男性と比べて高いなど、男女で関心の高い項目に差がみられた。また、「18、19 歳」は、「育児介護休暇・休業制度の充実」が突出して高く、若い世代の育児休業への関心が高まっていることがうかがえる。

長時間労働といった従来型の労働慣行を見直して、男女がともに仕事と子育てや介護との両立ができる職場環境を整備する必要があり、改正育児・介護休業法の施行を追い風としながら、今回の調査結果を各種施策に反映させ、働き方改革の取組みをさらに加速化してまいりたい。

(5) 女性の活躍推進について

<いま>

本県の女性の就業をめぐる状況を見ると、就業率（全国3位：2015年）、平均勤続年数（全国2位：2020年）、共働き率（全国4位：2015年）は、いずれも全国トップクラスにあり、女性雇用者に占める正社員の割合（全国3位：2017年）も高い状況にある。一方で、就業者のうち従業員における女性の管理職比率は7.6%で全国44位（2015年）、会社役員や個人事業主を含めた就業者全体の女性の管理職比率は14.4%で全国41位（2015年）と、低い水準に留まっている。

このため、県ではこれまで、女性活躍の前提となる働き方改革を進めるため、「イクボス企業同盟とやま」を設立するなどワーク・ライフ・バランスの推進に取り組むとともに、企業の役員クラスの方への男女共同参画チーフ・オフィサーの委嘱や女性の職業生活における活躍の推進に関する法律に基づく一般事業主行動計画の策定支援、女性のキャリアデザイン応援講座の開催、企業の管理職等を養成する「煌（きら）めく女性リーダー塾」の開催など、民間企業における女性の活躍促進を図ってきたところである。

また、令和3年度には、企業の意思決定に関わる女性のトップ人材を育成する「煌めく女性リーダー塾 マスターコース」の新設や女性の活躍推進に取り組む企業の認定制度を創設するほか、官民連携による会議を立ち上げ、女性躍進推進戦略を検討している。

【調査結果】

問 11 あなたは、女性が積極的に組織の意思決定に関わるポスト（管理職）に就くべきだと思いますか。
次の中から当てはまるものを1つ選んでください。

（ア）全体

- ・『就くべきだと思う』（「そう思う」と「ややそう思う」を合算したもの）が 80.1%を占めており、『就くべきだと思わない』（「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合算したもの）は 18.5%となっている。

（イ）性別

- ・『就くべきだと思う』は、「女性」が 82.1%と「男性」と比べて高くなっている。

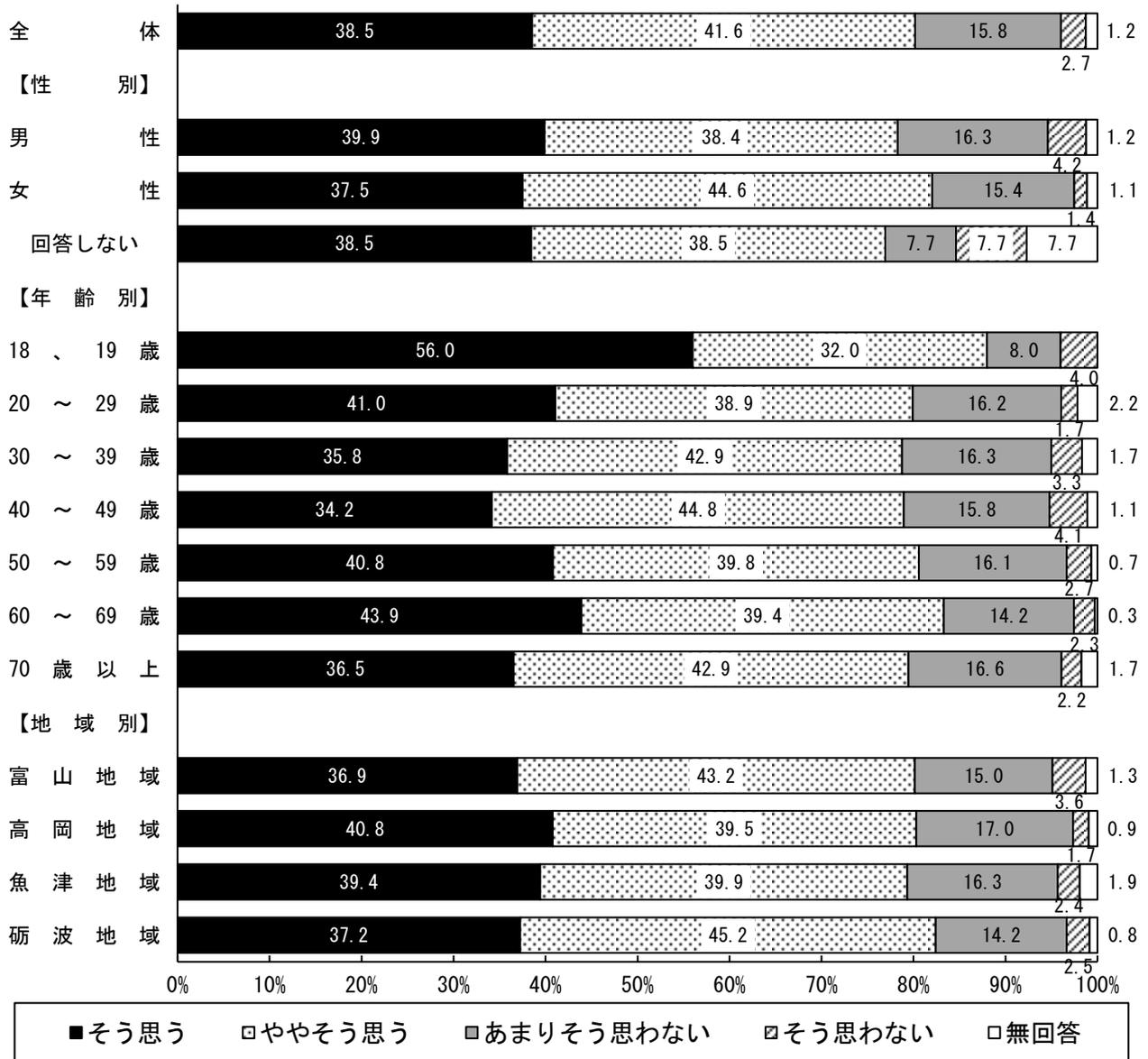
（ウ）年齢別

- ・『就くべきだと思う』は、すべての年代で 8 割前後となっている。
- ・「そう思う」は、「18、19 歳」が 56.0%と他の年代と比べて高くなっており、「40～49 歳」が 34.2%と最も低くなっている。

（エ）地域別

- ・『就くべきだと思う』は、すべての地域で 8 割前後となっている。

図表 38. 女性が積極的に管理職に就くべきか



問 12 あなたは、女性が管理職に就く際に障害となることは何だと思いますか。

次の中から2つ以内で選んでください。

(ア)全体

- ・「育児・介護・家事などで家族の支援が十分得られないこと」が 52.2%と最も高く、次いで「長時間労働の改善など働き方改革が十分ではないこと」が 43.0%、「企業において女性管理職を望まない傾向にあること」が 33.8%となっている。

(イ)性別

- ・「本人が管理職就任を望まないと思われていること」は、「男性」が 32.1%に対し、「女性」が 21.8%と「男性」が 10.3 ポイント高く、「育児・介護・家事などで家族の支援が十分得られないこと」は、「女性」が 56.8%に対し、「男性」が 46.4%と「女性」が 10.4 ポイント高くなっている。

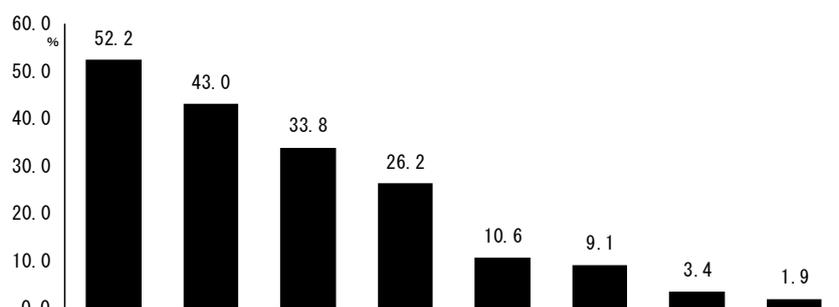
(ウ)年齢別

- ・「育児・介護・家事などで家族の支援が十分得られないこと」、「長時間労働の改善など働き方改革が十分ではないこと」は概ね年代が高いほど高くなっている。
- ・一方で、「本人が管理職就任を望まないと思われていること」は、概ね年代が高いほど低い傾向にある。

(エ)地域別

- ・「育児・介護・家事などで家族の支援が十分得られないこと」は、すべての地域で最も高くなっている。
- ・「企業において女性管理職を望まない傾向にあること」は、「砺波地域」で 39.3%と他の地域と比べて高くなっている。

図表 39. 女性が管理職に就く際の障害 (N=2,161、M.T.=180.1%)



		有効回答数	育児・介護・家事などで家族の支援が十分得られないこと	長時間労働の改善など働き方改革が十分ではないこと	企業において女性管理職を望まない傾向にあること	本人が管理職就任を望まないこと	顧客や取引先が女性管理職を望まない傾向にあること	家族・親類が管理職就任を望まない傾向にあること	その他	無回答
全体		2,161	52.2	43.0	33.8	26.2	10.6	9.1	3.4	1.9
性別	男性	985	46.4	42.3	31.1	32.1	9.1	10.4	4.2	2.0
	女性	1,147	56.8	44.1	36.4	21.8	11.5	8.0	2.5	1.5
	回答しない	13	61.5	15.4	30.8	0.0	15.4	7.7	23.1	7.7
年齢	18,19歳	25	28.0	16.0	56.0	40.0	8.0	0.0	8.0	0.0
	20～29歳	229	34.5	36.2	37.6	34.5	11.8	5.7	3.1	2.6
	30～39歳	240	44.2	37.5	29.2	35.4	10.8	7.5	4.6	2.5
	40～49歳	366	39.6	43.7	31.7	38.0	7.4	12.8	4.9	1.1
	50～59歳	299	49.5	43.8	35.1	25.4	9.4	10.7	5.0	0.0
	60～69歳	353	62.3	44.8	35.1	20.7	12.7	10.2	2.0	0.6
	70歳以上	638	65.2	47.0	33.5	16.3	11.1	7.7	2.0	3.3
地域	富山地域	861	53.5	41.2	32.5	26.6	11.7	8.4	3.9	1.9
	高岡地域	640	52.2	46.4	33.1	25.0	8.6	9.4	3.1	2.2
	魚津地域	416	51.4	43.0	34.6	26.7	11.8	10.8	2.6	2.2
	砺波地域	239	49.4	40.2	39.3	26.8	9.2	7.9	3.3	0.4

<調査結果を受けて>

今回の調査結果では、男女別・年齢を問わず、約8割は女性が積極的に組織の意思決定に係るポスト（管理職）に就くべきとの回答であったが、その際の障害として、約半数が「育児・介護・家事などで家族の支援が十分得られないこと」と回答しており、女性の家事等への負担が男性よりも大きいと感じている人が多いことがうかがえる。

さらに「本人が管理職就任を望まないと思われていること」は、男性が女性よりも10.3ポイントも高く回答している一方で、「企業において女性管理職を望まない傾向にあること」は、女性が男性より5.3ポイント高く回答しており、男女の意識のギャップが見受けられた。

結果からは、女性活躍の推進には、育児等は女性がするものといった固定観念や”無意識の思い込み”の解消と、性別に関わらず仕事と家庭が両立できる環境づくりが重要と考えられる。一人ひとりが、企業においても家庭においても、自分らしく充実・活躍できる富山県を目指し、女性活躍推進戦略に基づき、これまで以上に働き方改革と女性活躍の推進に取り組んでいく。

(6) リカレント教育への取組みについて

<いま>

人生 100 年時代や Society5.0※の到来を迎え、誰がいくつになっても学び直し、活躍できる社会の実現のため、産学官が連携しリカレント教育を一層推進することが求められている。

県では、「富山県人生 100 年時代人づくり構想会議」(H30)の提言を受け、本県において取り組むべきリカレント教育等の学習内容や実施方法等について、提供側の県内高等教育機関と職業能力訓練機関、受講者側の経済・労働者団体、そして行政の各関係機関が協議する「富山県リカレント教育等産学官連携推進会議」(R1～)を設置した。

また、職務能力の向上を図るビジネスパーソンや一旦職を離れ復職を希望する社会人の学び直しをサポートするため、県内高等教育機関が社会人を対象に職務上の知識や技術の習得に有用な学習講座「リカレント教育等産学官連携講座」を、社会人が受講しやすい CiC ビル 5 階研修室等において開講するとともに、平日夕方、土日・祝日に開講する場合の経費の一部を支援し、県民等への普及啓発を行っている。

※サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society） 狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として提唱されたもの。

【調査結果】

問 13-1 現在、お勤めですか。

(ア)全体

- ・「勤めている」が 55.2%、「現在、職についていないが、就職を目指して準備中」が 3.4%、「いずれにも該当しない」が 38.3%となっている。

(イ)性別

- ・「勤めている」は「男性」が 59.3%、「女性」が 52.2%となっている。

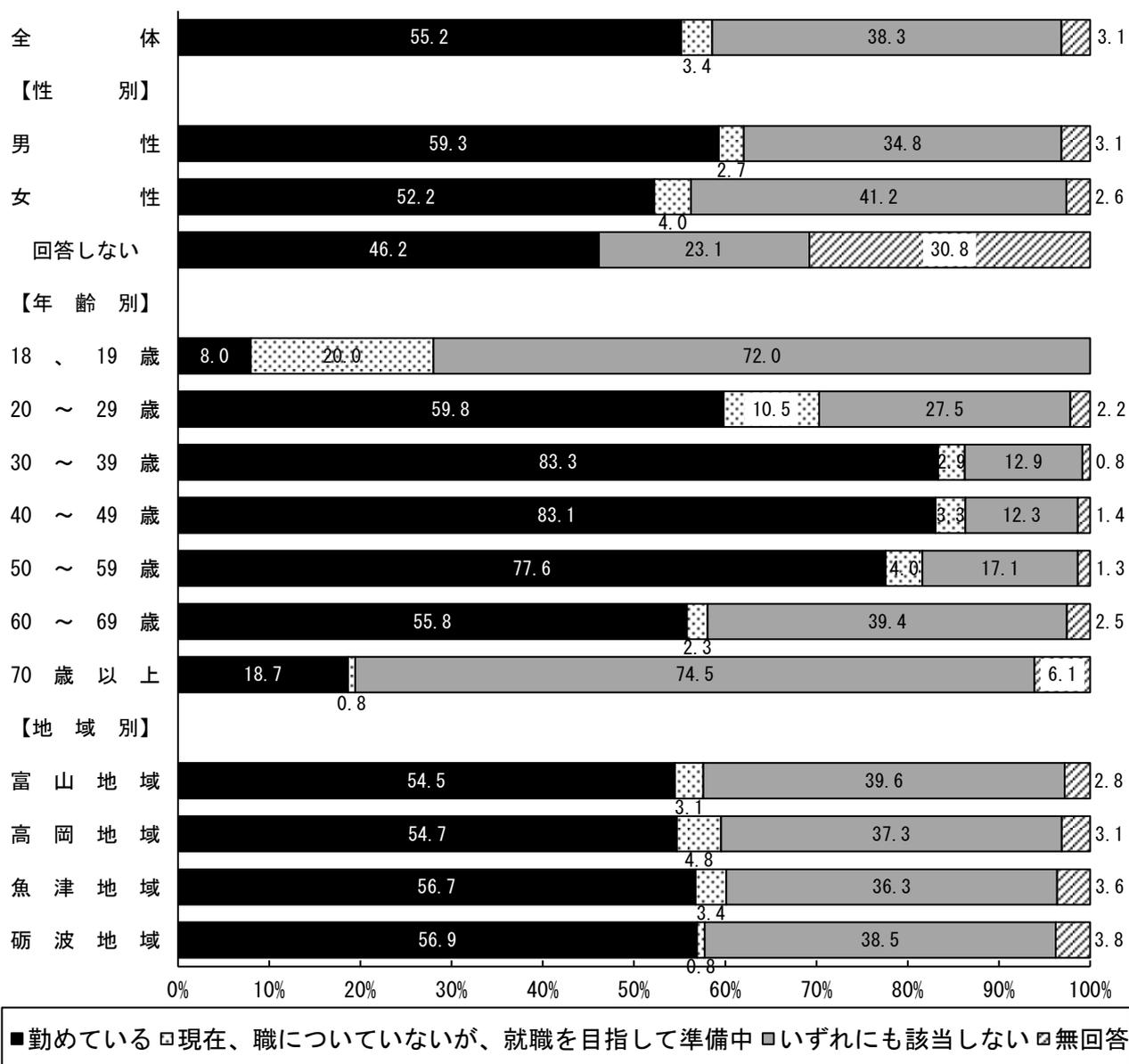
(ウ)年齢別

- ・「勤めている」は、「20～29 歳」が約 6 割、30～40 歳代が 8 割強、「50～59 歳」が 8 割弱、「60～69 歳」が 5 割半ば、「70 歳以上」が 2 割弱となっている。

(エ)地域別

- ・地域間に大きな差はみられない。

図表 40. 就業状況



問 13-2 問 13-1 で「1. 勤めている」、「2. 現在、職についていないが、就職（再就職を含む）を目指して準備中」と回答された方にお尋ねします。

あなたはリカレント教育（社会人の学び直し）として、現在、何か取り組んでいますか。

当てはまるものをすべて選んでください。

（ア）全体

- ・「何もしていない」が 51.0%と最も高く、次いで「関係する本、雑誌、インターネットのホームページ等により、情報収集や学習をしている」が 30.9%、「講習会、研修会等に参加して、情報収集や学習をしている」が 18.8%となっている。

（イ）性別

- ・「男性」、「女性」とともに全体と同じ傾向となっている。
- ・「関係する本、雑誌、インターネットのホームページ等により、情報収集や学習をしている」は、「男性」が 32.6%と「女性」と比べて高く、「会社の同僚や友人、知人と勉強会を開催し、情報収集や学習をしている」は、「女性」が 9.5%と「男性」と比べて高くなっている。

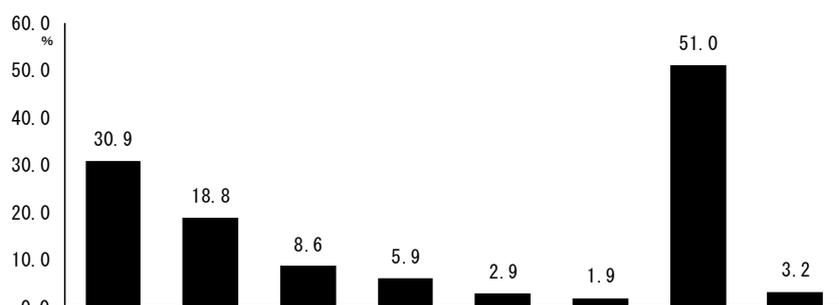
（ウ）年齢別

- ・「大学、専門学校、職業訓練機関等に通って学習している」は、「18、19 歳」が 57.1%と他の年代と比べて高くなっている。
- ・「関係する本、雑誌、インターネットのホームページ等により、情報収集や学習をしている」は、「40～49 歳」が 37.0%と他の年代と比べて高くなっている。
- ・「会社の同僚や友人、知人と勉強会を開催し、情報収集や学習をしている」は、「60～69 歳」が 13.2%と他の年代と比べて高くなっている。

（エ）地域別

- ・「大学、専門学校、職業訓練機関等に通って学習している」は、「高岡地域」が 5.0%と他の地域と比べて高くなっている。
- ・「何もしていない」は、「砺波地域」が 58.7%と他の地域と比べて高くなっている。

図表 41. リカレント教育への取組み(N=1,266、M.T.=123.3%)



		有効回答数	関係する本、雑誌、インターネット等により、情報収集	講習会、研修会等に参加して、情報収集や学習をしている	会社の同僚や友人、知人と勉強会を開催し、情報収集や学習をしている	サービスによりインターネットの学習	大学、専門学校、職業訓練機関等に通って学習している	その他	何もしていない	無回答
全体		1,266	30.9	18.8	8.6	5.9	2.9	1.9	51.0	3.2
性別	男性	611	32.6	19.3	7.7	6.4	3.1	2.3	50.9	2.9
	女性	645	28.8	18.3	9.5	5.4	2.8	1.6	51.8	3.3
	回答しない	6	50.0	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7	33.3
年齢	18,19歳	7	14.3	14.3	0.0	0.0	57.1	0.0	28.6	0.0
	20~29歳	161	29.2	18.0	9.3	5.6	10.6	1.2	46.0	1.2
	30~39歳	207	29.0	21.3	7.7	6.3	2.4	1.4	53.6	2.4
	40~49歳	316	37.0	18.7	8.9	7.3	1.6	1.3	48.7	2.8
	50~59歳	244	28.7	16.4	4.5	6.1	1.2	1.6	55.3	4.1
	60~69歳	205	30.2	22.0	13.2	5.4	1.5	1.5	51.7	2.9
	70歳以上	124	26.6	15.3	8.9	3.2	0.0	6.5	51.6	7.3
地域	富山地域	496	31.7	16.9	8.9	4.4	2.4	2.4	52.4	3.6
	高岡地域	381	32.5	19.7	7.3	6.6	5.0	1.3	47.8	2.6
	魚津地域	250	29.6	23.2	12.0	8.4	1.6	1.6	49.2	3.2
	砺波地域	138	25.4	15.2	5.1	5.1	1.4	2.2	58.7	3.6

<調査結果を受けて>

今回の調査結果では、リカレント教育への取組みについて、「何もしていない」と回答している人の割合が51.0%で、昨年の56.8%から5.8ポイント改善している。

一方で、半数を超える人が「何もしていない」と回答しており、リカレント教育の普及には、企業等への情報発信や学びやすい環境づくりが不可欠であり、また、県内企業における「働き方改革」の意識を高める取組みを進めていくことも必要である。

デジタル化や技術革新の急速な進展などにより、求められる知識や技術が大きく変化し続けており、一人ひとりが長期間にわたり活躍し続け、人生をより充実したものとして過ごすためには、誰もが、何歳からでも、何回でも学び直し、能力を高める機会と環境があることが重要である。

こうしたことから、県としては、産学官連携の一層の推進を図り、リカレント教育の普及に取り組んでまいりたい。

(7)「新しい生活様式」の実践について

<いま>

新型コロナウイルス感染症の収束までは、マスクの着用やこまめな手洗いといった「新しい生活様式」の徹底を継続する必要があることから、県では、これまで、新聞広告やテレビ CM などにより、県民への周知啓発を行ってきた。

8月現在、全国の多くの地域でこれまで経験したことのないスピードで感染が拡大している。本県においても、警戒レベルを8月5日に「ステージ2」に、8月16日には「ステージ3」に引き上げ、県民の皆さんに更なる感染防止対策の徹底をお願いしているが、連日過去最多の新規感染者が確認されるなど、これまで経験したことのない、極めて危機的な状況が続いている。

【調査結果】

問 14 新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、「新しい生活様式」として、①身体的距離の確保、マスクの着用、手洗いの励行など一人ひとりの基本的感染対策や、②こまめな換気や「3密」の回避など日常生活を営む上での基本的な生活様式、③買い物や娯楽・スポーツ、公共交通機関の利用、食事など日常生活の各場面別の生活様式などについて具体例が示され、感染拡大防止のために積極的に推奨されています。

これらの「新しい生活様式」について、皆さんの日常生活のなかで、どれを実践されていますか？次の中から当てはまるものをすべて選んでください。

(ア)全体

- ・「外出時や会話するときにはマスクを着用している」が 96.7%と最も高く、次いで「感染が流行している地域への移動を控えている」が 85.9%、「買い物でレジに並ぶときは、前後にスペースを空けている」が 84.6%となっている。

(イ)性別

- ・「新しい生活様式」を知っているが、あまり実践していない」は、「男性」が 5.8%と「女性」と比べて高くなっている。
- ・「接触確認アプリを活用している」以外の実践されているすべての項目で、「女性」が「男性」と比べて高くなっている。

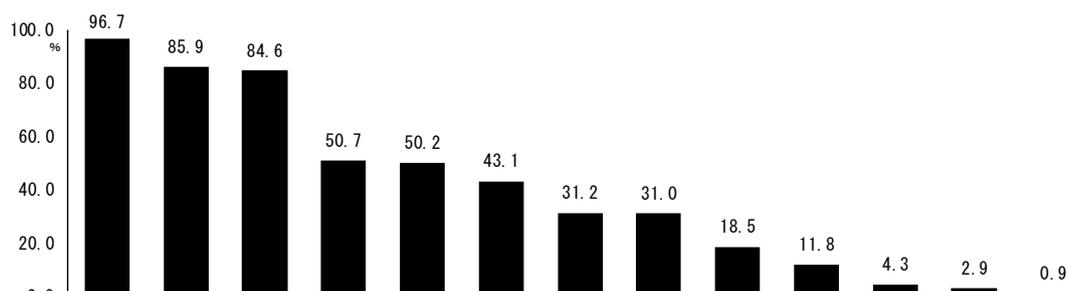
(ウ)年齢別

- ・「外出時や会話するときにはマスクを着用している」、「感染が流行している地域への移動を控えている」、「買い物でレジに並ぶときは、前後にスペースを空けている」、「手洗いは 30 秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗っている」は、すべての年代で高くなっている。
- ・「手洗いは 30 秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗っている」は、「40～49 歳」が 45.4%と他の年代と比べて低くなっている。

(エ)地域別

- ・「公共交通機関の利用を控え、徒歩や自転車を利用している」は、「富山地域」が 35.0%と他の地域と比べて高くなっている。
- ・「手洗いは 30 秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗っている」は、「砺波地域」が 41.4%と他の地域と比べて低くなっている。

図表 42. 「新しい生活様式」の実践(N=2,161、M.T.=511.7%)



		有効回答数	着用している	控えている	並ぶときは、前後にスペースを空けている	30秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗っている	外食を控え、持ち帰りや出前、デリバリーを利用している	少人数で空いた時間に行っている	電子決済を利用している	公共交通機関の利用を控え、徒歩や自転車を利用している	公共交通機関の利用にあたり、混んでいる時間帯を避けている	活用している	知っているが、あまり実践していない	知らない	無回答
全体		2,161	96.7	85.9	84.6	50.7	50.2	43.1	31.2	31.0	18.5	11.8	4.3	2.9	0.9
性別	男性	985	95.9	82.8	78.8	42.8	42.4	34.3	26.5	29.1	15.3	12.8	5.8	3.0	0.9
	女性	1,147	97.8	89.1	89.8	57.4	57.2	50.7	35.4	33.0	21.3	11.0	3.0	2.8	0.6
	回答しない	13	69.2	69.2	61.5	53.8	38.5	30.8	30.8	23.1	15.4	23.1	7.7	7.7	15.4
年齢	18,19歳	25	92.0	80.0	60.0	64.0	36.0	28.0	40.0	28.0	28.0	16.0	0.0	8.0	0.0
	20~29歳	229	95.2	77.3	76.0	52.0	42.8	39.7	34.1	41.5	27.5	15.7	3.1	0.4	2.2
	30~39歳	240	95.8	82.9	78.3	48.8	55.8	41.7	39.6	36.7	19.2	18.3	3.3	1.3	1.3
	40~49歳	366	98.1	85.5	82.8	45.4	56.0	40.7	43.2	31.1	16.7	15.0	1.6	1.1	0.5
	50~59歳	299	97.7	86.3	89.3	50.5	51.8	41.5	39.5	26.8	15.1	14.0	5.0	1.0	0.3
	60~69歳	353	97.7	91.5	91.2	52.7	55.5	43.9	30.9	30.0	15.3	9.9	4.0	1.7	0.3
	70歳以上	638	96.2	87.9	86.2	52.5	44.7	47.0	16.5	27.7	19.0	6.0	6.4	6.7	0.9
地域	富山地域	861	97.7	85.2	85.4	54.6	49.2	44.9	33.3	35.0	19.4	12.3	4.1	2.7	0.8
	高岡地域	640	95.3	86.3	83.1	50.5	52.2	42.2	30.3	29.8	18.9	10.3	4.5	3.1	0.9
	魚津地域	416	95.9	85.1	86.3	48.6	48.3	41.8	29.1	27.4	17.5	15.4	5.0	2.2	1.4
	砺波地域	239	98.7	89.1	82.8	41.4	50.2	41.4	30.1	26.4	15.1	7.9	2.9	4.6	0.0

<調査結果を受けて>

今回の調査結果では、96.7%の方が外出時や会話するときにはマスクを着用していることや、8割強の方が感染が流行している地域への移動を控える、買い物でレジに並ぶときに前後にスペースを空けるなどの行動を実践されていることから、「新しい生活様式」が多くの県民に浸透していると考えられる。

一方で、項目によっては実践されている割合が低いものもあり、なかでも、国が推奨する「接触確認アプリの活用」については、高年齢層になるほど実践されている割合が低くなっているなど、年齢層によって取組み状況に差が生じているものもある。

こうしたことから、「新しい生活様式」について、引き続き、より多くの県民の皆さんが実践するよう、広報等により周知啓発を図る必要があると考えられる。

現在、オミクロン株の市中感染の拡がりなどを背景に、本県をはじめ全国の感染者数は急激に増加しているが、オミクロン株であっても、基本的な感染防止対策は従来と同様である。

県内でのさらなる感染拡大を食い止めるため、ワクチン接種後であっても気を緩めることなく、マスクの正しい着用、手指消毒、ゼロ密、換気等の基本的な感染防止対策を徹底いただくよう、県民の皆様に繰り返し呼び掛けるなど、引き続き感染拡大防止に取り組んでいく。

(8) 福祉施策の充実について

<いま>

本県の人口が減少に転じている中で、高齢者人口(65歳以上)は、今後とも増加し2025年には、3人に1人が高齢者になるものと見込まれる(令和3年の高齢者人口の割合は33.1%)。

こうした中、平成12年度にスタートした介護保険制度のサービス受給者は、本県では、平成12年度の約21,000人から令和2年度の約58,700人と大幅に増加している。令和2年度※では、居宅サービスの受給者が約37,300人(約64%)、地域密着型サービス※の利用者が約10,400人(約18%)、施設サービスの受給者が約11,000人(約19%)となっており、全国的にみると、本県は施設サービスの利用者の割合(全国平均で令和元年度は約17%)が高くなっている。

※令和2年度の各サービス受給者数は暫定版。

※地域密着型サービス：地域(市町村)内のグループホームなどで生活できるようにするサービス。

【調査結果】

問 15-1 あなたは、ご自身の介護が必要になった場合、どのような生活を望みますか。
次の中から1つ選んでください。

(ア)全体

- ・「自宅で、介護サービス等（ホームヘルパーや訪問診療・看護、富山型デイサービスなど）を活用しながら、生活を続けたい」が30.2%と最も高く、次いで「住み慣れた地域にあるグループホームなど、小規模な施設に入居して生活したい」が19.3%、「自宅で、家族の世話や介護サービス等を受けて、生活を続けたい」が13.6%となっている。

(イ)性別

- ・「自宅で、家族の世話を受けながら、生活を続けたい」は、「男性」が10.4%に対し、「女性」が4.6%と「男性」が5.8ポイント高くなっている。
- ・「住み慣れた地域にあるグループホームなど、小規模な施設に入居して生活したい」は、「女性」が22.8%に対し、「男性」が15.6%と「女性」が7.2ポイント高くなっている。

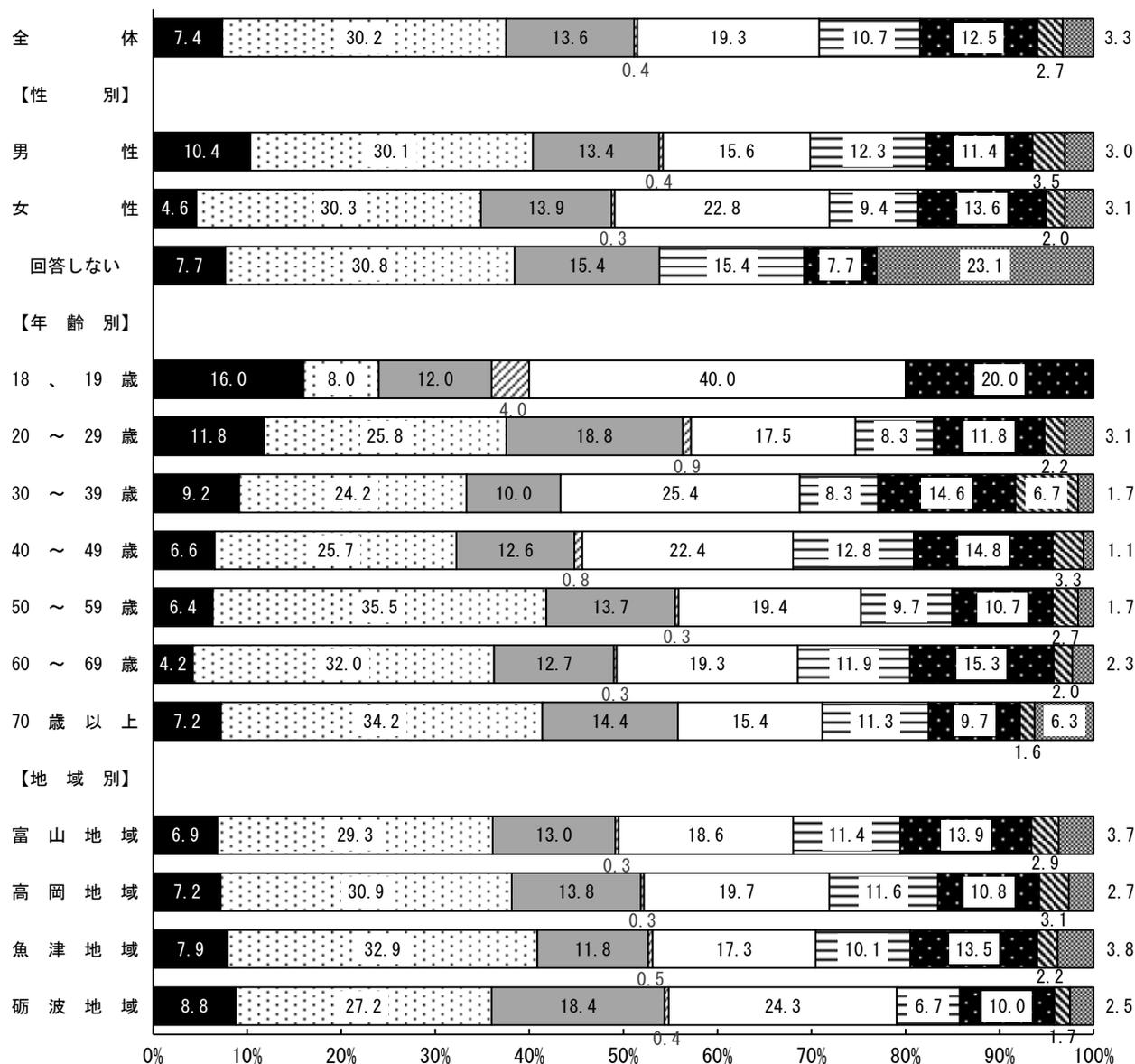
(ウ)年齢別

- ・「子どもや親戚などの家に移って、子どもや親戚の世話及び介護サービス等を受けて生活したい」は、すべての年代で最も低くなっている。
- ・「住み慣れた地域にあるグループホームなど、小規模な施設に入居して生活したい」は、「18、19歳」が40.0%と最も高くなっている。
- ・「自宅で、家族の世話を受けながら、生活を続けたい」は、年代が進むにつれ低くなり、「60～69歳」では4.2%と最も低くなるが、「70歳以上」では7.2%とやや高くなっている。

(エ)地域別

- ・「砺波地域」は「自宅で、家族の世話や介護サービス等（ホームヘルパーや訪問診療・看護、富山型デイサービスなど）を受けて、生活を続けたい」が18.4%、「住み慣れた地域にあるグループホームなど、小規模な施設に入居して生活したい」が24.3%と他の地域と比べて高くなっている。

図表 43. 自身の介護が必要になった場合に望む生活



- 自宅で、家族の世話を受けながら、生活を続けたい
- 自宅で、介護サービス等（ホームヘルパーや訪問診療・看護、富山型デイサービスなど）を活用しながらをしながら、生活を続けたい
- ▣ 自宅で、家族の世話や介護サービス等を受けて、生活を続けたい
- 子どもや親戚などの家に移って、子どもや親戚の世話及び介護サービス等を受けて生活したい
- 住み慣れた地域にあるグループホームなど、小規模な施設に入居して生活したい
- 特別養護老人ホームなど、大規模な介護保険施設に入居して生活したい
- 介護が受けられる有料老人ホームなどに移って生活したい
- ▣ その他
- 無回答

問 15-2 問 15-1 で 1 から 5 までの選択肢を選ばれた方にお尋ねします。

誰もが住み慣れた地域で安心して生活するため、取り組むべき課題を、次の中から 2 つ選んでください。

(ア)全体

- ・「高齢者、障害者、子どもなど、誰もが住み慣れた地域と一緒にサービスを受けられる場（富山型デイサービス等）の整備」が 61.4%と最も高く、次いで「保健、医療及び福祉人材の確保や資質の向上」が 60.3%、「地域住民が参加し、お互いに支え合うネットワークづくりの推進」が 29.5%となっている。

(イ)性別

- ・男女間に大きな差はみられない。

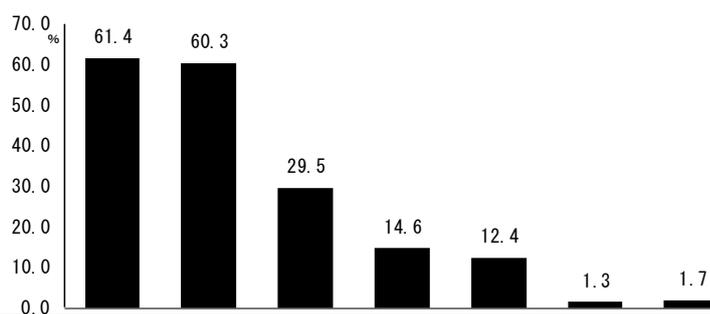
(ウ)年齢別

- ・「高齢者、障害者、子どもなど、誰もが住み慣れた地域と一緒にサービスを受けられる場（富山型デイサービス等）の整備」は、「60～69 歳」が 64.5%、「70 歳以上」が 66.5%と他の年代と比べて高くなっている。
- ・「子どもの時からの福祉教育の充実」は、「18、19 歳」が 25.0%、「40～49 歳」が 20.1%と他の年代と比べてやや高くなっている。

(エ)地域別

- ・地域間に大きな差はみられないが、「保健、医療及び福祉人材の確保や資質の向上」は、「魚津地域」が 65.9%と他の地域と比べて高くなっている。

図表 44. 誰もが住み慣れた地域で安心して生活するために取り組むべき課題(N=1,530、181.2%)



		有効回答数	高齢者、障害者、子どもなど、誰もが住み慣れた地域で一緒にサービスを受けられる場の整備	保健、医療及び福祉人材の確保や資質の向上	ワークづくりの推進	地域住民が参加し、お互いに支え合うネット	子どもの時からの福祉教育の充実	地域住民の福祉活動（ボランティア活動）の支援及び参加促進	その他	無回答
全体		1,530	61.4	60.3	29.5	14.6	12.4	1.3	1.7	
性別	男性	688	61.8	58.7	29.2	15.3	11.2	1.5	1.6	
	女性	825	61.2	61.7	29.5	14.4	13.3	1.1	1.6	
	回答しない	7	42.9	71.4	14.3	0.0	14.3	14.3	14.3	
年齢	18、19歳	20	55.0	55.0	20.0	25.0	10.0	0.0	5.0	
	20～29歳	171	60.2	54.4	35.1	15.8	12.3	0.0	1.2	
	30～39歳	165	53.3	60.6	29.7	18.2	12.1	2.4	1.2	
	40～49歳	249	57.4	61.0	25.7	20.1	10.8	1.6	0.8	
	50～59歳	225	60.0	61.8	32.4	10.2	12.9	1.8	1.3	
	60～69歳	242	64.5	64.0	30.6	13.2	10.3	1.2	0.8	
	70歳以上	454	66.5	59.7	27.3	12.6	14.3	1.1	2.9	
地域	富山地域	586	61.1	60.2	28.2	13.5	11.9	1.0	2.6	
	高岡地域	460	62.2	57.8	30.2	15.7	13.3	1.3	1.3	
	魚津地域	293	60.8	65.9	29.4	16.0	10.6	1.7	0.3	
	砺波地域	189	61.9	57.7	32.3	13.8	13.2	1.6	2.1	

<調査結果を受けて>

今回の調査結果では、介護が必要となった場合でも、介護サービス等や家族の世話を受けながら自宅や家族等の家で生活を続けたいと回答された方と、地域のグループホームなどへ入居して生活したいと回答された方を合わせ、7割を超える人が自宅や住み慣れた地域で生活を続けたいと希望している。

こうした県民の意向に沿って、これまで以上に地域での高齢者の生活を支えるため、富山型デイサービスのよう誰も住み慣れた地域でサービスを受けられる場の整備や福祉人材の確保など、在宅介護サービス基盤の充実を図るとともに、在宅医療の基盤整備や多様な住まいの確保、地域における自主的な支え合い活動の推進など、地域包括ケアシステムの構築に積極的に取り組んでいく。

(9) 地産地消に関する意識について

<いま>

農業や食に対する関心が高まるなか、生産・供給体制を強化するとともに、県産品の購買気運を高める地産地消の取組みは、大変重要である。

このため、平成 27 年 3 月に策定した「新・とやま地産地消推進戦略」に基づき、消費者ニーズに応じた園芸作物の生産拡大や直売活動の充実、県産食材の優先的購入の促進や学校給食における県産食材の利用促進などに取り組んできている。

【調査結果】

問 16 あなたは、スーパーなどで買い物するとき、富山県産の農林水産物を意識して購入するように心がけていますか。次の中から当てはまるものを1つ選んでください。

(ア)全体

- ・『意識して購入するようにしている』（「日頃から意識して購入するようにしている」と「どちらかという意識して購入している」を合算したもの）が 56.7%、『意識して購入したことがない』（「あまり意識して購入したことがない」と「意識して購入したことがない」を合算したもの）が 22.6%、「どちらともいえない」が 19.3%となっている。

(イ)性別

- ・『意識して購入するようにしている』は、「女性」が 63.9%に対し、「男性」が 48.1%と「女性」が 15.8ポイント高くなっている。

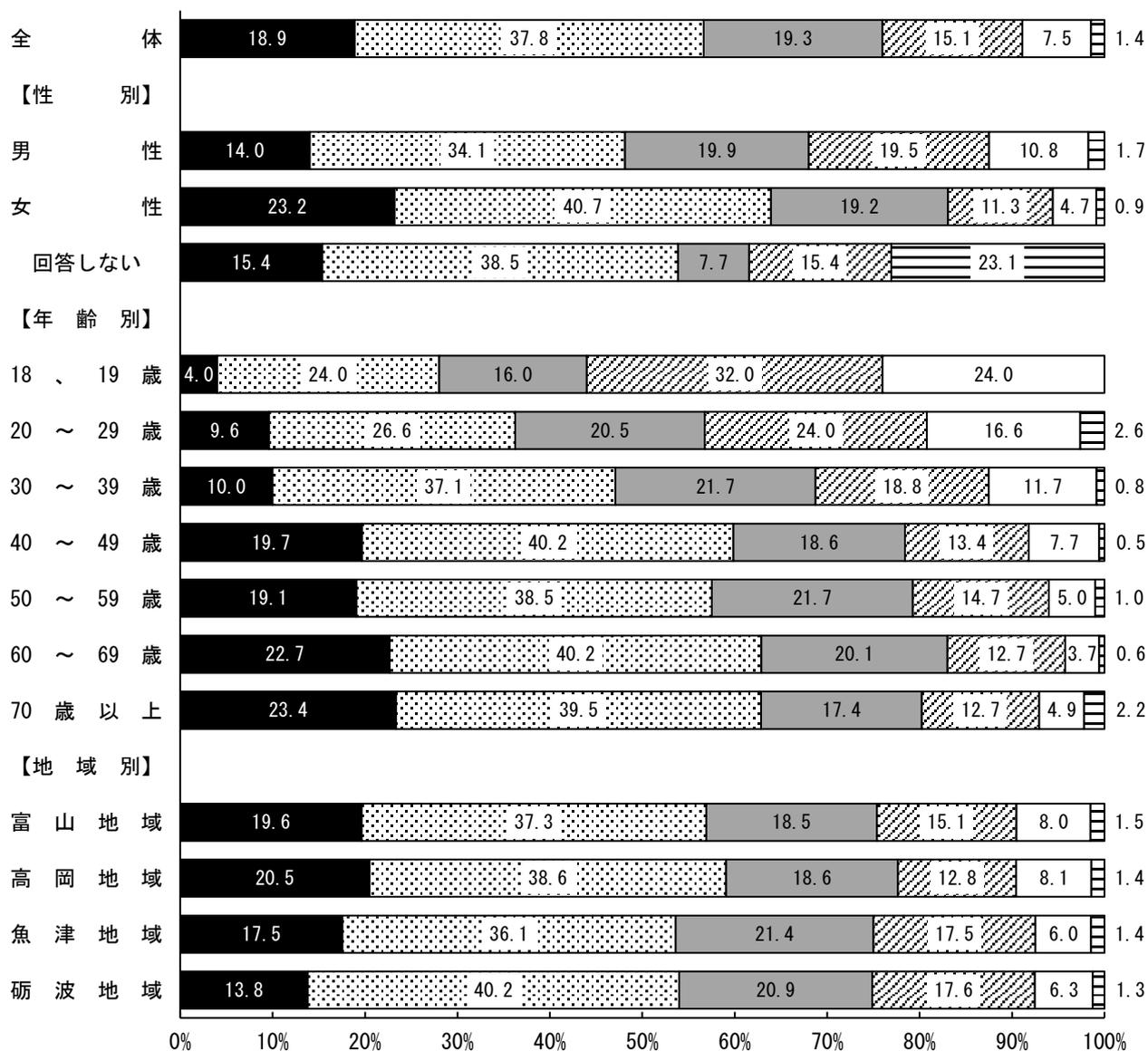
(ウ)年齢別

- ・『意識して購入するようにしている』は、概ね年代が高いほど高くなっている。

(エ)地域別

- ・「日頃から意識して購入するようにしている」は、「砺波地域」が 13.8%と他の地域と比べて低くなっている。

図表 45. 買い物をするとき、富山県産の農林水産物を意識して購入するように心がけているか



■ 日頃から意識して購入するようにしている	□ どちらかという意識して購入している
□ どちらともいえない	□ あまり意識して購入したことがない
□ 意識して購入したことがない	□ 無回答

<調査結果を受けて>

今回の調査結果では、富山県産の農林水産物を「日頃から意識して購入するようにしている」との回答（約19%）と「どちらかというと意識して購入している」との回答（約38%）と合わせて、約57%と、前回（令和元年度）調査時より増加がみられる。

県産農林水産物を意識して購入している割合を年代別にみると、「18、19歳」で約28%、20代で約36%と若者世代で特に低く、40代以上の年代では50%以上と比較的高い状況であり、若者世代への意識啓発が課題となっている。

このため、令和3年度に策定予定の「第3期とやま地産地消推進戦略」では、若者に対する地産地消の意識づけを強化していくこととしており、SNS等を活用した情報発信やキャンペーンを実施するほか、学校給食での県産食材の活用拡大を一層進めるとともに、栄養教諭による食育や生産者と連携した食農教育の充実を図ることとしている。

今後とも、県民の食を支える農林水産物の生産拡大と供給体制を強化するとともに、6次産業化等による高付加価値化と消費拡大に向けた気運の醸成など、生産者や流通業者など関係機関・団体等とも連携して、県民ぐるみの運動として、地産地消の一層の推進に努めていく。

(10) 食品ロスの削減について

<いま>

食品ロス削減は、国連のSDGs 持続可能な開発目標 で「2030年までに小売・消費レベルにおける世界全体の一人あたりの食料の廃棄を半減する」という目標が設定されており、世界的な課題となっている。県では、食品ロス・食品廃棄物の削減に取り組む県民総参加の運動を展開しているところであり、令和2年4月には、食品ロス削減の取組みを総合的に推進するため、「富山県食品ロス削減推進計画」を策定するとともに、令和2年12月には、「食品ロス削減全国大会」を本県で開催するなど、食品ロス削減の取組みの加速化を図っている。

我が国では、本来食べられるのに廃棄される「食品ロス」の排出量は、年間約570万トン（令和元年度農林水産省及び環境省推計）と試算されており、資源・環境等の観点から大きな問題となっている。

平成28年5月のG7富山環境大臣会合で採択された「富山物質循環フレームワーク」を踏まえ、県では、食品ロス・食品廃棄物の削減を進めるため、平成29年5月に有識者や事業者・消費者の関係団体などで構成する「富山県食品ロス・食品廃棄物削減推進県民会議」を設置した。平成30年11月には同会議のもとに「商慣習検討専門部会」を設置し、平成31年3月には、食品ロス発生の大きな要因とされている「1/3ルール」などの商慣習の見直しに向けて、全国に先駆けて食品関連事業者、消費者、行政による共同宣言を行うなど、県民総参加の運動として取り組んでいる。

国においては、「食品ロス削減推進法」のもと、国民運動としての食品ロスの削減が推進されるとともに、令和2年3月には、「食品ロス削減の推進に関する基本方針」が策定されるなど、取組みが一層強化されている。

本県においても、「富山県食品ロス削減推進計画」に基づき、

- ①食品ロス削減の取組みの情報発信
 - ②食材の使いきりや飲食店等での食べ残しを削減する食べきりの推進
 - ③フードバンク活動やフードドライブ等未利用食品の有効活用
- など、食品ロス削減の取組みの充実・強化を図っている。

【調査結果】

問 17 あなたは、「食品ロス」※が問題となっていることを知っていましたか。

次の中から当てはまるものを 1つ選んでください。

(ア)全体

- ・『問題となっていることを知っていた』（「よく知っていた」と「ある程度知っていた」を合算したもの）が 92.4%、『問題となっていることを知らなかった』（「あまり知らなかった」と「ほとんど・全く知らなかった」を合算したもの）が 6.6%となっている。

(イ)性別

- ・『問題となっていることを知っていた』は、「女性」が 94.6%と「男性」と比べて高くなっている。

(ウ)年齢別

- ・「よく知っていた」は「18、19 歳」が 56.0%と最も高く、「30～39 歳」が 35.8%と最も低くなっている。
- ・『問題となっていることを知っていた』は、すべての年代で 85.0%を超えているが、「20～29 歳」が 86.0%と最も低くなり、「40～49 歳」から「60～69 歳」が 95.0%前後と高くなっている。

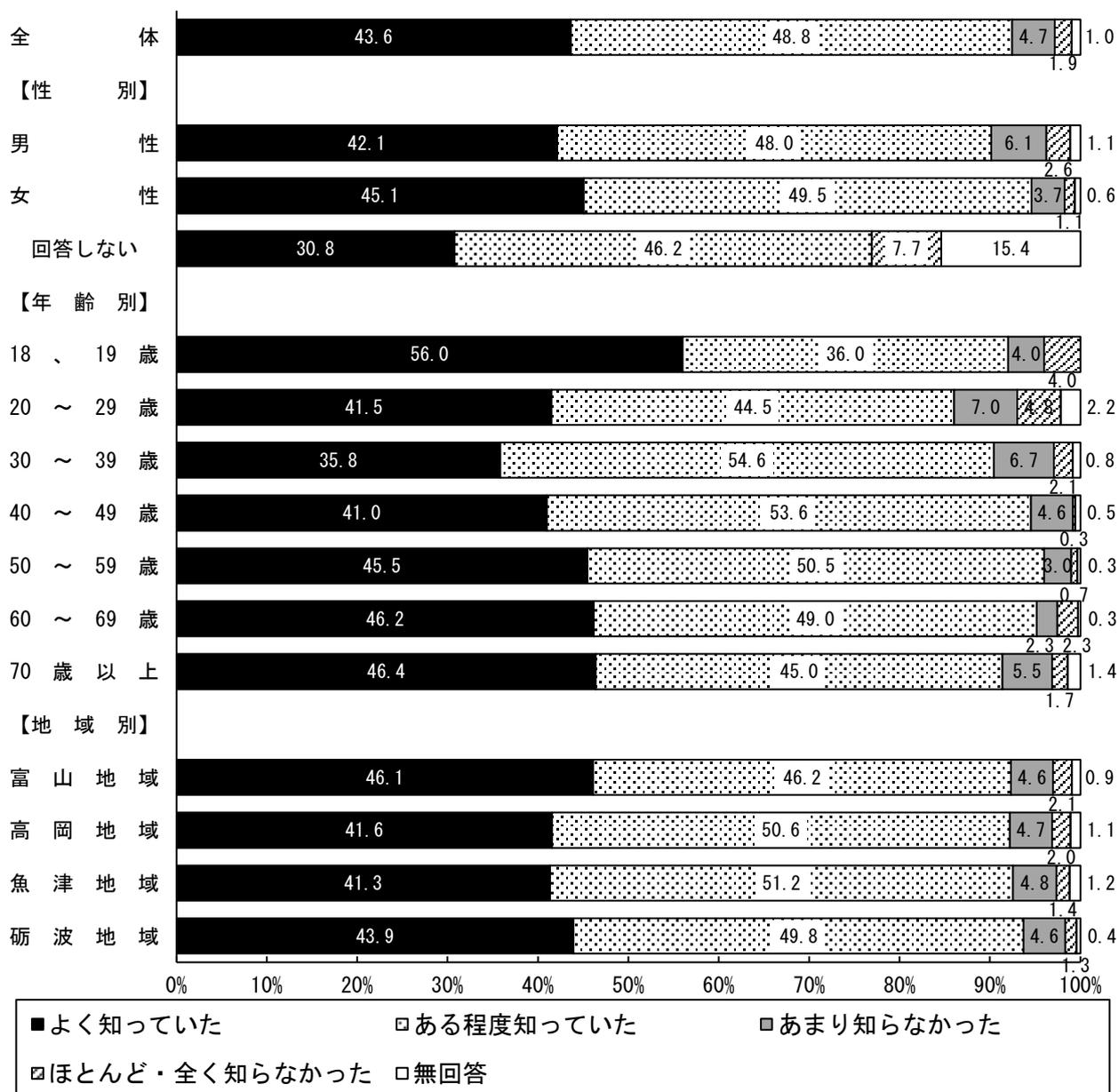
(エ)地域別

- ・地域間に大きな差はみられない。

※ 「食品ロス」とは、食べ残しや賞味期限切れの食品など、本来食べられる部分が捨てられたものです。また、「食品廃棄物」とは、食品ロスに加え、魚の骨や野菜の皮、調理油など、通常は食べられない部分も含んだものです。

日本では、年間約 570 万トンの食品ロスが排出されています（令和元年度農林水産省及び環境省推計）。本県では食品廃棄物は年間約 17.0 万トン、うち食品ロスは 4.3 万トンと試算され、資源・環境等の観点から大きな問題となっています。

図表 46. 食品ロス問題の認知度



問 18 「食品ロス」の軽減につながる以下の工夫の中で、あなたが取り組んでいることはありますか。
次の中から当てはまるものをすべて選んでください。

(ア)全体

- ・「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」が 71.6%と最も高く、次いで「残さず食べる」が 67.8%、「小分け商品、少量パック商品、バラ売り等、食べきれぬ量を購入する」が 60.8%となっている。
- ・「宴会等の食べ残しを減らすため、宴会の開始後 30 分と終了前 15 分に食事を楽しむ時間を設定する（3015 運動を実施する）」が 5.5%、「フードドライブに協力する」が 2.6%となっている。

(イ)性別

- ・「女性」は、概ねすべての項目で「男性」と比べて高くなっているが、「残さず食べる」、「宴会等の食べ残しを減らすため、宴会の開始後 30 分と終了前 15 分に食事を楽しむ時間を設定する（3015 運動を実施する）」、「その他」は、「男性」と比べて若干低くなっている。
- ・「日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する」は、「女性」が 56.7%に対し、「男性」が 35.1%と「女性」が 21.6 ポイント高くなっている。

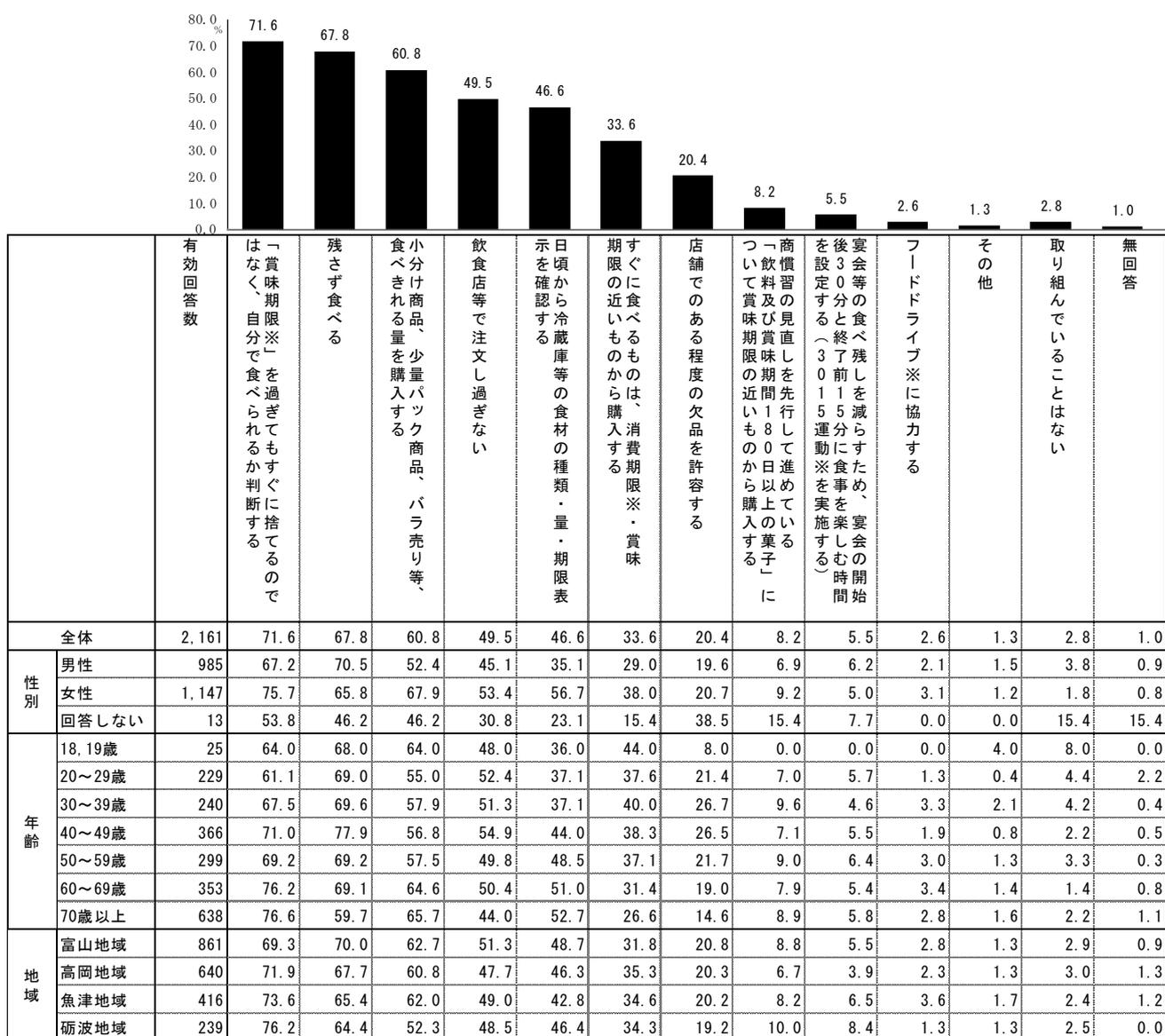
(ウ)年齢別

- ・「小分け商品、少量パック商品、バラ売り等、食べきれぬ量を購入する」は、「18、19 歳」が 64.0%、「60～69 歳」が 64.6%、「70 歳以上」が 65.7%と他の年代と比べて高くなっている。
- ・「日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する」は、年代が高いほど高くなっている。
- ・「残さず食べる」は、「40～49 歳」が 77.9%と他の年代と比べて高くなっている。

(エ)地域別

- ・「残さず食べる」は、「富山地域」が 70.0%と最も高くなっている。
- ・「日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する」は、「魚津地域」が 42.8%と他の地域と比べて低くなっている。
- ・「砺波地域」は、「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」が 76.2%と他の地域と比べて高く、「小分け商品、少量パック商品、バラ売り等、食べきれぬ量を購入する」が 52.3%と他の地域と比べて低くなっている。

図表 47. 「食品ロス」削減に向けた取組み(N=2,161、M.T.=371.6%)



※「消費期限」は、開封していない状態で、表示されている保存方法に従って保存したときに、表示の年月日まで、安全に食べられる期限のことで、この期限を過ぎたら食べないほうが良いとされています。「賞味期限」は、開封していない状態で、表示されている保存方法に従って保存したときに、おいしく食べることができる期限のことで、この期限を過ぎても、すぐに食べられなくなるということではありません。

※「3015(さんまるいちご)運動」とは、立山の標高3015mにちなみ、「30」と「15」をキーワードにした富山型の食品ロス削減運動です。

[食べきり3015運動]: 宴会時において、開宴会後30分と終了前15分に自席で料理を楽しむ時間を設定し、食べきる運動です。

[使いきり3015運動]: 毎月30日と15日に家庭の冷蔵庫等をチェックし、食材を使いきる運動です。

※「フードドライブ」とは、家庭で余っている食品を集めて、食品を必要としている福祉団体やこども食堂などに寄付する活動です。

<調査結果を受けて>

今回の調査結果では、「よく知っていた」と「ある程度知っていた」を合わせた「食品ロスが問題となっていることを知っていた」人の割合は92.4%で昨年度(84.0%)に比べ8.4ポイントアップし、特に20歳代の伸びが著しかった(72.7%から86.0%)。今後、さらなる認知度の向上を図るため、幅広い世代への働きかけを行ってまいりたい。

食品ロスの軽減につながる取組みの中で、「店舗でのある程度の欠品を許容する」、「商慣習の見直しを先行して進めている『飲料及び賞味期間180日以上菓子』について賞味期限の近いものから購入する」、「宴会時の食べ残しを減らすため、『3015運動』などの取組みを実践する」、「フードドライブに協力する」と回答した人の割合が低いことから、期限の近接した商品の優先購入や未利用食品の有効活用の促進、宴会時等の食べきり運動の一層の推進に取り組んでまいりたい。

(11) 犯罪の予防について

<いま>

県警察では、「日本一安全で安心して暮らせるとやまの実現」を目指して、県民の安心感が得られる効果的な警察活動に努めるとともに、犯罪検挙及び犯罪抑止等の各種活動を推進している。

県内の刑法犯認知件数は、平成 13 年のピーク時から約 4 分の 1 に減少しており、とりわけ自転車盗、車上ねらい、器物損壊等の主要街頭犯罪は大きく減少している。

一方で、情報技術の発展や社会情勢の変化に伴い、被疑者と被害者が対面せずに敢行される特殊詐欺やサイバー犯罪、家族等私的な関係の中で発生することが多いストーカー・DV 事案、児童虐待のほか、子ども・女性に対する声掛け事案など、犯罪の態様や手口は複雑化しており、予断を許さない情勢にある。

【調査結果】

問 19-1 あなたは、自分や家族が、犯罪の被害に遭うのではないかと不安を感じることがありますか。
次の中から1つを選んでください。

(ア)全体

- ・『不安を感じることがある』（「よくある」と「たまにある」を合算したもの）が 57.3%、『不安を感じることがない』（「ほとんどない」と「まったくない」を合算したもの）が 41.4%となっている。

(イ)性別

- ・「たまにある」は、「女性」が 52.2%に対し、「男性」が 46.9%と「女性」が 5.3 ポイント高くなっている。
- ・一方で、「回答しない」を選択した方の 38.5%が「よくある」と回答している。

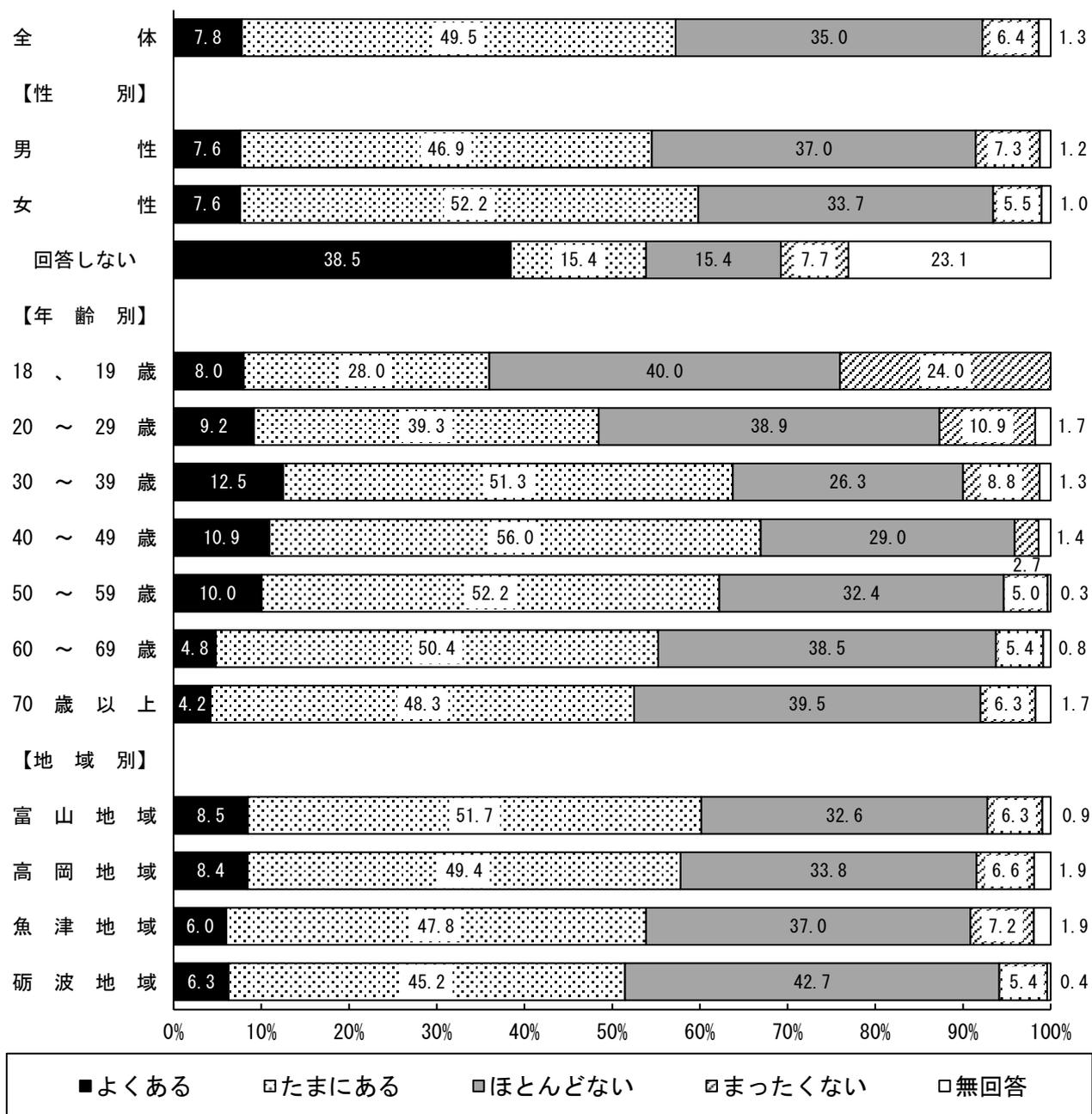
(ウ)年齢別

- ・『不安を感じることがある』は、「18、19 歳」が 36.0%と最も低く、最も高い「40～49 歳」が 66.9%と年代が高いほど高くなり、「50～59 歳」以上は年代が高いほど低くなっている。

(エ)地域別

- ・『不安を感じることがある』は「富山地域」が 60.2%と最も高く、「砺波地域」が 51.5%と最も低くなっている。

図表 48. 犯罪の被害に遭うことへの不安感



問19-2 問19-1で「1. よくある」「2. たまにある」と回答された方にお尋ねします。

どのような犯罪に不安を感じますか。次の中から5つ以内で選んでください。

(ア)全体

- ・「空き巣等の住宅に侵入して物を盗む犯罪」が53.0%と最も高く、次いで「振り込め詐欺をはじめとした特殊詐欺」が47.1%、「インターネットを利用したワンクリック詐欺やオークション詐欺等の経済犯罪」が44.1%となっている。

(イ)性別

- ・「男性」、「女性」とともに「空き巣等の住宅に侵入して物を盗む犯罪」が最も高くなっている。
- ・「男性」は、「振り込め詐欺をはじめとした特殊詐欺」が51.4%、「暴行、傷害等の粗暴な犯罪」が25.1%、「ごみの不法投棄等の環境犯罪」が17.5%、「外国人による犯罪」が14.2%と、「女性」と比べて高くなっている。
- ・「女性」は、「子供に対する犯罪」が32.4%、「高齢者に対する犯罪」が23.6%、「不審な声掛けやつきまとい事案、痴漢事案」が20.6%、「偽造クレジットカード等を利用したカード犯罪」が20.4%、「女性に対する犯罪」が19.0%と、「男性」と比べて高くなっている。

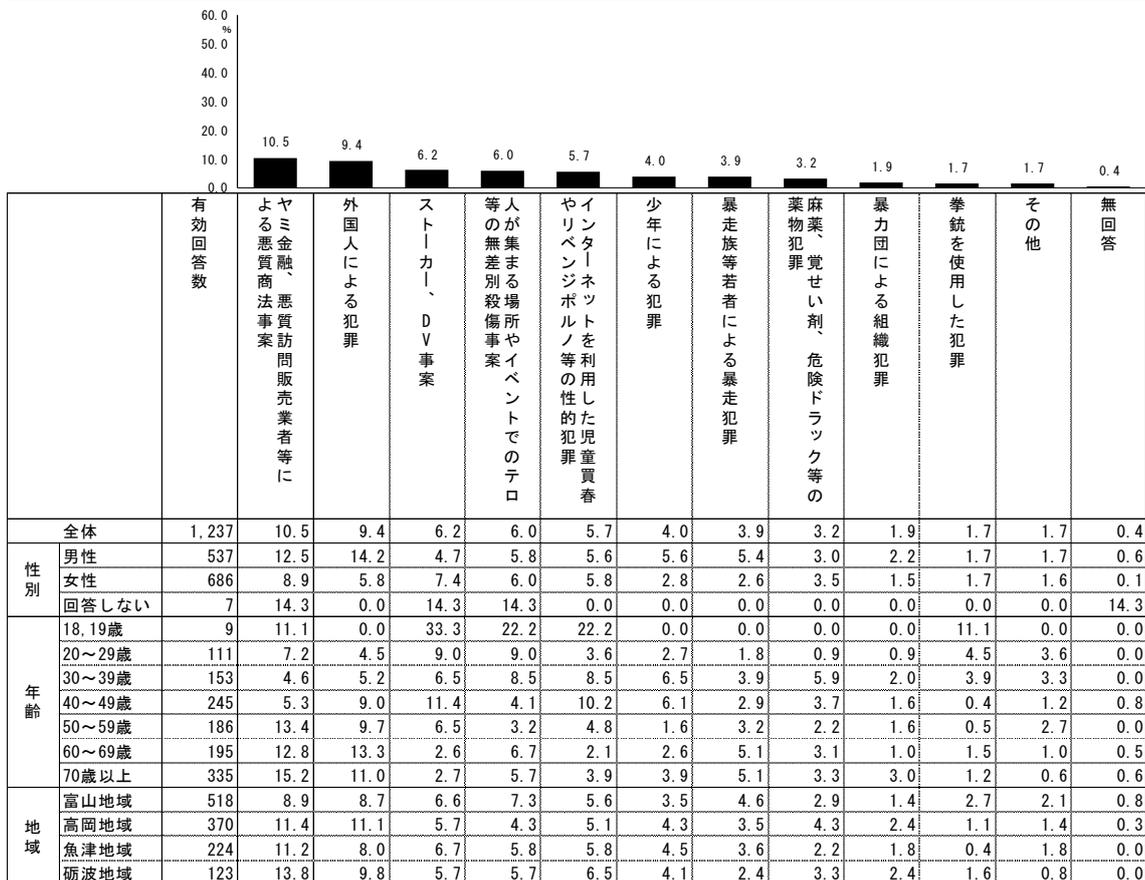
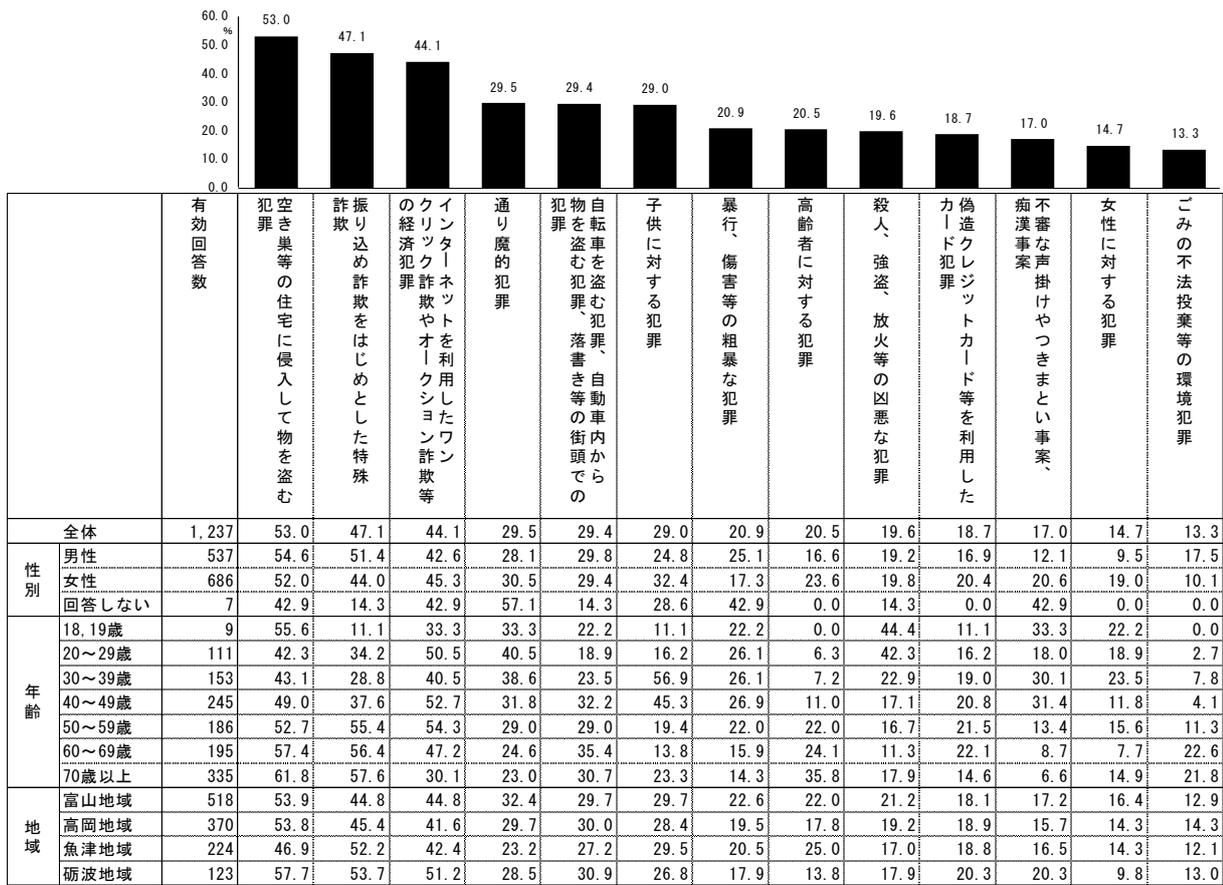
(ウ)年齢別

- ・「殺人、強盗、放火等の凶悪な犯罪」は、「18、19歳」が44.4%、「20～29歳」が42.3%と他の年代と比べて高くなっている。
- ・「子供に対する犯罪」は、「30～39歳」が56.9%、「40～49歳」が45.3%と他の年代と比べて高くなっている。
- ・「高齢者に対する犯罪」は、「70歳以上」が35.8%と他の年代と比べて高くなっている。

(エ)地域別

- ・「魚津地域」は、「空き巣等の住宅に侵入して物を盗む犯罪」が46.9%、「通り魔的犯罪」が23.2%と他の地域と比べて低くなっている。
- ・「砺波地域」は、「インターネットを利用したワンクリック詐欺やオークション詐欺等の経済犯罪」が51.2%と他の地域と比べて高く、「高齢者に対する犯罪」が13.8%と他の地域と比べて低くなっている。

図表 49. 不安を感じる犯罪(N=1,237、M.T.=411.2%)



<調査結果を受けて>

犯罪被害に不安を感じる人の割合が、前回（令和元年度）より 3.1%増加するとともに、不安を感じる犯罪 24 種のうち、20 種について前回より不安を感じている人の割合が増加している。

また、自転車盗、車上ねらい、器物損壊等の主要街頭犯罪の認知件数は減少しているものの、不安を感じる人の割合が前回より 8.3%増加している。

県警察では、引き続き、犯罪に対する検挙活動を徹底するとともに、県や関係機関・団体と連携し、犯罪発生実態を踏まえたパトロールや「安全情報ネット」を活用した情報発信のほか、施錠の呼び掛けや防犯カメラの設置促進、特殊詐欺に対する広報啓発活動や被害の未然防止対策、産学官連携によるサイバーセキュリティ対策など、総合的な犯罪抑止対策を推進し、県民の不安感の解消に努めてまいりたい。

3. 意識調査

問 20 次の設問について、あなたが普段どのように感じられたり、どのように思ったりされているかお聞かせください。

(1) あなたは、富山県は住みよい県だと思いますか。次の中から1つ選んでください。

(ア)全体

- ・「非常に住みよい」が28.6%、「まあまあ住みよい」が63.8%、「やや住みにくい」が5.1%、「住みにくい」が1.5%となっている。
- ・『住みよい』（「非常に住みよい」と「まあまあ住みよい」を合算したもの）が9割以上（92.4%）を占めている。

(イ)男女別

- ・男女間に大きな差はない。

(ウ)年齢別

- ・『住みよい』は「18歳、19歳」が96.0%と最も高く、「20～29歳」、「30～39歳」が9割弱、「40～49歳」、「60～69歳」が9割強、「50～59歳」、「70歳以上」が95.0%以上となっている。

(エ)地域別

- ・「非常に住みよい」は魚津地域が34.6%と最も高くなっているが、『住みよい』は「砺波地域」が95.4%と最も高くなっている。

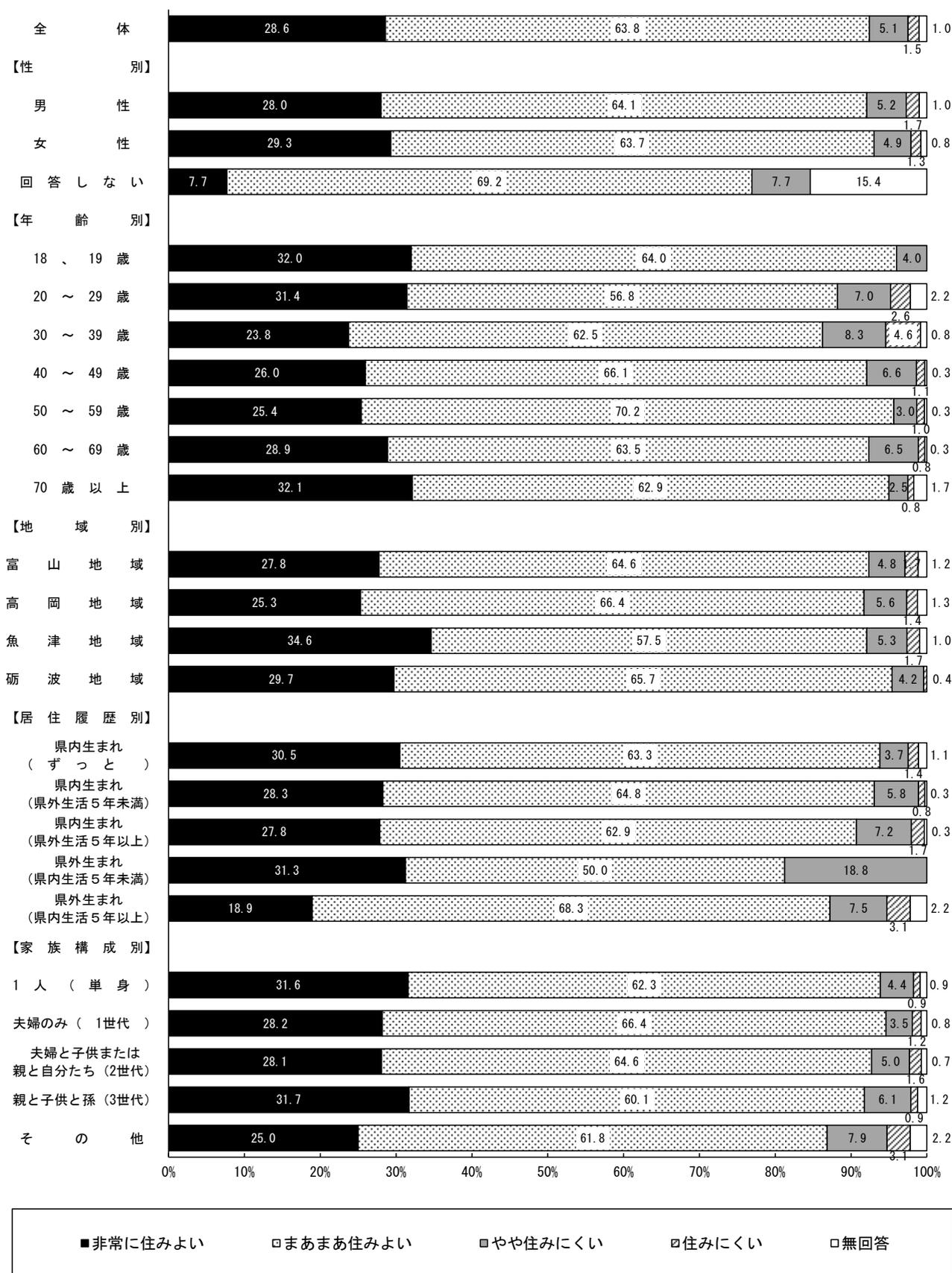
(オ)居住履歴別

- ・「非常に住みよい」は、「県外生まれ（県内生活5年未満）」が31.3%と最も高くなっている。
- ・『住みよい』は、県内生まれが県外生まれと比べて高くなっている。
- ・『住みよい』は、「県外生まれ（県内生活5年未満）」が81.3%に対し、「県外生まれ（県内生活5年以上）」が87.2%となっている。

(カ)家族構成別

- ・「非常に住みよい」は「親と子どもと孫（3世代）」が31.7%と最も高く、『住みよい』は「夫婦のみ（1世代）」が94.6%と最も高くなっている。

図表 50. 富山県の住みよさ



(2) これからも富山県に住みたいと思われませんか。次の中から1つ選んでください。

(通学、転勤等により県外に転出される予定がある方についても、ご自身の意識としてお答えください。)

(ア)全体

・「これからも富山県に住みたいと思う」が83.0%、「県外に転出したいと思う」が4.1%となっている。

(イ)男女別

・男女間に大きな差はみられない。

(ウ)年齢別

・「これからも富山県に住みたいと思う」は、「20～29歳」が6割超、「18、19歳」、「30～39歳」が7割超、「40～49歳」が8割超、「70歳以上」が9割超となっている。

(エ)地域別

・地域間に大きな差はみられないが、「これからも富山県に住みたいと思う」は、すべての地域で8割以上となっている。

(オ)職業別

・「これからも富山県に住みたいと思う」は、「商工サービス業」が91.7%と最も高く、「学生」が65.3%と最も低くなっている。
・「県外に転出したいと思う」は、「学生」が11.6%と他の職業と比べて高くなっている。

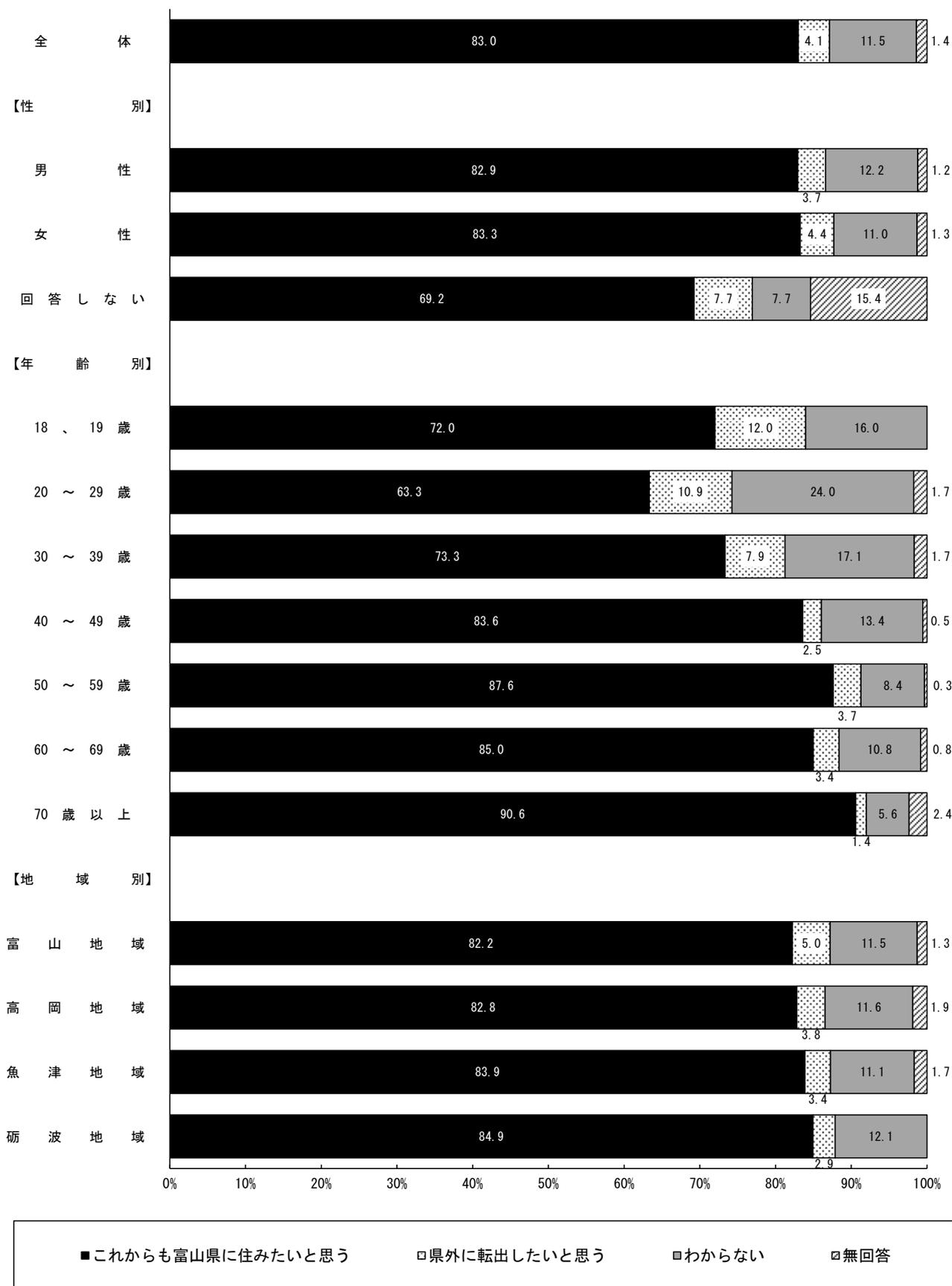
(カ)居住履歴別

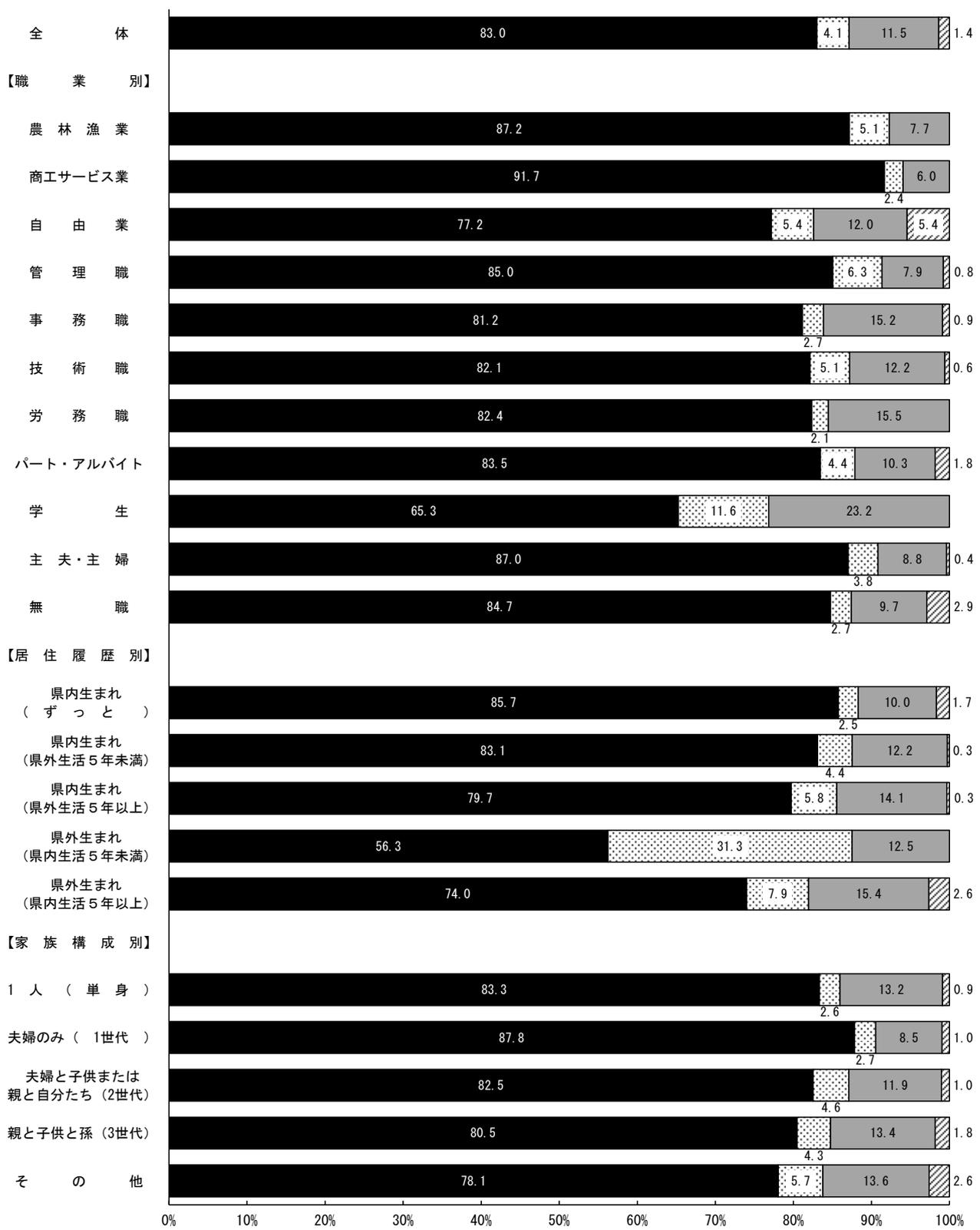
・「これからも富山県に住みたいと思う」は、県内生まれが県外生まれと比べて高くなっている。
・「県外に転出したいと思う」は、「県外生まれ（県内生活5年未満）」が31.3%と他の居住履歴と比べて高くなっている。

(キ)家族構成別

・「これからも富山県に住みたいと思う」は、「夫婦のみ（1世代）」が87.8%と他の家族構成と比べて高くなっている。

図表 51. 富山県への継続した居住意向





これからも富山県に住みたいと思う
 県外に転出したいと思う
 わからない
 無回答

(3) あなたは、仕事に充実感（満足感）を感じていますか。次の中から1つ選んでください。

(ア)全体

- ・『充実している』（「非常に充実している」と「まあまあ充実している」を合算したもの）が44.4%、『充実していない』（「あまり充実していない」と「充実していない」を合算したもの）が10.5%となっている。

(イ)男女別

- ・『充実している』は、「男性」が45.7%と「女性」と比べて若干高くなっている。

(ウ)年齢別

- ・『充実している』は、「40～49歳」が54.6%と最も高くなっている。

(エ)地域別

- ・『充実している』は、「砺波地域」が47.3%と最も高くなっている。

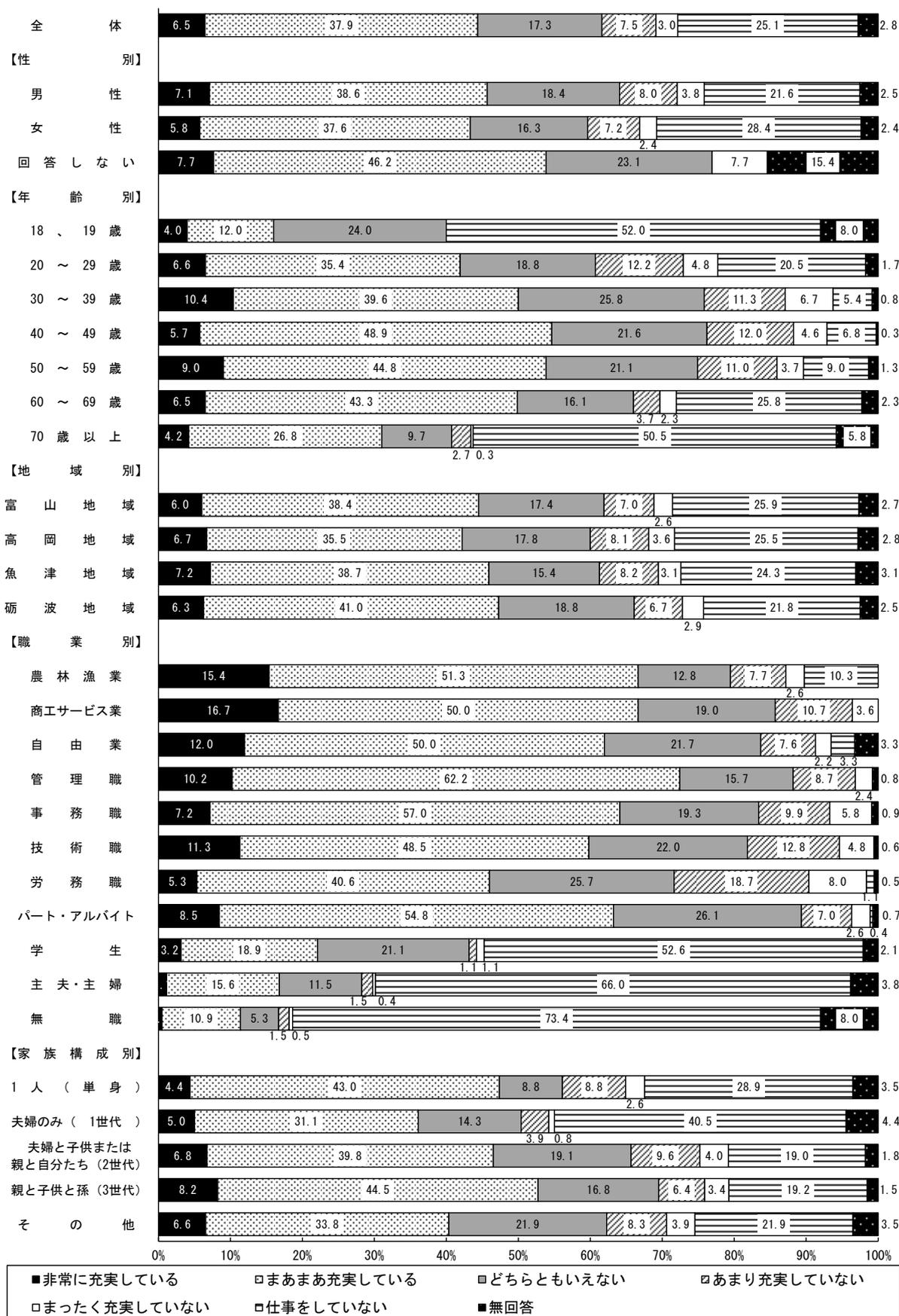
(オ)職業別

- ・「非常に充実している」は「商工サービス業」が16.7%と最も高く、『充実している』は、「管理職」が72.4%と最も高くなっている。

(カ)家族構成別

- ・『充実している』は、「親と子供と孫（3世代）」が52.7%と最も高くなっている。

図表 52. 仕事の充実感(満足感)



(4) あなたは「富山県」に対して、どの程度愛着を感じていますか。次の中から1つ選んでください。

(ア)全体

- ・『愛着がある』（「とても愛着がある」と「やや愛着がある」を合算したもの）が83.7%、『愛着がない』（「あまり愛着がない」と「まったく愛着がない」を合算したもの）が3.9%となっている。

(イ)男女別

- ・「とても愛着がある」は、「女性」が42.1%と「男性」と比べて高くなっている。

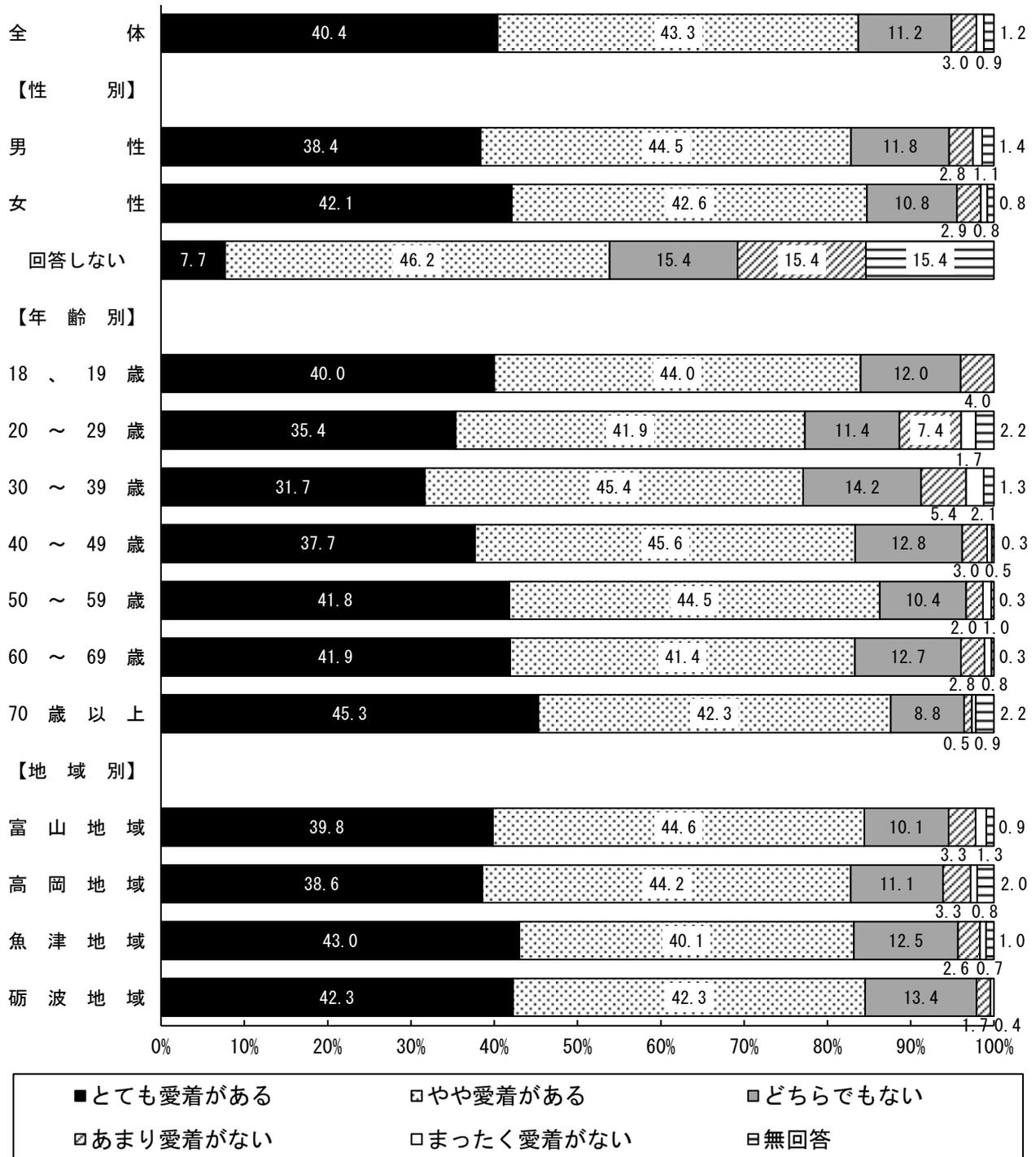
(ウ)年齢別

- ・『愛着がある』は、「20～29歳」、「30～39歳」が8割弱、それ以外の年代で8割以上となっている。

(エ)地域別

- ・すべての地域で『愛着がある』が8割を超えている。

図表 53. 富山県への愛着



(5) あなたは富山県のどのような点を誇りに思いますか。次の中からいくつでも選んでください。

(ア)全体

- ・「海・山・川・湖などの自然が豊かなこと」が 89.0%と最も高く、次いで「食事おいしいこと」が 69.3%、「災害が少ない、治安や防災がしっかりしていること」が 62.4%、「地元産の食材が豊富なこと」が 53.2%の順となっている。

(イ)男女別

- ・男女間で差が大きい項目を見ると、「地元産の食材が豊富なこと」は、「男性」が 48.6%に対し、「女性」が 57.5%と「女性」が 8.9 ポイント高く、「土産や地域産品があること」は、「男性」が 17.8%に対し、「女性」が 23.8%と「女性」が 6.0 ポイント高くなっている。

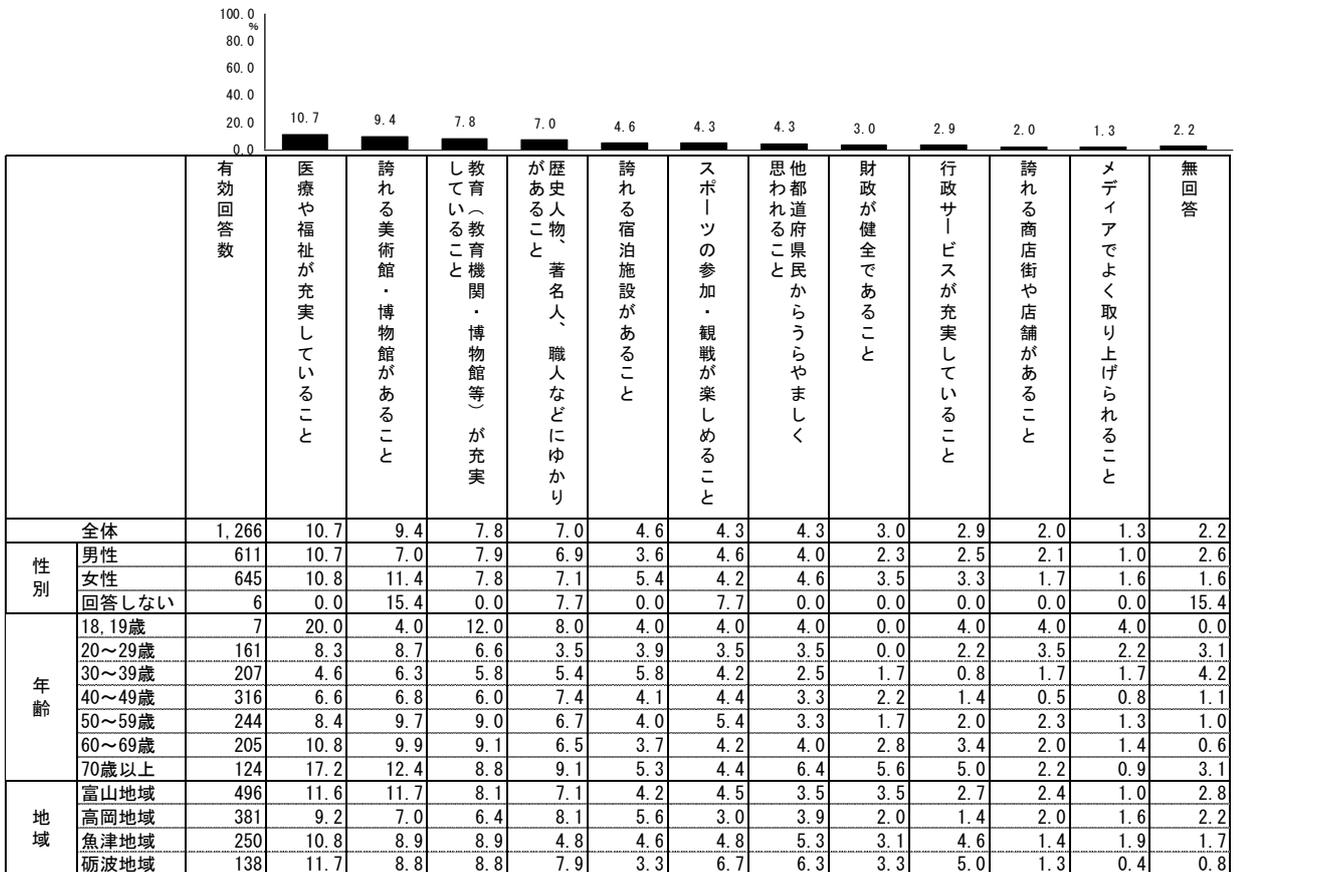
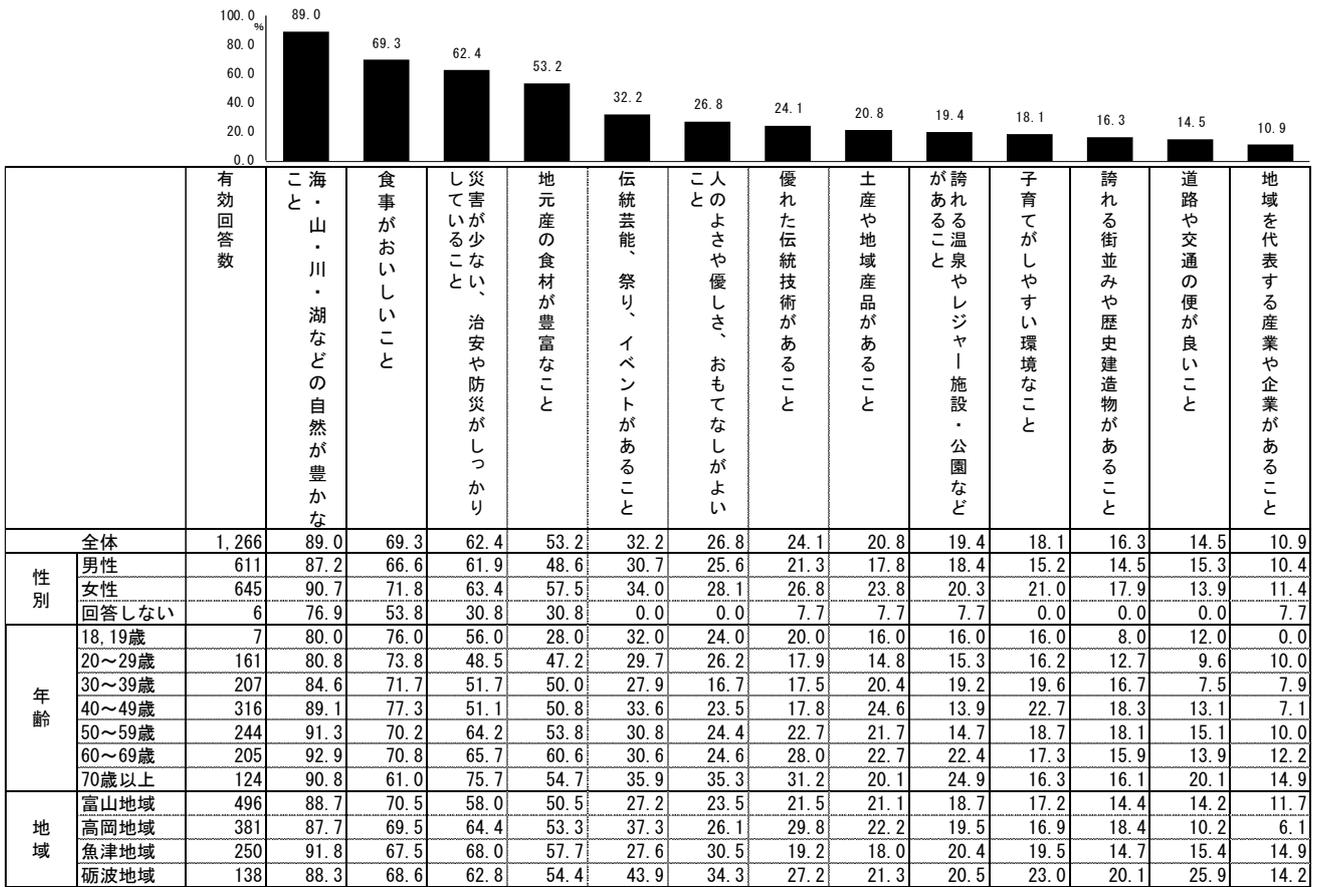
(ウ)年齢別

- ・「海・山・川・湖などの自然が豊かなこと」は、すべての年代で最も高くなっている。
- ・「食事おいしいこと」は、「18、19 歳」から「60～69 歳」までの年代で 2 番目に高くなっているが、「70 歳以上」では、「災害が少ない、治安や防災がしっかりしていること」が 2 番目に高くなっている。

(エ)地域別

- ・「海・山・川・湖などの自然が豊かなこと」は、すべての地域で最も高くなっている。
- ・「災害が少ない、治安や防災がしっかりしていること」は、「魚津地域」が 68.0%と他の地域と比べて高くなっている。
- ・「伝統芸能、祭り、イベントがあること」は、「砺波地域」が 43.9%と他の地域と比べて高くなっている。
- ・「人のよさや優しさ、おもてなしがよいこと」は、「砺波地域」が 34.3%と他の地域と比べて高くなっている。
- ・「優れた伝統技術があること」は、「高岡地域」が 29.8%と他の地域と比べて高くなっている。

図表 54. 富山県の誇りに思う点 (N=1,266、M.T.=516.7%)



(6) 県内には、自然、歴史、文化、特産品など多くの魅力や地域資源がありますが、県外 の知人、友人等に自信をもって紹介したり、奨めたりできるものがありますか。次の中から1つ選んでください。

(ア)全体

- ・「たくさんある」が23.5%、「少しはある」が66.8%、「ない」が7.8%となっている。
- ・『ある』（「たくさんある」と「少しはある」を合算したもの）が約9割を占めている。

(イ)男女別

- ・「たくさんある」は、「女性」が26.4%に対し、「男性」が20.3%と「女性」が6.1ポイント高くなっている。

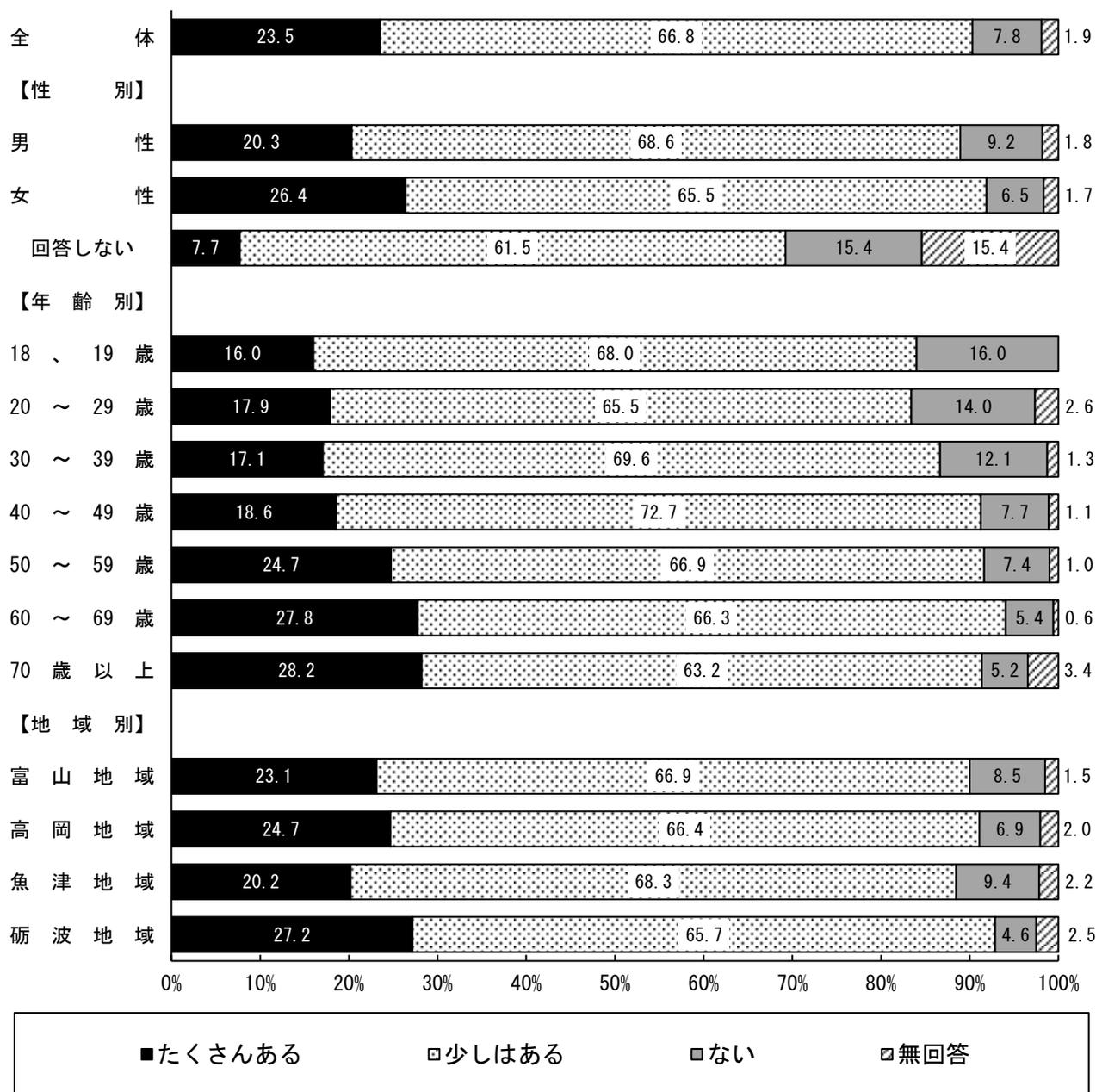
(ウ)年齢別

- ・「たくさんある」は、「18、19歳」が16.0%と最も低く、概ね年代が高くなるにつれ高くなっており、「50～59歳」以上で2割を超え、「70歳以上」が28.2%と最も高くなっている。

(エ)地域別

- ・「たくさんある」は、「砺波地域」が27.2%と最も高くなっている。

図表 55. 県外へ紹介できるもの



(7) あなたは、県内において、音楽や演劇、美術など芸術文化に親しむ機会が充足されていると思いますか。次の中から1つ選んでください。

(ア)全体

- ・『充足されている』（「十分に充足されている」と「ある程度充足されている」を合算したもの）が 38.1%、
『充足されていない』（「あまり充足されていない」と「まったく充足されていない」を合算したもの）が 44.9%
となっている。

(イ)男女別

- ・『充足されている』は、「女性」が 40.3%と「男性」と比べて高くなっている。

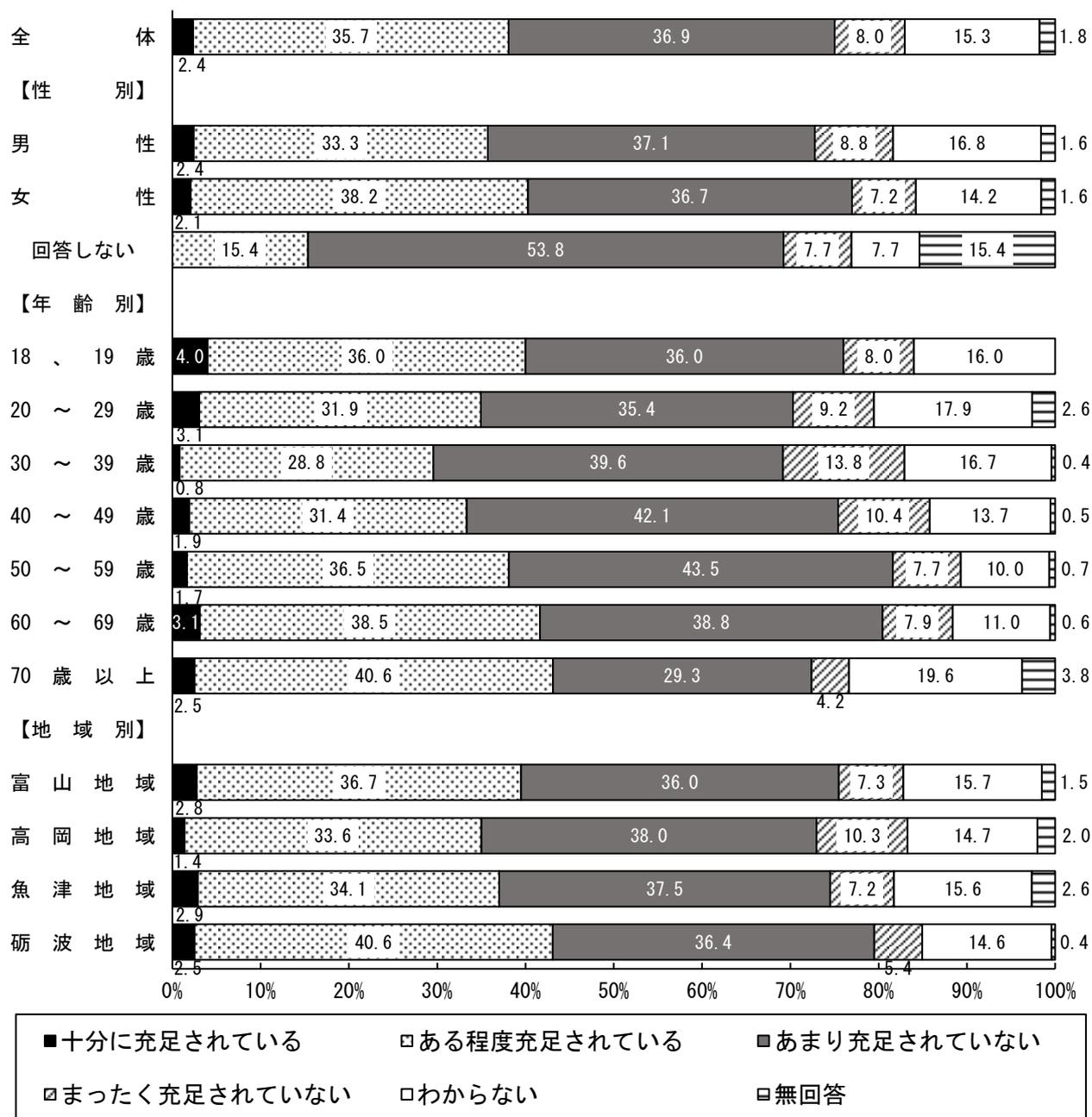
(ウ)年齢別

- ・『充足されている』は、「30～39 歳」以上で年代が高くなるにつれ高くなっている。

(エ)地域別

- ・『充足されている』は、「砺波地域」が 43.1%と最も高く、『充足されていない』は、「高岡地域」が 48.3%
と最も高くなっている。

図表 56. 芸術文化に親しむ機会



(8) 最近の家庭は、しつけや望ましい生活習慣づくりなど、子どもの教育において、役割を果たしていると思いますか。次の中から1つ選んでください。

(ア)全体

- ・『果たしている』（「十分に果たしている」と「ある程度果たしている」を合算したもの）が43.7%、『果たしていない』（「あまり果たしていない」と「まったく果たしていない」を合算したもの）が39.3%となっている。
- ・「十分に果たしている」は2.5%となっている。

(イ)男女別

- ・『果たしている』は、「女性」が48.3%に対し、「男性」が38.7%と「女性」が9.6ポイント高くなっている。

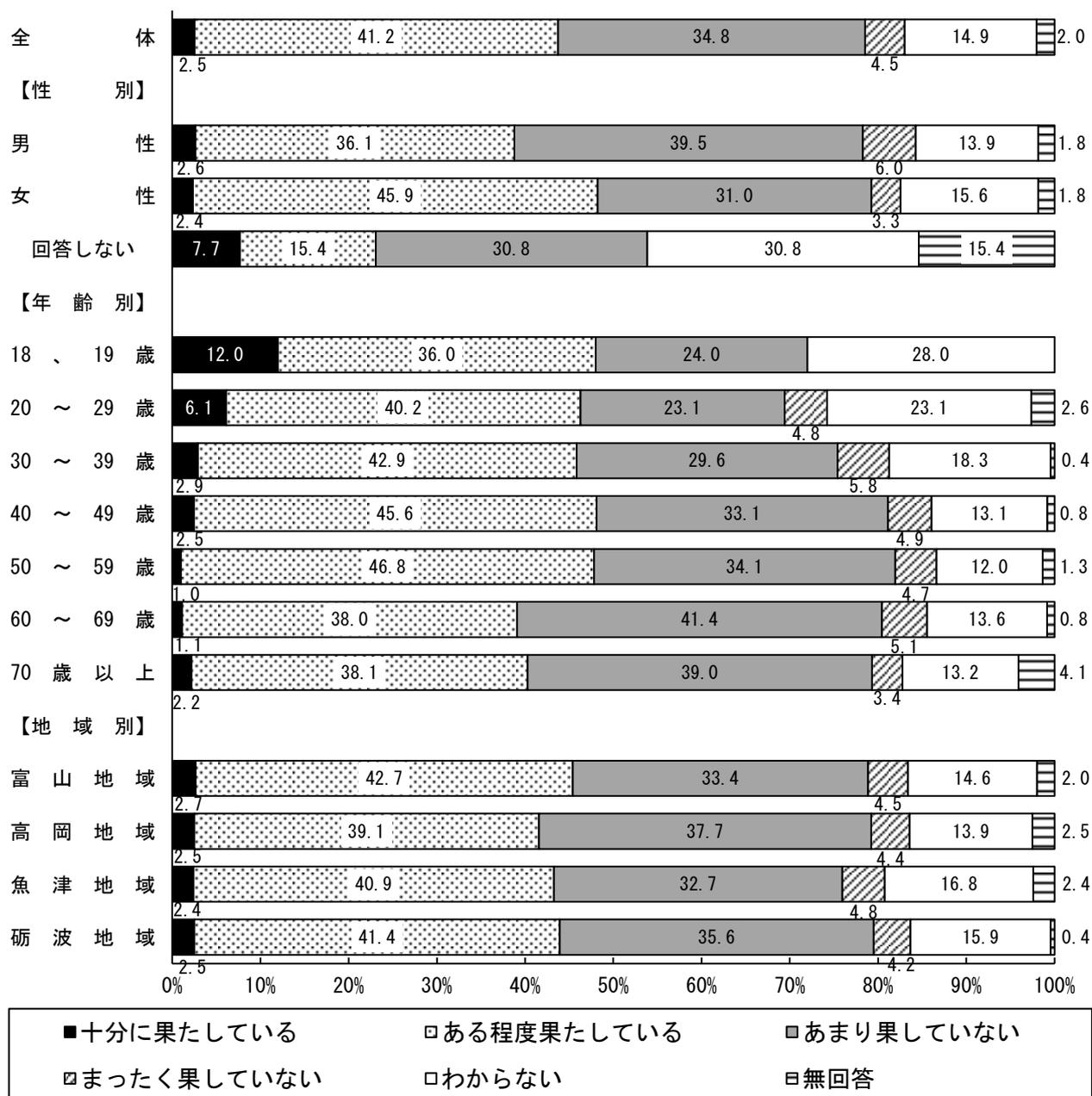
(ウ)年齢別

- ・『果たしている』は、「40～49歳」が48.1%と最も高く、「60～69歳」が39.1%と最も低くなっている。

(エ)地域別

- ・『果たしている』は、「富山地域」が45.4%と最も高くなっている。

図表 57. 子どもの教育における家庭の役割



(9) あなたは、過去1年間に、生涯学習 ※を行ったことがありますか。次の中から1つ選んでください。

(ア)全体

- ・生涯学習を行ったことが「ある」が29.7%、「ない」が67.9%となっている。

(イ)男女別

- ・男女間に大きな差はみられない。

(ウ)年齢別

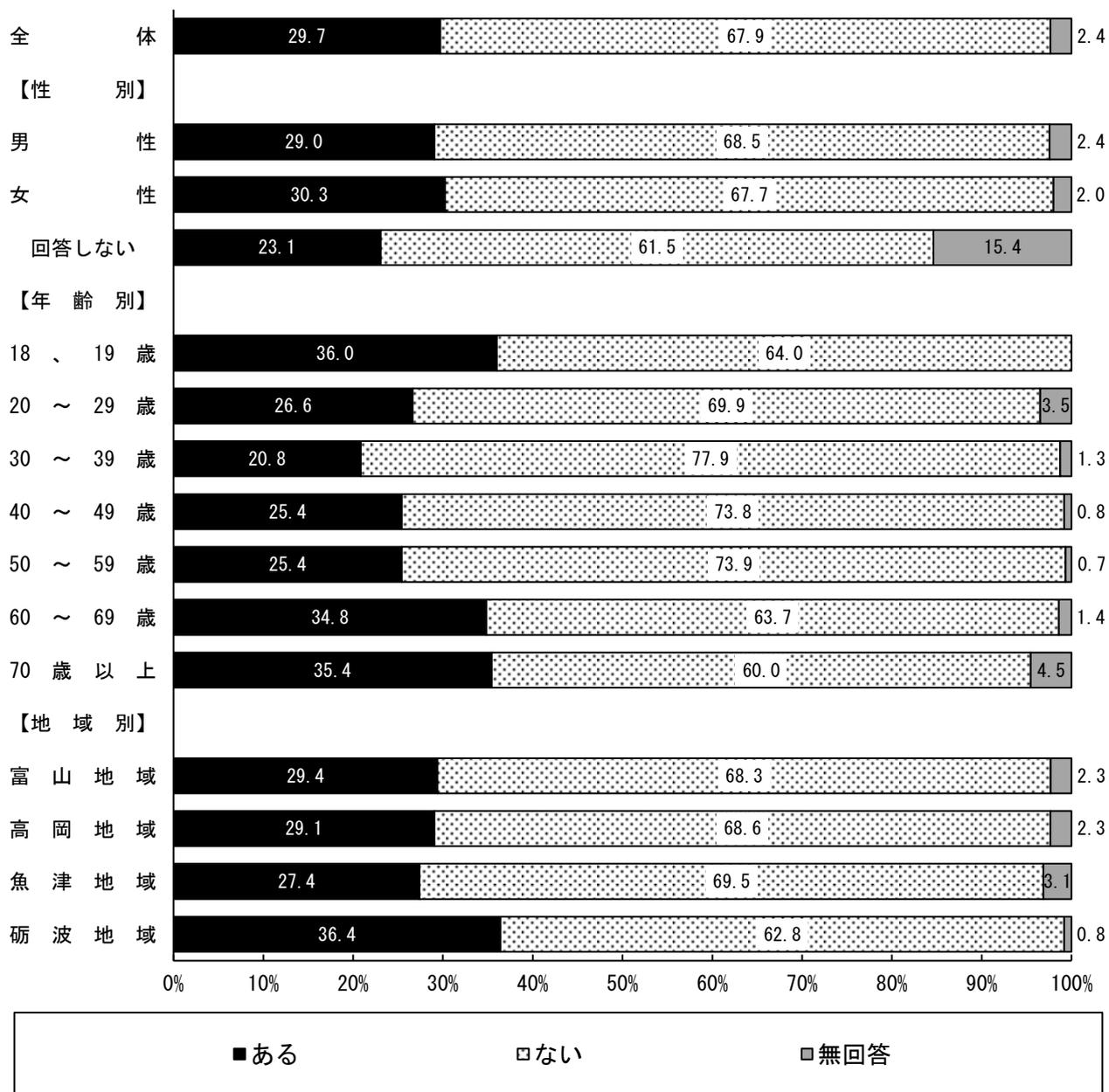
- ・生涯学習を行ったことが「ある」は、「18、19歳」、「60～69歳」以上で3割を超えており、他の年代と比べて高くなっている。

(エ)地域別

- ・生涯学習を行ったことが「ある」は、「砺波地域」が36.4%と最も高くなっている。

※ 生涯学習とは、生涯のいつでも、どこでも、自由に行う学習活動のことで、学校教育や公民館における社会教育などの学習機会に限らず、自分から進んで行う学習やスポーツ、文化活動、趣味、ボランティア活動などにおけるさまざまな学習活動のことをいいます。

図表 58. 過去1年間における生涯学習の経験



(10) あなたが住んでいる地域の活動に参加していますか。次の中から1つ選んでください。

(ア)全体

- ・『参加している』（「積極的に参加している」と「ときどき参加している」を合算したもの）が58.8%、「参加していないが、今後は参加したい」が18.8%、「参加していないし、今後も参加したくない」が20.6%となっている。

(イ)男女別

- ・『参加している』は、「男性」が65.4%に対し、「女性」が53.3%と「男性」が12.1ポイント高くなっている。
- ・「参加していないし、今後も参加したくない」は、「女性」が22.2%と「男性」と比べて高くなっている。

(ウ)年齢別

- ・『参加している』は、「60～69歳」が69.1%と最も高く、「20～29歳」が33.2%と最も低くなっている。

(エ)地域別

- ・『参加している』は、「砺波地域」が76.2%と他の地域と比べて突出して高くなっている。

